

福井大学留学生センター

自己点検・評価報告書

平成19～21年度

福井大学留学生センター

平成23年2月

はじめに

留学生センター長 寺岡英男

2010年4月から前任の中川英之先生から引き継ぎ、留学生センター長を務めさせていただいております。

福井大学留学生センターは、平成15年4月に設置されました。現在、留学生数は研究生、特別聴講生も入れれば、230名余に上ります。そうした留学生に対して留学生センターは、教育の面では日本語研修コースや短期留学プログラムなどを中心とした取組みを、支援面では、多様な交流活動や相談、就職支援などの取組みを進めてきています。また、行政や経済界さらには民間の間での社会貢献活動にも取り組んでいるところです。

ところで、高等教育はユニバーサル化とグローバル化の時代を迎える中、その教育の質保証が求められています。ユニバーサル化という面では、学生の学力や意欲の低下ということを受けて、どう教育を再構築するかということが課題ですし、グローバル化という面からは、国際的な双方向の交流を通しての質保証が求められています。産業界が求めているのも、語学的な能力はもちろんです。社会的に自立した人格というものを求めており、それに応える大学教育の再構築ということが課題となっているわけです。

ところが2009年のデータをみても、留学生の受け入れは13万人を超えているにも拘わらず、他方の海外に留学する日本人の学生は約7万5千人と減少傾向にあります。これからの時代、アジアでの双方向の交流ということは大きな課題になってきていますが、韓国やASEAN10か国からの留学生は日本よりも中国の方が3倍くらい多いこと、日本からアジアの国への留学が極めて少ないという現状は努力して変えていかなければならないと思います。

福井大学でも、これからの社会・企業等が求める語学の能力を身につける語学センター構想の検討が具体的に進んでいます。またこれからの時代に求められる能力の形成を図るための共通教育（教養教育）の見直しなども始まっています。専門教育も含め、国際的に通用する質保証を備えた教育への改革は今日的な大きな課題です。留学生センターの事業は、その取組みのいわば中核的な役割を担うものとして、今後ますます重要な役割を担うものと言っても過言ではありません。

この報告書が広く読まれることで、センターの事業を知っていただく機会を提供するとともに、これからのセンターの課題をともに考えて行く一助になれば幸いです。

目 次

はじめに

I 留学生センターの概要	1
1. 沿 革	1
1-1. はじめに	1
1-2. 留学生センター関係の経緯	1
1-3. 外国人留学生数の推移と現状	2
2. 現 況	5
2-1. 運営組織	5
2-2. 教員組織	6
2-3. 歴代センター長	7
2-4. 施 設	7
2-5. 財 務	10
3. 主な業務と活動	11
3-1. 留学生センターにおける主な業務と活動	11
3-2. 全学的貢献	12
3-3. 広 報	13
II 教 育	16
1. 概 要	16
2. 留学生センターが実施またはコーディネートする教育	17
2-1. 日本語研修コース	17
2-2. 短期留学プログラム	22
2-3. 日韓共同理工系学部留学生プログラム	40
2-4. 全学向け日本語コース	40
3. 全学向けの教育	48
3-1. 共通教育	48
3-2. 学部専門教育	51
3-3. 大学院教育	53
III 学生支援	54
1. 学生支援の考え方	54
2. 留学生支援	54
2-1. 相談業務	54
2-2. 就職支援	59
2-3. 留学生支援会	60
3. 日本人学生の海外留学支援	61
3-1. 人員体制	61
3-2. 相談状況	61

3-3. 情報提供	62
3-4. 海外留学状況	66
3-5. 日本人学生の海外支援プログラム	66
3-6. 日本人学生の海外留学支援における課題	68
4. 留学生と日本人学生の学内交流活動	68
4-1. 定期交流活動	68
4-2. その他学内活動	69
4-3. 福井大学留学生会	70
4-4. 学内交流活動の課題	70
IV 研究	71
1. 留学生センターとしての研究活動	71
1-1. 研究紀要の刊行	71
1-2. 助成金によるプロジェクト	71
1-3. 研究大会等開催	72
2. 各教員の研究活動	75
3. 課題	75
V 社会貢献	76
1. 社会貢献活動の概要とその考え方	76
2. 留学生諸活動を軸とした社会貢献活動	76
2-1. 地域社会との相互支援交流活動	76
2-2. 福井県等官界とのネットワークと交流活動	79
2-3. 商工会議所等産業界とのネットワークと交流活動	80
2-4. 国際交流ネットワークのためのネットワーク誌「こころねっと」の発行	81
2-5. 福井大学留学生同窓会	81
2-6. 福井県留学生交流推進協議会	82
2-7. 課題	83
3. 教員の社会貢献に関する活動	83
3-1. 地域在住外国人のための日本語ボランティアスタッフの育成	83
3-2. 国際ゾンタ福井クラブ主催「留学生論文」審査	84
3-3. 福井北ロータリークラブ・福井県国際交流協会主催「外国人による日本語 弁論大会」及び「外国人による日本語スピーチコンテスト」審査	84
3-4. 県内企業国際化、特に外国人採用及び雇用に関する講演	84
3-5. 家庭裁判所における家事調停活動	85
3-6. 学外者による来訪各種相談	85
3-7. 課題	86
資料1 教員個人データ	87
資料2 留学生センター関連資料	101

I. 留学生センターの概要

1. 沿革

1-1. はじめに

留学生センターは、外国人留学生に対し日本語等に関する教育を実施するとともに、外国人留学生及び海外留学を希望する本学学生に、修学上及び生活上の指導助言を一元的に行うことにより、本学における留学生教育の充実及び留学生交流の推進に寄与することを目的としている。同時に、外国で学ぼうとする本学の学生のために情報提供やガイダンスを行うという役割や地域社会における国際交流への貢献も担っている。

福井大学への外国人留学生は、昭和45年度の1名から始まって、昭和55年度5名、平成2年度83名、平成12年度145名、平成22年度（5月）236名と、ここ20年間に急速に増加している。この間、本学では、留学生担当教員の配置（昭和63、平成元年、平成2、平成6年度）、留学生相談室の設置（平成7年度）、学内措置としての留学生センターの設置（平成12年度）、短期留学プログラムや国際総合工学特別コースの開設（平成13年度）、留学生同窓会の設立（平成15年度）、留学生センターニュース誌の創刊（平成13年度）などを経て、学内共同教育研究施設（省令施設）としての留学生センターの設置（平成15年度）へと、留学生教育の充実と学習支援体制の整備を進めてきた。また、卒業・修了留学生を中心とした「留学生国際シンポジウム」の開催（平成14、平成15、平成19年、平成20年）や留学生同窓会海外支部の設立（マレーシア、タイ、インドネシア、韓国、西安、上海、杭州、台湾、北京、ハンブルグ、日本国内、バングラデシュ：平成16年度～平成21年度）など同窓会活動、更に、在学中の留学生による留学生会の結成（平成16年度）と各種イベントの企画・参加などの活動を継続して行っている。一方、海外の大学や研究機関との間での学術交流協定を積極的に締結してきており、その締結数は平成22年5月現在で68件（大学間交流協定33、部局間交流協定35）に達している。これらの協定締結時には、殆どの場合「学生の交流の覚え書き」も同時に取り交わしており、現在では、多くの学生が協定校から留学してくるようになっている。

1-2. 留学生センター関係の経緯（平成22年3月現在）

昭和63年4月1日	日本語・日本事情担当教員1名配置（教育学部教授）
平成元年4月1日	留学生専門教育担当教員1名配置（工学部講師→教授）
平成元年10月25日	福井県留学生交流推進協議会設立
平成2年4月1日	留学生専門教育担当教員1名配置（教育学部講師）
平成6年4月1日	日本語・日本事情担当教員1名配置（教育学部教授）
平成7年1月11日	留学生指導相談室（学内措置）設置
平成12年4月1日	留学生センター（学内措置）設置
平成13年4月1日	短期留学プログラム開設

	国際総合工学特別コース（大学院工学研究科博士後期課程）開設
平成13年11月30日	福井大学留学生センターニュース「こころねっと」創刊号発行
平成14年9月12日	第1回留学生国際シンポジウム開催（福井大学国際コンgres）
平成15年4月1日	留学生センター（省令施設）設置
平成15年10月1日	福井大学・福井医科大学の統合
平成15年11月30日	第1回福井大学留学生同窓会大会開催
平成15年12月2日	第2回留学生国際シンポジウム開催
平成16年4月1日	国立大学法人福井大学発足 福井大学留学生会発足
平成16年10月1日	日韓共同理工系学部留学生プログラム開設
平成16年12月11日	福井大学留学生同窓会マレーシア支部設立
平成16年12月15日	福井大学留学生同窓会タイ支部設立
平成17年1月26日	福井大学留学生同窓会インドネシア支部設立
平成17年9月2日	福井大学留学生同窓会韓国支部設立
平成17年9月9日	福井大学留学生同窓会西安支部設立
平成17年12月18日	福井大学留学生同窓会上海支部設立
平成18年9月6日	福井大学外国人留学生支援会設置
平成18年10月29日	福井大学留学生同窓会杭州支部設立
平成18年12月16日	福井大学留学生同窓会台湾支部設立
平成19年2月3日	福井大学留学生同窓会北京支部設立
平成19年8月3日	福井大学留学生同窓会ハンブルク支部設立
平成19年10月2日	第3回留学生国際シンポジウム開催
平成20年9月27日	第4回留学生国際シンポジウム開催
平成20年11月23日	福井大学留学生同窓会国内支部設立大会 第5回留学生国際シンポジウム開催
平成21年11月22日	福井大学留学生同窓会国内支部総会開催
平成21年12月17日	福井大学留学生同窓会バングラデシュ支部設立大会

1-3. 外国人留学生数の推移と現状

福井大学への外国人留学生数は昭和59年から平成6年の10年間に急激に増加しているが、これは、国の「留学生10万人計画」に沿ったものであり、また、平成7年から平成12年の停滞期は、日本の経済停滞に対応するものである。ここまでの推移は全国共通の現象であり、福井大学に限ったものではない。

福井大学では、平成12年から平成13年にかけて、学内措置での留学生センターの設置、短期留学プログラム及び工学研究科国際総合特別コースの開設、留学生同窓会組織の立ち上げ、留学生センターニュース「こころねっと」の発刊、旧電子計算機室を改修しての留学生の集いの場の設置、など、留学生教育に本格的に取りかかり、かつ、諸外国の大学との学術交流協定を飛躍的に伸ばしている。

平成15年には留学生数が200名を突破し、留学生センターも専任教員5名を擁する省令施設に格上げされた。教育地域科学部2号館の一角を改修したものではあるが、独立したセンター建物が整備され、日本語教育を中心とした留学生教育の場が確保されたのもこの時期である。平成22年5月現在での留学生数は236名に達し、福井大学学生総数5,163名の約5%にあたり、国立大学の全国平均から見ればその比率は高いといえることができるだろう。しかし、留学生交流を基軸にして国際化を図る本大学としては、この留学生比率は必ずしも高いとは言えない。今後も、優秀な外国人留学生を確保し、日本人学生も含めての教育の質の向上を目指して、新たな施策を考え、実行していかななくてはならないだろう。

留学生の60%は中国から来ており、中国の大学等との協定校数23が全体68の約30%であることを考えると高い比率になっている。また、中国人留学生143名中133名(93%)が私費留学生であり、健全な学習環境を保障するために何らかの施策が必要である。

マレーシアからは31名の留学生が来ているが、このうち30名がマレーシア政府派遣留学生である。学費負担別留学生数の内、外国政府派遣は全てマレーシアからの留学生である。学部留学生が28名、博士前期課程学生が3名であり、以前に比べ大学院生が若干増えている。

その他の国からの留学生数は極端に少なくなるが、21カ国からの留学生を受け入れている。

在学段階別では、大学院生119名が全体の50%を占め、研究生も加えると56%に昇る。これは、全大学院生942名の13%になり、大学院だけを考えると、留学生の比率が高く国際化はかなり進んでいると言える。特に、工学研究科博士後期課程での留学生41名は在籍者113名の36%になる。福井大学で博士号を取得して帰国した学生の多くが、教育界、研究分野、経済界などで重要な役割を果たしていることを考えると、今後も積極的に博士課程の留学生を確保していくべきであろう。

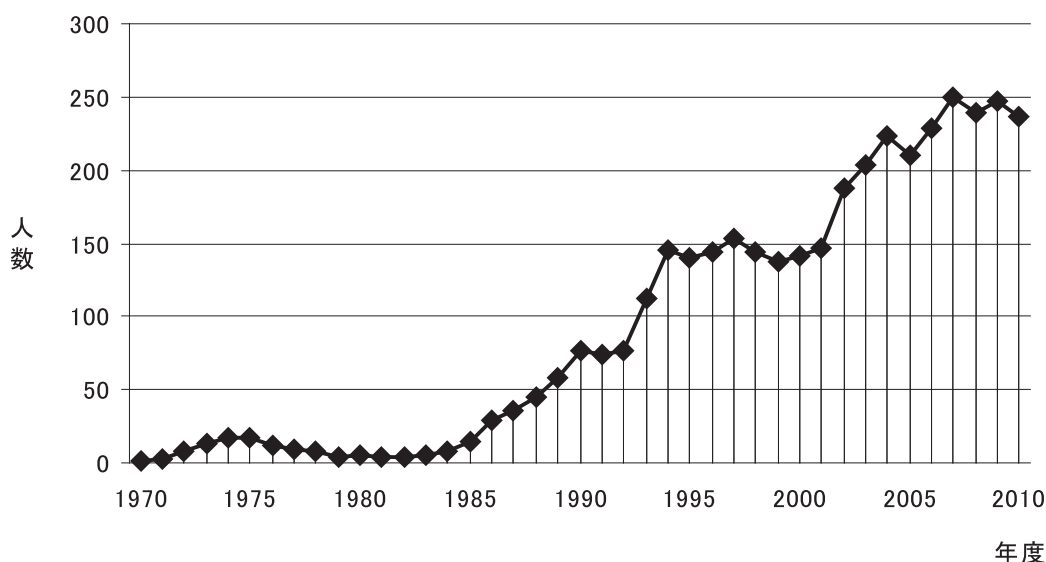


図 I - 1 福井大学の外国人留学生数の推移

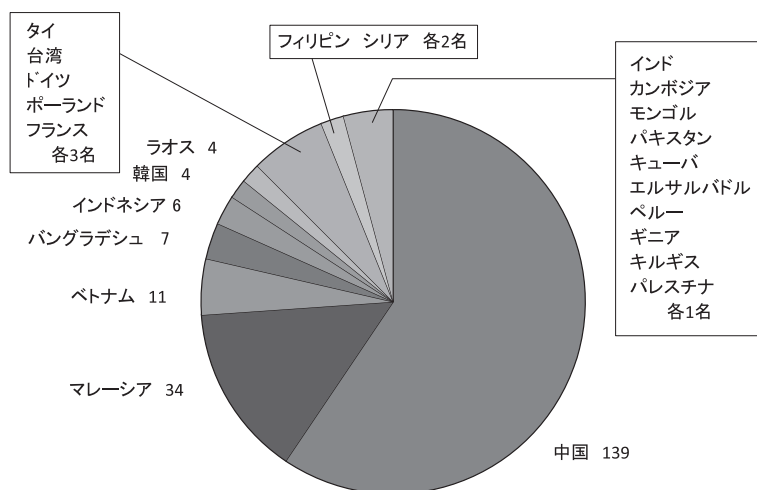


図 I - 2 国別留学生数（平成21年 5 月現在）

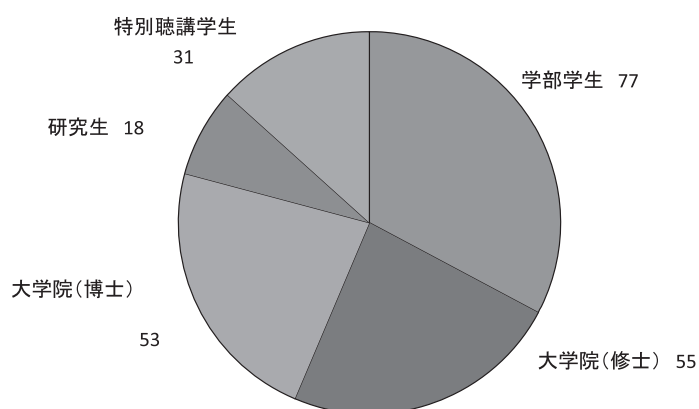


図 I - 3 在学段階別留学生数（平成21年 5 月現在）

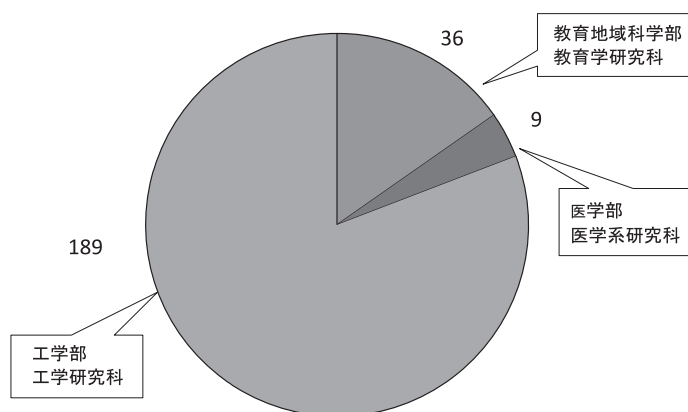


図 I - 4 専攻分野別留学生数（平成21年 5 月現在）

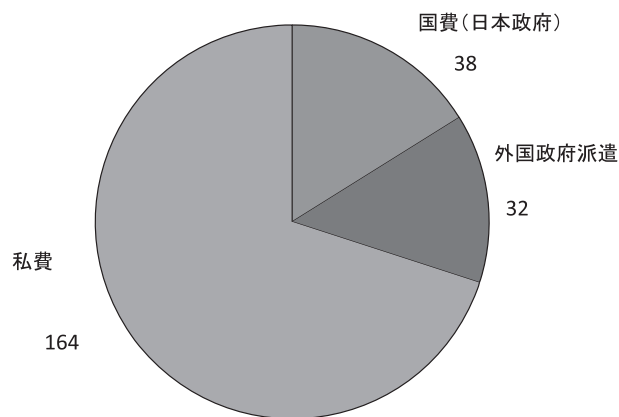


図 I - 5 学費負担別留学生数（平成21年5月現在）

2. 現 況

2-1. 運営組織

センターでは運営の責任者としてセンター長を、その職務を補佐するために副センター長を置き、センターの運営に関する事項の審議するためにセンター運営委員会を置いて、センターの目的達成に努めている。また、センターでの留学生教育及びそれに関連する日常的な業務を円滑に進めるため、センターの専任教員で構成する「留学生センター専任教員会議」を置いている。センター業務の事務及び総括は事務局学務部国際課及び松岡キャンパス学務室で所掌している。

外国人留学生に関する事項及び学生の留学に関する事項を審議する全学委員会として留学生委員会を、その下に各学部・各研究科留学生委員会を置いている。

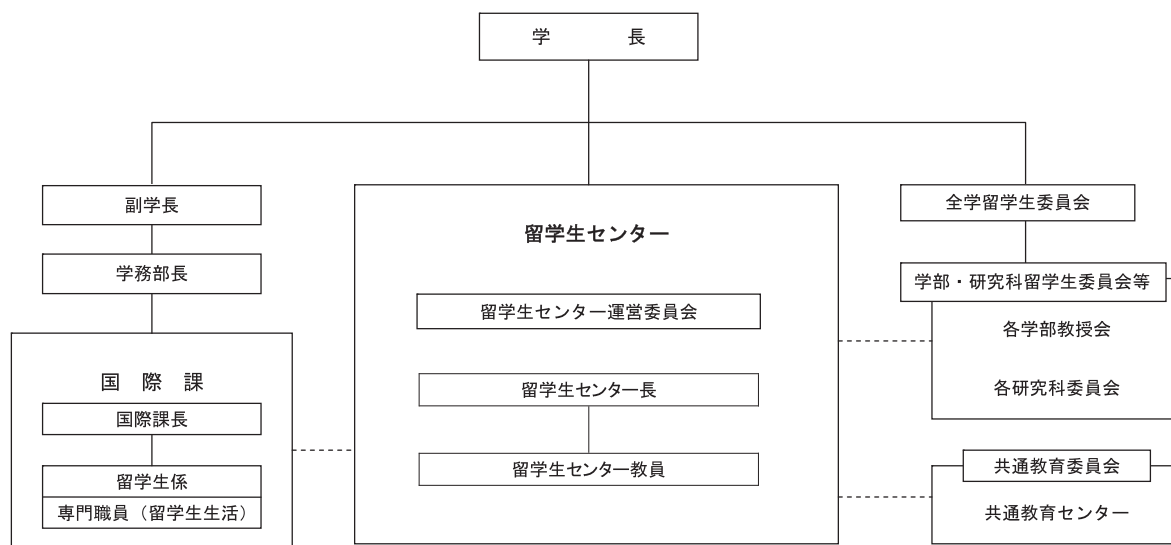


図 I - 6 センター組織図

(1) 留学生センター長

センター長は、学長が、各学部長又は各学部長候補者の意見を聴取の上、本学の副学長又は教授のうちから選考し、その任期は2年である。センターの運営の責任者であり、その業務を掌理する。現在では、教育・学生担当の副学長が兼務している。留学生委員会及び留学生センター運営委員会の委員長を務める。

(2) 留学生センター副センター長

副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代行する。

(3) 留学生センター運営委員会

センターの円滑な運営を図るために置かれている委員会であり、センター長、副センター長、センター専任教員、各学部選出の教員各1名、国際課長、及び委員会が必要と認めた者で構成されている。

(4) 留学生センター専任教員会議

センター専任教員で構成する会議であり、センターの業務執行計画策定、自己点検・評価、ホームページ作成などの広報活動、などについて打合せ・議論する月例の会議である。

(5) 留学生委員会

全学の委員会であり、センターに所属する委員会ではないが、留学生の教育、学習支援、日本人学生の海外派遣など、留学生に関わる重要事項を審議・決定する委員会である。教育・学生担当の理事が委員長を務め、各学部選出教員各1名、留学生センター長、留学生センター専任教員、学務部長、及び委員会が必要と認めた者で構成される。

(6) 学務部国際課

留学生センターに係る事務は事務局学務部国際課が担当している。国際係、留学生係及び留学生生活関係の専門職員が配置されている。留学生にとっては、勉学、生活に関する諸問題を解決するための窓口になっている。医学部の留学生に対しては、松岡キャンパス学務室に担当職員が配置されている。ただし、平成22年4月の事務局組織改編に伴い、現在は留学生係及び留学生生活関係の専門職員は学生サービス課に、国際係は研究推進課となった。

2-2. 教員組織

留学生センターには、その基本的業務である「日本語・日本事情教育」、「留学生指導・相談」、「各種交流活動」及び「日本人学生の留学指導・相談」を遂行するために、専任教員5名（教授3名、准教授2名）及び非常勤教員5名、謝金講師が5名配置されている。詳細は以下の通りである。（平成22年度4月現在）

センター長 教授 寺岡 英男（教育・学生担当副学長）

日本語・日本事情教育部門

	教授	今尾ゆき子
	教授	山中 和樹
	准教授	膽吹 覚
	准教授	桑原 陽子
指導・相談部門	教授・副センター長	中島 清
非常勤講師	市村 葉子、澤崎 幸江、敷田 紀子、酢谷 尚子、村上 洋子	
謝金講師	斉藤 ますみ、高瀬 公子、勝木 禮子、廣谷 幸子、柳原 智子	

2-3. 歴代センター長

平成12年4月—平成13年3月	本多 義明 (学生部長、建築建設工学)
平成13年4月—平成14年3月	黒木 哲徳 (学務担当副学長、理数教育)
平成14年4月—平成16年3月	長谷川守男 (教育地域科学部教授、教育学)
平成16年4月—平成18年3月	山本富士夫 (工学部教授、機械工学)
平成18年4月—平成19年3月	内田 高峰 (教育・学生担当副学長、理数教育)
平成19年4月—平成22年3月	中川 英之 (教育・学生担当副学長、電気電子工学)
平成22年4月—	寺岡 英男 (教育・学生担当副学長、教職開発専攻)

2-4. 施設

(1) 教室

留学生センターの日本語クラスは、文京キャンパスの留学生センターで行われている。センター内の教室等の内訳は以下の通りである。

①留学生センター (文京キャンパス)

現在の留学生センターは平成15年4月に、教育地域科学部2号館の一角を改修して造られたものである。1階フロアの入り口には、リフレッシュコーナーが設けられ、海外留学関連雑誌等が置かれ、留学に興味を持つ学生が自由に閲覧できる場となっている。又、平成21年8月には、18m²の教室2室を1室に改修した。

1階フロア

教員室	1室	(18m ²)
非常勤講師室	1室	(18m ²)
教室	2室	(18m ² ×1、36m ² ×1)

2階フロア

教員室	1室	(17m ²)
教室	2室	(17m ² ×1、32m ² ×1)

②留学生センター分室 (文京キャンパス)

工学部の旧電子計算機室を改修整備して、留学生サービスに供してきている。ラウンジ、教員室からなっている。ラウンジには留学生が気軽に集える雰囲気がある。毎月の第1、第3、

第5木曜日には、留学生と日本人学生の参加する「国際交流ラウンジ」が開催されている。

教員室	1室	(23m ²)
ラウンジ	1室	(78m ²)
教室	1室	(45m ²)
多目的室	1室	(24m ²)

センターの教室環境の最も大きな問題は、教室の不足である。現在、留学生センターには4つの教室があるが、そのうち1階のフロアの2つは18m²と36m²の教室であるが、年々学習者が増加しているため、教室2つでは学習活動が難しくなっている。また2階のフロアの1教室は多少広いものの、20名が限度であり、学期末試験の実施等には十分な広さがない。留学生センター分室には比較的広い教室があるが、センターから多少距離があるため、使用が不便である。円滑なクラス運営のためには、30名程度のクラスが実施可能な教室が、少なくとも2つは留学生センターに必要である。

また、現在留学生センターに教員室がある教員は2名であり、他の1名は工学部（留学生センター分室）、他の2名は教育地域科学部に研究室がある。センターの業務全体の効率的な遂行のためにも、センター施設の集中化が必要であろう。（「Ⅲ学生支援 2-1 相談業務参照」）

（2）教育機器

本センターの教育用機器等の整備状況は以下の通りである。

①教室設置用機器

- ・DVDビデオプレイヤー 4台（各教室1台ずつ）
- ・CDテープレコーダー 4台（各教室1台ずつ）

②非常勤講師室設置用機器

- ・教員用デスクトップ型パーソナルコンピュータ 1台
- ・事務員用ノート型パーソナルコンピュータ 1台
- ・プリンター 1台
- ・DVDビデオプレイヤー 2台
- ・コピー機 1台
- ・印刷機 1台
- ・CDテープレコーダー 1台
- ・テープレコーダー 1台

③リフレッシュコーナー

- ・学生用デスクトップ型パーソナルコンピュータ 1台

④ラウンジ

- ・学生用デスクトップ型パーソナルコンピュータ 6台
- ・プリンター 1台
- ・ビデオプレイヤー 1台
- ・テレビ 1台

⑤その他

・学生貸し出し用小型カセットレコーダー	33台
・教員用ノート型パーソナルコンピュータ	1台
・ビデオカメラ	1台
・プロジェクター	1台

(3) 図 書

留学生センターでは、日本語教科書を中心に書籍の充実を図っている。現在センターが所有する書籍等は以下の通りである。教員が授業・研究のために使用する書籍だけでなく、日本語能力試験対策用書籍を中心とした留学生貸し出し用の書籍を、センター独自に所有し、学生の積極的な利用を勧めている。

①非常勤講師室配架図書

・日本語教科書	324冊	
・辞書・事典	31冊	
・その他専門書	28冊	
・視聴覚教材（テープ、CD、DVDなど）	95セット	
・論文集等		
世界の日本語教育	12冊	（1995～2006）
第二言語としての日本語の習得研究	12冊	（1997～2009）
音声研究	7冊	（2001～2003）
計量国語学	9冊	（2000～2003）
講座 日本語教育（早稲田大学）	39冊	（1965～2004）
日本語教育年間年鑑	9冊	（2000～2008）

②留学生貸し出し用図書（ラウンジ配架）

・日本語教科書	40冊	
・辞書・事典	5冊	
・視聴覚教材（テープ、CDなど）	55セット	
・日本語能力試験対策参考書・問題集	55冊	
（日本語能力試験対策参考書・問題集	リフレッシュコーナー配架	40冊）
・英語学習用参考書・問題集	45冊	
・就職関連参考書	20冊	
・その他図書	30冊	

③定期刊行物

・福井新聞（ラウンジ閲覧用）	
・Japan Times（ラウンジ閲覧用）	
・日本語ジャーナル（ラウンジ閲覧用）	
・日本語教育新聞（非常勤講師室閲覧用）（2010年4月号まで 会社倒産）	

(4) 居住施設

①留学生会館

外国人留学生のための居住施設であり、単身室25 (16㎡)、夫婦室2 (35㎡)、家族室2 (53㎡)、及び共用スペースからなっている。ただし、入居期間は1年以内に限られている。文京キャンパスからは至近の位置にあり、学生宿舎に隣接している。

②国際交流学生宿舎

本学学生の勉学及び生活のための良好な環境を整備すると共に、本学の日本人学生と外国人留学生との相互理解を深め、国際交流を促進することを目的とする学生宿舎であり、部屋数209 (全て単身室) の内35室 (12㎡) が留学生に使われている。留学生と日本人学生が共に暮らすタイプの宿舎である。文京キャンパスからは至近の位置にある。

③国際交流会館 (松岡キャンパス)

本学の医学部、医学系研究科、高エネルギー医学研究センター等における外国人留学生、外国人研究者等の居住その他国際交流に関する事業の用に供し、教育及び研究に係る国際交流の促進に寄与することを目的とする会館であり、単身棟 (単身室10室<15㎡>、ラウンジ、キッチン、談話室、洗濯室) 及び世帯棟 (夫婦室2室<43㎡>、家族室4室<53㎡>) からなっている。松岡キャンパス (医学部) の中に置かれており、館長は医学部長である。

2-5. 財 務

本センターの過去3ヵ年 (平成19年～21年) の予算は、以下の通りである。

表 I - 1 留学生センターの予算 (平成19～21年度)

科目・事項	平成19年度	平成20年度	平成21年度	執行計画
教官研究費等	1,992,000	1,992,000	1,992,000	
【非常勤講師】				
非常勤講師手当	3,612,000	3,519,000	3,519,000	
非常勤講師旅費	234,600	220,800	302,450	
事務補佐員人件費	1,209,952	1,192,595	1,212,493	
事務管理費	4,351,391	5,723,022	5,182,596	授業用図書、消耗品、複写機、設備保全、ホームページ管理等、印刷費、実習経費
センター事業費	2,754,855	1,998,421	2,472,629	各種イベント、日本留学フェア参加費及び旅費、留学生同窓会支部会議費及び旅費、進学説明会・研究会等参加費及び旅費
合計	14,154,798	14,645,838	14,681,168	

留学生センターの教育機器・図書等については、毎年充実してきているが、コース運営を支える非常勤講師予算については、まだ不十分な状況である (「II教育」参照)。しかし、大学全体

で人件費の削減が行われているのが実情であり、今後は外部資金の確保等に努力が必要であると言えるだろう。

3. 主な業務と活動

3-1. 留学生センターにおける主な業務と活動

本センターは、外国人留学生及び海外留学を希望する本学の学生に対して、必要な教育及び指導助言等を行うとともに、教育指導の充実及び留学生交流の推進に寄与することを目的として、以下の業務を行う。

- (1) 外国人留学生に対する日本語・日本事情教育
- (2) 外国人留学生に対する大学院等入学前予備教育
- (3) 外国人留学生に対する修学上及び生活上の指導助言
- (4) 海外留学希望学生に対する修学上及び生活上の指導助言
- (5) 留学生教育の充実及び向上のための調査研究
- (6) 外国人留学生と地域社会との交流推進
- (7) 留学生ネットワーク構築
- (8) 福井大学留学生会館に関する業務
- (9) その他、センターの目的を達成するために必要な業務

これらの業務を行うため、センターでは以下の2つの活動部門を設定している。

【1】日本語・日本事情教育部門

日本語・日本事情教育部門では、主として留学生に対する日本語教育に携わっており、以下①～⑤の日本語コースを開講している。さらに、各教員が日本語、日本語教育、日本文化に関わる各専門領域について、研究を行っている。各コースの内容については「Ⅱ教育」を、各教員の専門領域については「Ⅳ研究」及び巻末の個人データを参照されたい。

①日本語研修コース

本学及び福井県とその近隣にある大学の大学院に進学する国費留学生に対して、6ヶ月間の日本語集中授業を行う。

②短期留学プログラム

福井大学と学術交流協定を締結している海外の大学から留学生を受け入れ、日本語・日本事情等の他、主として英語による専門分野の授業を行う。

③日本語研修特別コース

福井大学に在学する大学推薦の国費留学生に対し、指導教員の承諾を得て、6ヶ月間の日本語集中授業を行う。

④日韓共同理工系学部留学生プログラム

日韓共同理工系学部留学生事業により本学工学部に受け入れた留学生に対して留学に必要な日本語と専門科目の授業を予備教育として半年間行う。

⑤全学向け日本語コース

福井大学に在籍する留学生を対象に、日常生活に必要な日本語や、大学の授業を受けられる日本語の力を養うことを目的として、日本語Ⅰ（初級）～日本語Ⅳ（中・上級）の4クラスを開講している。

【2】指導・相談部門

①留学生の指導・相談

本学で学ぶ留学生が生活面、学習面、異文化適応面で困難に出会った時など、その解決のための指導・助言を行う。また、進学や就職の相談も受ける。特に留学生の国内就職支援を重点的に行っており、過去10年間に150名以上が国内に就職している。

②地域交流活動

留学生の日本理解や国際性涵養、及び地域社会の国際化支援を目的として、県内小中学校、公民館、国際交流機関などに留学生を一日講師等として派遣している。また、福井県の産官学民の各界、特に福井県、福井国際交流協会、自治体国際交流課、商工会議所、福井労働局、入国管理局等と連携しながら、活動を展開している。

③地域・国際交流ネットワーク構築のための留学生同窓会活動推進

地域交流及び国際交流活動を推進するために、福井大学留学生同窓会（平成15年11月設立）及びその各国支部と連携して活動している。また、その活動を推進するために、福井大学留学生センターネットワーク誌「こころねっと」を発行している。平成21年度までに、マレーシア、タイ、インドネシア、上海、西安、杭州、北京、韓国、台湾、ハンブルグ、バングラデシュ、及び日本支部の合計12支部体制が出来上がっている。また、福井大学留学生会も平成16年に発足しており、国際交流ラウンジ、ビデオショウ、歓送迎会、国際交流キャンプ、国際交流スキー、各種スポーツ大会等を企画・実施している。

④日本人学生の海外留学支援・相談

グローバル化する国際社会で活躍できる人材育成のために、日本人学生の海外留学を積極的に推進している。そのための個別相談を受け付けている。

3-2. 全学的貢献

1) 教 育

留学生センター教員は、留学生センターの授業以外に以下の授業を担当している。平成22年3月現在の留学生センター教員の担当科目は以下の通りである。詳細については、「Ⅱ教育」を参照されたい。

共通教育外国語科目（8科目）

日本語A～H

共通教育「文化」日・中言語文化系（8科目）

多文化コミュニケーション（異文化コミュニケーション）A～C

日本の文化、応用日本語Ⅰ、応用日本語Ⅱ、日本事情A、日本事情B、
教育地域科学部（9科目）

日本アジア文化論、異文化教育論、情報化と日本語、日本語文章表現、

日本語音声表現、日本語文法論、日本語教育論、日本文化講義、専門セミナー
教育学研究科（7科目）

国語学特論、国語学特別演習Ⅱ、日本語教育特論、日本語教育特別演習、国文学特論、
国文学特別演習Ⅰ、国語科教育実践研究

工学部（4科目）

工業日本語Ⅰ～Ⅳ

工学研究科（2科目）

工業日本語特論Ⅰ、工業日本語特論Ⅱ

2) 学内運営

留学生センター教員は、センターの業務に関わる学内の委員会に出席している。平成22年3月現在の学内委員会等の担当状況は以下の通りである。これまでの各教員の委員担当状況については個人データを参照されたい。

全学留学生委員会：今尾ゆき子、中島清、山中和樹、膽吹覚、桑原陽子

留学生センター運営委員会：今尾ゆき子、中島清、山中和樹、膽吹覚、桑原陽子

教育地域学部・教育学研究科留学生委員会：膽吹覚

工学部・工学研究科留学生委員会：中島清（副委員長）

工学部・工学研究科英語教育実施運営委員会：中島清

工学部・工学研究科ネットワーク委員会：中島清

国際交流委員会：中島清

共通教育留学生共通教育部会幹事：今尾ゆき子、中島清、山中和樹、膽吹覚（部会長）、
桑原陽子

共通教育第3分野「文化」日本語・日本文化系幹事：山中和樹

3-3. 広 報

1) 外国人学生のための進学説明会

JASSO主催の「外国人学生のための進学説明会」には本学教職員が参加し、広報活動に寄与している。平成19年～21年の参加状況は以下の通りである。

平成19年 7月1日（東京会場） 7月15日（大阪会場）

平成20年 7月6日（大阪会場）

平成21年 7月12日（大阪会場）

2) 刊 行 物

本センターの活動に対する理解を深めてもらうことを目的として、以下の報告及び資料を作成し関係機関に配布を行っている。なお、留学生センターニュース「こころねっと」については、「V社会貢献」を参照されたい。

①センターニュース（毎年発行）

＜主な掲載内容＞

- ・各日本語コースの授業報告
- ・日本語コース受講留学生のエッセイ（各コースより1～2名ずつ）
- ・海外留学体験者（日本人学生）のエッセイ
- ・相談交流部門の活動報告
- ・当該年度の主な行事
- ・教職員紹介

②留学生センターパンフレット（ほぼ1年に1度改稿）

＜主な掲載内容＞

- ・センターの沿革・目的、活動
- ・教職員組織
- ・留学生会館・国際交流学生宿舎・国際交流会館紹介

③留学生センター紀要・年報（毎年発行）

＜主な掲載内容（年報部分）＞

- ・日本語・日本事情教育部門各日本語コース報告
 - ・共通教育日本語科目、日本語・日本事情科目報告
 - ・相談交流活動部門報告
- （紀要部分については、「IV研究」を参照のこと）

4) 留学生センターホームページ

本センターでは、平成16年より留学生センター公式ホームページの作成に着手し、平成19年3月現在、日本語版と英語版が公開されている。本学留学生の中で中国人留学生が多数を占めることを考慮し、平成19年度内には中国語版を作成する予定である。

①ホームページ掲載情報

掲載情報は次頁の通りである。

②管理運営体制

平成16年度から、センター専任教員1名が国際課のホームページ管理担当職員の協力を得て、全体を管理している。留学生センターホームページのためのサーバー管理は、当初工学研究科の大学院生に依頼していたが、平成18年度より工学部技術部に委託している。また、ホームページのデザイン作成及び更新作業も、当初は工学研究科の大学院生に依頼していたが、サーバー管理同様、平成18年度より工学部技術部に委託している。

半年に1度（学期ごと）の授業に関わる情報更新と、行事関連情報やニュース等の不定期の情報更新（通常1ヶ月に1度）が行われている。更新情報作成担当は、情報の内容によって決まっており、各担当者が必要に応じて作成した原稿は、管理運営担当教員を通して、工学部技術部へ送られることになっている。

平成18年度に、サーバー管理とホームページデザイン作成・更新作業が工学部に委託されてから、ホームページの管理運営は非常に効率的になった。さらに、管理体制も組織的になっており、円滑な管理運営が行われている。

●は各頁のトップ頁



図 I - 7 留学生センターホームページ階層図

Ⅱ. 教 育

1. 概 要

平成15年4月の省令化以降、平成21年度までの6年間に留学生センターが開講する科目は年を追う毎に増加し充実したものとなっている。平成19年度から21年度では、平成20年度に短期留学プログラムの日本語・日本事情系科目が7科目、さらに、平成21年度に全学向け日本語コースに「日本語能力対策講座」が新規開講し、中・上級レベルの学生を対象とする日本語教育の充実が図られた。

平成15年4月	留学生センター省令化。 「日本語補講」が「全学補講日本語コース」と名称変更し、短期留学プログラムとの合同授業を廃止し、独自開講とする。
平成15年10月	「日本語研修コース」(大学院入学前予備教育)開始。
平成16年4月	「全学補講日本語コース」が「全学向け日本語コース」と名称変更。 短期留学プログラムの「日本語初級」「日本語初中級」「日本語中級」を週4コマ連続授業(8単位)とする。 共通教育日本語科目に「日本語G」と「日本語H」を新設し、中級・上級各4科目編成とする。
平成17年4月	短期留学プログラムに技能別科目「はじめての漢字」「はじめての作文」「はじめての会話」を新設。
平成17年10月	日本語研修特別コース(大学推薦国費留学生対象)を新設。
平成20年10月	短期留学プログラムに「日本語中級」「日本語上級」「多文化コミュニケーション1」「多文化コミュニケーション2」「応用日本語1」「応用日本語2」「日本の文化」を新設。
平成21年9月	全学向け日本語コースに「日本語能力試験対策講座」を開設。

平成19年度から21年度まで留学生センター教員が関与してきた本学での教育について、次章2.において以下のように詳述する。

2. 留学生センターが実施またはコーディネートする教育

- 2-1 日本語研修コース(大学院入学前予備教育コース)及び日本語研修特別コース
- 2-2 短期留学プログラム
- 2-3 日韓共同理工系学部留学生プログラム
- 2-4 全学向け日本語コース
- 2-5 英語補講

- 3. 全学向けの教育
 - 3-1 共通教育
 - 3-2 学部専門教育
 - 3-3 大学院教育

2. 留学生センターが実施またはコーディネートする教育

2-1. 日本語研修コース（大学院入学前予備教育）及び日本語研修特別コース

1. 日本語研修コース（大学院入学前予備教育）

(1) 本コースの目的

本コースは、大学院に進学する文部科学省の大使館推薦の国費研究留学生及び教員研修留学生を対象とした半年間の日本語集中コースである。受講生は、主として日本語未習者を含む初級日本語学習者である。本コースの目的は以下の2つである。

- 1) 日本での生活に必要な基礎的な日本語を身につける。買い物、食事等の留学生活に不可欠な日本語、研究室での指導教員や他の学生とのコミュニケーションに必要な日本語を習得する。
- 2) 留学生活に対する不安を軽減し、自律的に生活・学習する態度を学ぶ。

(2) 受講状況

平成19年度から21年度までの日本語研修コースの受講者数は表Ⅱ-1の通りである。

表Ⅱ-1 日本語研修コースの受講者数

実施年度	平成19年度 後期	平成20年度 後期	平成21年度 後期
受講者数	4	2	4

(3) 運営状況

1) カリキュラムの現状

受講生のほとんどが、日本語未習及び初級前半の学習者であるため、本コースでは、ひらがな、カタカナ等の文字学習をはじめ、基礎から日本語学習を開始する。1週間に10コマの文型・文法クラスと、会話、漢字、作文、情報処理、文化、修了発表特別演習の6つの技能クラスが開講されている。標準的な時間割と各クラスの授業内容は以下のとおりである。なお、「日本語（修了発表特別演習）」は、平成20年から新たに追加された科目である。これについては、次項の「2）修了発表」の項目を参照されたい。

表Ⅱ－２ 日本語研修コースの標準的な時間割

	月	火	水	木	金
I 限	日本語(文型文法)	日本語(文型文法)	日本語(文型文法)	日本語(文型文法)	日本語(文型文法)
II 限	日本語(文型文法)	日本語(文型文法)	日本語(文型文法)	日本語(文型文法)	日本語(文型文法)
III 限	日本語(情報処理)	日本語(漢字)	日本語(作文)	日本語(会話)	日本語(修了発表特別演習)
IV 限			日本語(文化)		

《授業内容及び使用教材》

日本語（文型・文法）：文法を中心とした総合練習。「みんなの日本語初級」Ⅰ及びⅡ

日本語（会話）：「文型・文法クラス」の内容に準じた会話及び簡単なスピーチ。「みんなの日本語初級」Ⅰ及びⅡ

日本語（漢字）：ひらがな・カタカナ練習と漢字100字程度の読み書きの学習。「みんなの日本語初級Ⅰ漢字英語版」

日本語（作文）：課題作文をもとに修了発表レポートを作成

日本語（情報処理）：Microsoft word, power point を使った修了発表の準備。

日本語（文化）：華道（池坊）、俳画、書道、陶芸（越前焼）の日本文化体験学習。

日本語（修了発表特別演習）：修了発表のための原稿作成、パワーポイントによるスライド作成、発表練習の個別指導を行う。

日本語（文型・文法）クラスが本コースの中心であり、このクラスの学習進度に合わせて他の技能クラスのおおよそのスケジュールが決定する。平成19、20年度の日本語（文型・文法）クラスでは、「みんなの日本語初級」の1課から32～34課までを学習した。その後、平成21年度より、「日本語（文型・文法）」のⅠ限部分だけ、全学日本語向けコース「日本語Ⅰ」クラスとの合同授業になり、学習範囲は「みんなの日本語Ⅰ」（1課～25課）のみとなっている。

全学日本語向けコースとの合同授業開始の経緯は、以下の通りである。表Ⅱ－1に示したように、日本語研修コースの受講生は、例年5名以下である。同じメンバーでの少人数クラスでは、クラス活動の停滞（話題が広がらない、ある程度の人数を必要とするクラス活動ができない）などの問題があった。また、平成20年度のように2名になると、クラスの維持が危うくなる。そこで、週10コマ中5コマを全学日本語コースの「日本語Ⅰ」との合同クラスにし、日本語（文型・文法）クラスの10コマ中5コマは、10人以上の受講生数を維持できるようにした。

2) 修了発表

本コースのコース修了時には、学習のまとめとして、受講者全員がPower Pointを用いた日本語による発表を行う。修了発表会の発表題目を表Ⅱ－3に示す。

修了発表の指導は、当初、日本語（文型・文法）の担当教員3名（うち2名は非常勤講師）があたっていたが、授業時間外に個別指導を行う必要があり、担当教員にとって負担が大きかった。そこで、平成19年度からは、日本語（作文）と日本語（情報処理）との連携を密にして修了発表の準備を行い、授業時間外の個別指導の負担軽減を図ると同時に、指導担当をすべて専任教員が行うこととした。さらに、平成20年度からは、補講扱いであった修了発表指導の時間を授業扱いとし、「日本語（修了発表指導特別演習）」を設けた。

表Ⅱ－３ 日本語研修コース修了発表会 発表題目及び発表者一覧

< 7期 平成19年度後期 >	
たいまつ	アルベン・ラゴ・ゴメス(フィリピン)
私の学校の行事	キン・ニョー・ニョー・シン(ミャンマー)
夢－学生のゆめのじつげんにむかって－	ベルマ・リチュアル(フィリピン)
私の仕事：教育は自由への入り口	ミレヤ・ゴメズ・ベナ(コロンビア)
< 8期 平成20年度後期 >	
教師の仕事－知識を次ぎの世代へ	ギルバート・カーアラム・ガラガテ(フィリピン)
教育－成功へのドアを開ける鍵－	ミラグロス・ベロカル(ペルー)
< 9期 平成21年度後期 >	
マダガスカルとわたしのしごとについて	ハリズ・ディアス・ファニバナ(マダガスカル)
私の仕事	カイン・プイン・リン・アウン(ミャンマー)
わたしのしごと	イングリッド・ベルスカ・ピコン・ゴメス(ペルー)
わたしのしごと：Radiopharmacy(放射性医薬)の研究	アロンソ・マルティネス・ルイス・ミシエル(キューバ)

3) 成績評価及び管理

本コースは、単位認定のないコースであるが、各クラスの成績については個々に基準が設定されている。それらの成績は、コース終了時にコーディネータがとりまとめを行い、留学生係で保管されている。表Ⅱ－４は、成績表の例である。

表Ⅱ－４ 日本語研修コース成績表例

2006年度 後期		日本語研修コース 成績表		
氏名 <u>ブンキョウ・フクイ</u>				
科目名	担当教員	開講時間	概 要	成績
日本語 (文型・文法)	桑原陽子 敷田紀子 澤崎幸江	月曜Ⅱ 火曜Ⅱ 水曜Ⅱ 木曜Ⅱ 金曜Ⅱ	初級用日本語教科書「みんなの日本語」第31課まで	優 (85)
日本語 (作文)	開講せず			
日本語 (会話)	中島 清	木曜Ⅲ	初級用日本語教科書「みんなの日本語」各課即答練習、自由発表、新日本語の基礎復習会話ビデオ	優 (99)
日本語 (漢字)	今尾ゆき子	火曜Ⅲ	「みんなの日本語初級Ⅰ 漢字」 U1－U10(112漢字)	優 (96)
日本語 (情報処理)	桑原陽子	月曜Ⅲ	Word、PowerPointの基本的な使い方を学習	優
日本語 (文化)	膽吹 覚	水曜Ⅳ	生け花(池坊流)を5回、書道と俳画を2回ずつ、三味線(今藤流)を5回、それぞれ体験学習した。	優
2006年○月×日				
福井大学留学生センター				

(4) 教育の効果

来日時に日本語が全く或いはほとんどわからなかった受講生たちが、最終的には日本語で短いプレゼンテーションが行えるまでになることは、大きな進歩とすることができる。

また、本コース在籍中は、受講生のほとんどが常に一緒に学習しているため、その結束力は大変強く、協力し合って学習を進めることができる。同期の受講生だけでなく、来日年度の異なる学習者間の連帯感も強く、今後の大学生活を支える重要な基盤となっている。来日当初は、研修コースの仲間といることに安心し、日本人学生との交流に消極的になりがちな面も見られるが、時間がたつにつれて他の学習者との交流に積極的になれるのは、研修コースが安定した生活基盤となっているからこそであろう。研修コース修了後の研究活動にスムーズに入るための準備期間として、重要な役割を果たしていると言える。

研修コース修了後、ほとんどの学習者が日本語学習の継続を希望し、全学向け日本語コースの日本語クラスを受講する。本コースの日本語（文型・文法）クラスの総合評価が「可」以上（60点以上）の受講生は、全学日本語コースの「日本語Ⅱ」クラスへ進むことができる。本コースの日本語（文型・文法）クラスの総合評価が「不可」（59点以下）であった場合は、全学日本語コースの「日本語Ⅰ」クラスを再度受講することになる。

(5) 評 価

日本語（文型・文法）の受講者に対し、コース修了時に授業に対する評価アンケートを実施した。その結果を表Ⅱ-5に示す。本コースは概ね高い評価を得ていると言える。

(6) 課 題

1) 学習者間の日本語力の差

学習者の日本語力の伸びにかなりの差が生じ、クラス運営が困難になるケースが生じた。今回のケースは、受講生の個人的な事情でコース途中に一時帰国するなど特殊なケースであった。これに対しては、以下のように対処した。

- ① 1週間に1～2時間、補習を行う。
- ② 日本語（漢字）、日本語（作文）の受講を免除する。

早い段階で漢字クラス、作文クラス受講の免除など学習者の負担を軽減する対処をしたこと、学習者の不安を軽減するために時間をとり、学習者との信頼関係構築を図ったことなどにより、学習意欲を維持することができた。しかし、学習者間の日本語力の差が生じた場合、補習の実施は避けられず、その結果、教員の負担が大きくなる。

2) 全学日本語コースとの合同授業

平成21年度より、日本語（文型・文法）クラス（週10コマ）のうち半数を全学日本語コースの日本語Ⅰとの合同授業とした。これにより、多様なクラス活動が可能になり、安定したクラス運営が可能になった。その一方で、クラスの進度が以前より遅れることとなった。以前は『みんなの日本語初級』の34課程度まで学習が可能であったが、合同授業以後は25課までとなった。そのため、修了発表のための指導スケジュールの見直しが必要となっている。

表Ⅱ－５ 日本語（文型・文法）についてのアンケート結果（平成19～21年度 後期のみ）

1. 文法のクラスについて、こたえの□に×をかくてください					
	強く思う	少し思う	どちらとも言えない	あまり思わない	全く思わない
	strongly agree	somewhat agree	Neither agree or disagree	somewhat disagree	strongly disagree
(1)テキストや教材は満足できるものだった					
The textbooks and/or teaching materials used were satisfactory.					
平成19年度後期(4名回答)	4	0	0	0	0
平成20年度後期(2名回答)	2	0	0	0	0
平成21年度後期(4名回答)	3	1	0	0	0
(2)テキストや教材の内容は理解できた					
I could understand the content of the textbooks and/or teaching materials used.					
平成19年度後期(4名回答)	4	0	0	0	0
平成20年度後期(2名回答)	2	0	0	0	0
平成21年度後期(4名回答)	4	0	0	0	0
(3)先生の声や言葉は聞き取りやすかった					
The instructor spoke clearly.					
平成19年度後期(4名回答)	4	0	0	0	0
平成20年度後期(2名回答)	2	0	0	0	0
平成21年度後期(4名回答)	4	0	0	0	0
(4)先生は適切な板書を行った					
The instructor wrote clearly on the board.					
平成19年度後期(4名回答)	4	0	0	0	0
平成20年度後期(2名回答)	1	1	0	0	0
平成21年度後期(4名回答)	4	0	0	0	0
(5)先生の説明はわかりやすかった					
The explanations by the instructor were easy to understand					
平成19年度後期(4名回答)	4	0	0	0	0
平成20年度後期(2名回答)	2	0	0	0	0
平成21年度後期(4名回答)	3	1	0	0	0
(6)先生は学生の質問に対して適切に答えた					
The instructor answered our questions properly.					
平成19年度後期(4名回答)	4	0	0	0	0
平成20年度後期(2名回答)	2	0	0	0	0
平成21年度後期(4名回答)	4	0	0	0	0
(7)授業のスピードが速すぎた					
The tempo of the class was too fast.					
平成19年度後期(4名回答)	2	1	0	1	0
平成20年度後期(2名回答)	0	0	1	0	1
平成21年度後期(4名回答)	2	0	1	1	0
(8)宿題が多すぎた					
There was too much homework.					
平成19年度後期(4名回答)	1	1	1	1	0
平成20年度後期(2名回答)	0	0	0	1	1
平成21年度後期(4名回答)	1	1	0	2	0
(9)テストが多すぎた					
There was too much test/or quiz.					
平成19年度後期(4名回答)	1	2	0	1	0
平成20年度後期(2名回答)	0	0	1	0	1
平成21年度後期(4名回答)	2	1	0	1	0
2. あなたは、総合的に判断して、この授業に満足しましたか。					
Overall, were you satisfied with this class?					
	たいへん満足	少し満足	どちらとも言えない	少し不満	たいへん不満
	very satisfied	somewhat satisfied	Neither satisfied nor dissatisfied	somewhat dissatisfied	very dissatisfied
平成19年度後期(4名回答)	4	0	0	0	0
平成20年度後期(2名回答)	2	0	0	0	0
平成21年度後期(4名回答)	4	0	0	0	0

2. 日本語研修特別コース

日本語研修コースが国費留学生（大使館推薦）を受け入れるコースであるのに対し、日本語研修特別コースは国費留学生（大学推薦）を受け入れるコースである。受講生の募集は、留学生係から各学生の受け入れ教員を通して行われている。

本コースの受け入れに関しては、クラス運営上の必要から、以下の規定を設けている。

- (1) 日本語（文型・文法）10コマすべてに参加できる学習者に限る。
- (2) 受講する際には、指導教員の承認を受ける。
- (3) 日本語研修コースの学習者を含めてクラスの定員を10名とし、それを超えた場合は、受け入れを認めない。

平成19～21年では、平成19年度後期に、1名（インドネシア）を受け入れた。

2-2. 短期留学プログラム

1. 概要

(1) 受け入れ

短期留学プログラム（UFSEP）は福井大学と交流協定を締結している大学等から1年以内の短期留学生を受け入れるプログラムである。平成13年10月に2カ国4協定校から最初の学生6名を受け入れて以来、派遣を希望する協定校の数は増加し続け、国籍も多彩になっている。平成19年度から21年度の3年間に本プログラムは13カ国、23協定校から62名の学生を受け入れている（表Ⅱ-6）。

表Ⅱ-6 短期留学プログラムAコース（UFSEP）

受け入れ状況	受け入れ年度			
	平成19	平成20	平成21	累計
学生数	20	21	21	62
学部(工学:教育)	18:2	19:2	17:4	54:8
派遣協定校数	13	15	13	23
派遣国数	8	6	6	13
学生の国籍(学生数)	中国(11) U S A (3) マレーシア(1) フランス(1) イラン(1) インドネシア(1) バングラデシュ(1) モンゴル(1)	中国(14) 韓国(2) ドイツ(2) シリア(1) タイ(1) ポーランド(1)	中国(10) U S A (4) 韓国(3) フランス(2) ドイツ(1) インドネシア(1)	中国(35) U S A (7) 韓国(5) ドイツ(3) フランス(3) インドネシア(2) ポーランド(1) マレーシア(1) バングラデシュ(1) タイ(1) イラン(1) シリア(1) モンゴル(1)

(2) UFSEP 修了者の本学大学院進学

平成18年度から平成20年度までに工学部が受け入れた UFSEP 留学生53名のうち、平成20年度から平成22年度に本学大学院へ入学した留学生総数は23名にのぼる。内訳は博士前期課程19名、博士後前期課程・後期課程3名、後期課程1名である。年度別に見ると、平成18年度修了生16名中半数の8名(50.0%)が博士前期課程に入学し、そのうち3名が後期課程に進学している。平成19年度は18名中4名が博士前期課程、1名が博士後期課程に入学(27.8%)。平成20年度は19名中10名と半数以上が博士前期課程に入学している。この3年間の UFSEP 修了生は約4割(43.4%)が本学大学院入学という実績を示しており、質の高い大学院生の確保にも貢献している。

表Ⅱ－7 UFSEP 修了生の本学大学院進学状況

短期プログラム受け入れ時期		平成18	平成19	平成20	累計
大学院入学時期		平成20	平成21	平成22	
工学部受け入れ学生数		16	18	19	53
大学院入学者数	博士前期課程	5	4	10	19
	博士前期・後期課程	3	0	－	3
	博士後期課程	0	1	－	1
	累計	8(50.0%)	5(27.8%)	10(52.6%)	23(43.4%)

2. 開講科目と受講状況

UFSEP の開講科目は共通科目と専攻科目があり、留学生センターでは共通科目の日本語・日本事情系14科目と伝統産業系2科目を開講している。留学生センター教員はこれらの科目に関する授業の計画及び実施に携わるとともに、受講者の日本語力、要望、受講状況等を考慮して日本語科目の整理統合と増設を繰り返し実情に即したカリキュラム編成を行ってきた。

短期プログラムAコースは、当初、日本語力初級レベルの学生を中心としたカリキュラムであったが、近年、中・上級レベルの学生が本コースに参加するようになりその対応に迫られてきた。平成19年度後期は、初級レベルと判定された学生の日本語能力にばらつきがあり、初級を2クラス開講した。その結果、予算の関係上、中級クラスを開講することができず、中級レベルの学生1名を初中級に組み入れざるを得なかった。その反省を踏まえて、中・上級レベルの学生にも十分な日本語指導ができるように、平成20年度に以下のような日本語科目および日本事情科目を新設した。

<平成20年度新設科目>

1) 日本語科目

- ①日本語中級(「日本語A」「日本語C」(前期)、「日本語B」「日本語D」(後期)と合同授業)
- ②日本語上級(「日本語E」「日本語G」(前期)、「日本語F」「日本語H」(後期)と合同授業)

2) 日本事情科目

- ③多文化コミュニケーション1(後期:「多文化コミュニケーションA」と合同授業)
- ④多文化コミュニケーション2(前期:「多文化コミュニケーションB/C」と合同授業)
- ⑤応用日本語1(後期:「応用日本語II」と合同授業)

⑥応用日本語2（前期：「応用日本語Ⅰ」と合同授業）

⑦日本の文化（前期：「日本の文化」と合同授業）

表Ⅱ－8 開講科目一覧

平成21年度 春学期

授業科目		担当教員	教科書	コマ/週	単位
日本語初中級A		膽吹 覚 村上洋子	『みんなの日本語初級Ⅱ』	4	8
日本語初中級B		桑原陽子 市村葉子	『みんなの日本語初級Ⅱ』	4	8
日本語中級	(日本語A)	桑原陽子	『中・上級者用日本語テキスト 大学で学ぶための日本語ライティング』	1	4
	(日本語C)	山中和樹	プリント	1	
日本語上級	(日本語E)	膽吹覚	『なめらか日本語会話』	1	4
	(日本語G)	今尾ゆき子	『日本語上級読解』	1	
はじめての漢字		今尾ゆき子	『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字 英語版』	1	2
はじめての作文		山中和樹	『みんなの日本語初級やさしい作文』	1	2
はじめての会話		山中和樹	『みんなの日本語初級Ⅱ』	1	2
日本事情2		膽吹覚	プリント	1	2
多文化コミュニケーション2		膽吹覚	プリント	1	2
応用日本語2		山中和樹	プリント	1	2
日本の文化		膽吹覚	プリント	1	2

平成21年度 秋学期

授業科目		担当教員	教科書	コマ/週	単位
日本語初級1		今尾ゆき子 市村葉子	『みんなの日本語初級Ⅰ』	4	8
日本語初級2		山中和樹 村上洋子	『みんなの日本語初級Ⅰ』	4	8
日本語初中級		膽吹 覚 酢谷尚子	『みんなの日本語初級Ⅱ』	4	8
日本語中級	(日本語B)	山中和樹	『速読文化エピソード』	1	4
	(日本語D)	膽吹 覚	『大学・大学院留学生の日本語①読解編』	1	
日本語上級	(日本語F)	桑原陽子	プリント	1	4
	(日本語H)	今尾ゆき子	『日本語上級読解』	1	
日本事情1		今尾ゆき子	プリント『日本を知る』	1	2
多文化コミュニケーション1		山中和樹	プリント	1	2

応用日本語 1	山中和樹	DVD『僕の生きる道』	1	2
伝統産業 1	中島 清	プリント	1	2

表Ⅱ－9 開講科目と受講者数

開講科目	開講年度	平成19		平成20		平成21		計
		春期	秋期	春期	秋期	春期	秋期	
日本語初級 1 *1)		—	7	—	7	—	8	22
日本語初級 2		—	4	—	6	—	5	15
日本語初中級(A)		6	5	7	1	6	4	29
日本語初中級(B)		—	—	4	—	6	—	10
日本語中級(日本語A/日本語C)*2)		6	—	5	—	1	—	12
日本語中級(日本語B/日本語D)		—	—	—	3	—	3	6
日本語上級(日本語E/日本語G)*3)		—	—	—	—	2	—	2
日本語上級(日本語F/日本語H)		—	—	—	1	—	0	1
はじめての漢字		2	—	5	—	5	—	12
はじめての作文		4	—	8	—	5	—	17
はじめての会話		7	—	11	—	9	—	27
日本事情 1		—	0	—	4	—	3	7
日本事情 2		4	—	4	—	3	—	11
多文化コミュニケーション 1 *4)		—	—	—	4	—	1	5
多文化コミュニケーション 2		—	—	—	—	0	—	0
応用日本語 1 *4)		—	—	—	0	—	2	2
応用日本語 2		—	—	—	—	2	—	2
日本の文化*4)		—	—	—	—	4	—	4
伝統産業 1		—	16	—	18	—	20	54

* 1) : 平成20年度秋学期の日本語初級クラス : 「日本語初級A」「日本語初級B」

* 2) : 平成20年度秋学期以降、「日本語中級」は共通教育科目の「日本語A/日本語C」(春学期)、「日本語B/日本語D」(秋学期)と合同授業。

* 3) : 平成20年度秋学期、「日本語上級」を開講。共通教育科目の「日本語E」/「日本語G」(春学期)「日本語F」/「日本語H」(秋学期)と合同授業。

* 4) : 平成20年度秋学期、「多文化コミュニケーション1」(秋学期)、「多文化コミュニケーション2」(春学期)、「応用日本語1」(秋学期)、「応用日本語2」(春学期)、「日本の文化」(春学期)を開講。

3. 運営状況

(1) プレースメントテスト

渡日前に学生の日本語力に関する調査を行うとともに、秋学期開始前にプレースメントテストを実施し、学生の日本語力に応じてクラス分けを行っている。短期プログラムAコースは日本語力初級レベルの学生を対象としているが、この数年来、初中級～中級レベルの学生が増加し、さらに1年の留学期間に日本語能力試験合格を目指す学生が本コースに参加するようになった。また、「話す・聞く」力がありコミュニケーションがある程度できても「読む・書く」力が不足しているために、学生の日本語力がプレースメントテストの結果に適正な形で反映されないケースが生じた。4技能のアンバランスをはじめ学生の日本語力が多様化する状況下において、従来の初級から上級までをカバーする大まかなテスト問題では、初級と初中級レベルの学生の日本語力を詳細に測定することが難しく、クラス分けの判定も困難となった。そこで平成22年度受け入れに向けて、初級担当の専任教員と非常勤講師がプレースメントテストの問題を検討し、初級・初中級の文法項目到達度を測定する問題を新規に作成した。一方、中級レベル以上と判定された学生は必要に応じて中・上級用のプレースメントテスト問題で対応することとした。

(2) 授業運営

以下に、留学生センターが開講する科目の授業運営および評価と課題について記す。

1) 日本語科目

① 「日本語初級」

「日本語初級」は短期プログラム生のための授業である。週4コマを専任教員1名と非常勤講師1名のチームティーチングで行い、コーディネーターは専任教員である。

表Ⅱ-10 「日本語初級」

開講年度	科目名 [担当教員]	授業運営		評価と課題
		教科書	目標	
19年秋期 ～ 21年秋期	日本語初級A [今尾ゆき子]	『みんなの日本語初級I』	・初級の基本的な文型と語彙の習得	・渡日が遅れた学生には、本来の授業と同時進行で補習授業を実施し、進度格差を是正する努力をしている。
19年秋期* ～ 21年秋期	日本語初級B [山中和樹]	『みんなの日本語初級I』	・初級の基本的な文型と語彙の習得	・第3週からディクテーションを実施したが、長音とカタカナ表記の誤りは最後まで出現した。

*平成19年秋期は山中教員の病気欠勤により、専任教員の授業担当はなく、非常勤講師2名が週4コマを担当し、コーディネーターとして今尾教員が入った。

② 「日本語初中級」

「日本語初中級」は短期プログラム生のための授業である。週4コマを専任教員1名と非常勤講師1名のチームティーチングで行い、コーディネーターは専任教員である。

表Ⅱ-11 「日本語初中級」

開講年度	科目名 [担当教員]	授業運営		評価と課題
		教科書	目標および成績評価	
19年秋期 ～ 21年秋期	日本語 初中級A [桑原陽子]	『みんなの日本語初級Ⅱ』	・初中級の基本的な文法・語彙の習得と円滑なコミュニケーションができる。	・コース終了後全員が帰国するため、受講生に達成感を持たせるよう、留学生活に役立つ学習活動を取り入れる必要がある。
19年秋期 ～ 21年秋期	日本語 初中級B [膽吹覚]	『みんなの日本語初級Ⅱ』	・初中級レベルの文法・語彙の習得とコミュニケーションができる。	・毎回3分間スピーチを導入した結果、学生の授業への参加意欲が向上した。 ・会話練習の要望があった。時間的に困難であるが、今後の検討課題としたい。

③「日本語中級」

平成19年度から20年度春学期までは、短期プログラム生のための授業で週1コマ2単位であった。20年秋学期から正規学部留学生や交換留学生等が受講する共通教育科目の「日本語A」～「日本語D」との合同授業となり、春学期は「日本語A」と「日本語C」、秋学期は「日本語B」と「日本語D」を履修して4単位とする。成績評価は各教科の成績をもとに担当教員2名で総合的に判断している。

表Ⅱ-12 「日本語中級」

開講年度	科目名 [担当教員]	授業運営		評価と課題
		教科書	目標	
19年春期 ～ 20年春期	日本語中級 [山中和樹]	『日本語中級J301』	・中級段階への橋渡し	・教材が易しすぎたきらいがある。 ・会話練習、新聞読解の希望があった。生教材の使用も要検討である。
20年秋期	日本語中級 (日本語B) [膽吹覚]	『大学で学ぶための日本語ライティング』	・レポート、論文などの文章を書く技術の習得	・課毎の課題作文の提出と教員の添削により作文能力が向上した。 ・非漢字圏学生の漢字力向上のため授業に漢字学習を取り入れたい。
	日本語中級 (日本語D) [山中和樹]	プリント (『実践日本語の作文』)	・初級文法の定着 ・レポートや論文を書く技術の習得	・作文練習の成果が認められた。

21年春期	日本語中級 (日本語A) [桑原陽子]	『大学で学ぶための日本語ライティング』	・レポート作成に必要な表現や文型を学ぶ。	・練習問題(毎回)とレポート作成(2回)を課すことで日本語力が著しく向上した。
	日本語中級 (日本語C) [山中和樹]	プリント (雑誌記事)	・擬音語・擬態語、助詞の使い分け	・読解力、文法知識、語彙力の向上が見られた。
21年秋期	日本語中級 (日本語B) [山中和樹]	プリント (『速読文化エピソード』)	・速読による内容理解	・平易なテキストに変更した結果、アンケートで「大いに満足」との回答を得た。
	日本語中級 (日本語D) [膽吹覚]	『大学・大学院留学生の日本語①読解編』	・論理的な文章読解技術の習得	・毎回、作文を課して教員が添削。少人数のため丁寧な指導ができた。

④「日本語上級」

「日本語上級」は共通教育科目の「日本語E」～「日本語H」との合同授業で、春学期は「日本語E」と「日本語G」、秋学期は「日本語F」と「日本語H」を履修して4単位とする。成績評価は各教科の成績をもとに担当教員2名で総合的に判断している。

表Ⅱ-13 「日本語上級」

開講年度	科目名 [担当教員]	授業運営		評価と課題
		教科書	目標	
20年秋期	日本語上級 (日本語F) [今尾ゆき子]	『日本語能力試験[1級]対策問題集』	・日本語能力1級レベルの文法・語彙の習得	・共通教育科目との合同授業となり、当初、学部生・交換留学生等とのレベル差が大きく心配されたが、語彙力が大きく向上した。
	日本語上級 (日本語H) [桑原陽子]	プリント (新聞記事等)	・新聞記事等を読み、討論することで総合的に日本語力を伸ばす。	・共通教育科目との合同授業で、短プロ学生にはレベルが多少高かった。非漢字系学生が受講する場合は、レベル設定が課題となろう。
21年春期	日本語上級 (日本語E) [膽吹覚]	『なめらか日本語会話』	・大学生活で役に立つ実践的な会話力を養う。	・共通教育科目との合同授業で受講生が25名と多く、発音練習やロールプレイ等が十分できなかった。
	日本語上級 (日本語G) [今尾ゆき子]	『日本語上級読解』	・文章要約により語彙力、読解力、文章作成力を養う。	・毎回の課題作文提出と添削で、語彙力、表現力の向上が見られた。 ・読解の授業は非漢字圏の学生には漢字語彙・表現が難しすぎた。レベル設定が課題である。

⑤日本語技能別科目：

技能別科目は、初級および初中級レベルの学生が受講する「はじめての漢字」「はじめての会話」「はじめての作文」の3科目が春学期に開講され、専任教員が担当している。秋学期の「日本語初級」修了時に学生から受講希望をとり、科目によって受講者数にバラツキがあるものの、原則として学生の希望どおりに受講を認めてきた。しかし、「はじめての会話」は毎回受講者多数で授業運営に支障をきたすことから、平成23年度受け入れから2クラス体制をとることにしている。

表Ⅱ-14 日本語技能別科目

開講年度	科目名 [担当教員]	授業運営		評価と課題
		教科書	目標	
19年秋期 ～ 21年秋期	はじめての漢字 [今尾ゆき子]	『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字英語版』	・漢字の読み方、書き方を学ぶ。 112漢字、170漢字語の習得	・全員非漢字圏の学生で熱心かつ成績優秀。 ・漢字の読みに誤表記が目立つ。文法クラスとの連携が必要。
19年秋期 ～ 21年秋期	はじめての作文 [山中和樹]	『みんなの日本語初級やさしい作文』	・基本的な文型や表現を習得し、様々なテーマで作文を行う。	・出席・授業態度、課題提出状況は良好。 ・個々の学生の誤りで、間違えやすいものは板書して情報を共有。
19年秋期 ～ 21年秋期	はじめての会話 [中島清]*	『みんなの日本語初級Ⅰ』 『みんなの日本語初級Ⅱ』	・学内・学外の会話で自分の趣味や専門など話せるようにする。	・受講者多数により、会話練習、発表の時間がとれなかった。 ・発表は話題が広範囲に及ぶため他の学生が興味をもてない。 ・受講者にレベル差があり、低い方に合わせる必要があった。

*平成21年度秋期担当教員：山中和樹

2) 日本事情科目

日本事情科目は中級以上の学生を対象として、秋学期に3科目（「日本事情1」「多文化コミュニケーション1」「応用日本語1」）、春学期に4科目（「日本事情2」「多文化コミュニケーション2」「応用日本語2」「日本の文化」）が開講されている。

表Ⅱ-15 日本事情科目

開講年度	科目名 [担当教員]	授業運営		評価と課題
		教科書	目標	
19年秋期 ～ 21年秋期	日本事情 1 [今尾ゆき子]	プリント（『日本を知る』）	・日本の社会構造や文化、価値観を学ぶ。	・見学授業や俳句大会・かたるた大会等に学生は積極的に取り組んだ。 ・見学授業に使うバスの定員（20名）から受講者数は限界である。
19年春期 ～ 21年春期	日本事情 2 [膽吹覚] [山中和樹] ¹⁾	プリント	・日本の風土・年中行事を学ぶ（19年）。 ・基礎的な日本地理や歴史を学ぶ（20年）。 ・福井県各市町村の研究（21年）	・学生は十分な資料収集・準備をして発表に臨んだことは評価できる ・講義形式の場合は、一方通行的になりがちである。
20年秋期 ～ 21年秋期	多文化コミュニケーション 1 ²⁾ [山中和樹]	プリント	・日本人学生と留学生との質疑応答を通じて異文化との交流方法を学ぶ。	・日本人を含む学部学生との日本語力格差が懸念されたが、本コースの学生のほうが積極的であった。
21年秋期	応用日本語 1 [山中和樹] ³⁾	ビデオ（『僕の生きる道』）	・テレビドラマを通して日本の社会・精神風土を理解する。	・高視聴率を記録した人気ドラマは学生に好評であった。
21年春期	応用日本語 2 [山中和樹]	プリント（「仕事常識」）	・日本企業の職場マナーを学ぶ。	・非正規生・正規生双方に有用な記事を厳選していく必要がある。
21年春期	日本の文化 [膽吹覚]	プリント	・日本の伝統的な遊戯を通して日本文化や日本人の心性を考える。	・学生に遊戯を体験させることで授業への意欲は高まったが、文化論への展開が不十分であった。

注 1)：平成20年度春期担当教員：山中和樹。

2)：「多文化コミュニケーション 2」（平成21年度春期）：受講者ゼロ。

3)：「応用日本語 1」（平成20年度秋期 担当教員：中島清）：受講者ゼロ。

①「伝統産業1」「伝統産業2」

表Ⅱ-16 「伝統産業」

開講年度	科目名 [担当教員]	授業運営		評価と課題
		教科書	目標および成績評価	
19年秋期 ～ 21年秋期	伝統産業1* [中島清]	プリント	・福井の伝統産業を見学することで現代日本社会への理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・生産現場を訪問して伝統工芸士から直接話を聞くので講義では得難い知識と体験が得られる。 ・福井市郊外に限定したため、見学先の確保が難しく秋期開講のみとなっている。 ・20名近い受講者全員に説明が聞こえない（トランシーバにより解決） ・訪問先は狭い工場が多く春／秋期の分割受講が望ましいがバスの手配の関係上実現していない。

*「伝統産業2」（春期）：不開講。

4. 評価

短期プログラムで開講している全科目において、毎年学期末に、受講者に対して授業に関するアンケート調査を実施している。また、「かな教材」の渡日前送付に関しても秋学期終了時にアンケート調査を実施している。以下、教育の成果と学生の要望についてアンケート調査をもとに述べる。

（1）教育の成果

1) 開講科目

アンケートの結果（表Ⅱ-18～Ⅱ-20）によれば、教材の選定、教員の教授法、学生への対応、授業に対する満足度など概ね高い評価を得ている。

自由記述の欄には、日本語が上達し、日本語学習の成果があったとの感想が「日本語初級」と「日本語初中級」の受講生に多い。とりわけ初級に多く見られるのは、日本語未習で来日し、日本語の授業を受けることで日本語力が日々上達していくのが実感できるからであろう。「冬休み中も開講してほしい」「週4コマから5コマに増やしてほしい」「日本語の授業が一番楽しい」といった日本語学習に対する熱意が強いのも初級・初中級レベルの特徴といえよう。多くの学生が「日本語初級」あるいは「日本語初中級」の他に技能別科目を受講し、必修単位数10単位の倍近くを履修していることから、意欲的に日本語学習に取り組んでいることがわかる。

一方、「中級」レベルと判定される学生が本コースに参加するようになり、次の春学期には「上級」科目を受講する学生も出てきた。平成20年度から「日本語中級」、「日本語上級」は共通教育の日本語科目と合同授業となった。「日本語上級」は1級取得者も受講するため、本コースの学生、特に非漢字圏の学生にとってはレベルが少し高すぎる状況にあるが、日本語能力試験を目指

す漢字圏の学生にとってはよい刺激となろう。また、日本事情系科目は従来の「日本事情」に加え、「多文化コミュニケーション」「応用日本語」「日本の文化」が開講されて、文化系科目が充実し科目選択の幅が広がった。受講者の満足度が高い「伝統産業」(表Ⅱ-16)とともに日本の文化・社会についての知識を得るのに成果をあげている。

2) 「かな教材」の渡日前送付

平成18年度から「ひらがな・かたかな」の教材冊子と発音練習用テープを渡日前の7月中に短期プログラムAコースの全参加者に所属大学を通じて送付している。送付状には、渡日後のプレースメントテストでひらがなとカタカナの確認テストを行う旨を記して、「ひらがな」の渡日前習得を半ば義務づけている。本コースは原則として日本語未習者を対象に「かな・漢字」版の教材を使用しており、本学における日本語学習をスムーズに行うためには、授業開始前に少なくとも「ひらがな」を覚えてくることが不可欠と判断されるからである。

平成18年度以前は、授業開始後もひらがなが覚えられず授業についていくことができない学生が散見されたが、かな教材の渡日前送付以降はほとんどの学生がひらがなを習得してくるようになった。アンケート調査の結果にも、初級の学生からは「役に立った」という意見が多く、「かな教材」の渡日前送付により初級日本語学習の成果はあがっているといえよう。一方、初中級以上の学生は「送付の必要なし」「かなを勉強していない人に送ればよい」というものが多い。当然の結果であるが、渡日前の日本語学習歴および日本語力については自己申告に依っており、学習歴から中級と判断して教材を送付しなかったところ「ひらがな」の習得も不十分な事例があった経緯から、現在は全員に送付している。

(2) 学生の要望

アンケートの自由記述の欄には授業に対する学生の要望が記述されている。表Ⅱ-17に自由記述を要約する。

表Ⅱ-17 授業に対する要望

科目	自由回答(要望要約)
日本語初級	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を使う機会や自由会話の練習がもっとあるとよい ・日本語を忘れないよう冬休みも日本語クラスを開講してほしい。 ・週4コマから5コマに増やして欲しい。 ・4コマとも一人の先生のほうがいい。
日本語初中級	<ul style="list-style-type: none"> ・教室外(スーパー、駅など)での日本語の授業があるとよい。 ・毎回全員3分間スピーチはよかった。 ・クラスで他の学生と現代社会について討論したい。 ・ゲームなどもっと取り入れてほしい。 ・4コマとも一人の先生のほうがいい。 ・初級のクラスが初中級に持ち上がる(変えない)ほうがよい。
日本語中級	<ul style="list-style-type: none"> ・このクラスは自分にとって簡単すぎた。テキストもレベルが低い。 ・中・上級レベルの技能別科目(漢字、会話、作文)があるといい。 ・授業のスピードが少し遅い。
はじめての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマは少なすぎる。 ・週2コマ開講または日本語クラスで漢字をもっと教えてほしい。

はじめての会話	・人数が多くて、時々声が聞こえない。
日本事情	・見学授業でもう少し時間に余裕があるとよい。
伝統産業	・天候のよくない秋学期でなく、春学期にしてほしい。 ・見学の後、意見交換の機会があるとよい。 ・イヤホンはあまり良くない。全員必ずしも必要ない。

表Ⅱ-18 「日本語・日本事情科目」アンケート結果（平成21年度春学期）

1. このクラスについて、こたえの□に×をかくて下さい

	強く そう思う strongly agree	少し そう思う somewhat agree	どちらとも 言えない Neither agree or disagree	あまりそう 思わない somewhat disagree	まったくそう 思わない strongly disagree
(1) テキストや教材は満足できるものだった					
The textbooks and/or teaching materials used were satisfactory.					
初中級A（7名中7名回答）	6	1	0	0	0
初中級B（6名中6名回答）	5	1	0	0	0
中級A（1名中1名回答）	1	0	0	0	0
中級C（1名中1名回答）	1	0	0	0	0
上級E（2名中1名回答）	1	0	0	0	0
上級G（2名中2名回答）	0	1	1	0	0
はじめての漢字（5名中5名）	4	1	0	0	0
はじめての作文（5名中5名）	3	2	0	0	0
はじめての会話（9名中9名）	6	3	0	0	0
日本事情2（2名中2名回答）	0	0	2	0	0
多文化コミュニケーション2（4名中3名回答）	0	3	0	0	0
日本の文化（4名中4名回答）	3	0	1	0	0
応用日本語2（2名中2名回答）	0	2	0	0	0

(2) テキストや教材の内容は理解できた

	強く そう思う strongly agree	少し そう思う somewhat agree	どちらとも 言えない Neither agree or disagree	あまりそう 思わない somewhat disagree	まったくそう 思わない strongly disagree
I could understand the content of the textbooks and/or teaching materials used.					
初中級A	6	1	0	0	0
初中級B	5	1	0	0	0
中級A	1	0	0	0	0
中級C	1	0	0	0	0
上級E	1	0	0	0	0
上級G	0	1	1	0	0
はじめての漢字	5	0	0	0	0
はじめての作文	4	1	0	0	0
はじめての会話	8	1	0	0	0
日本事情2	0	0	2	0	0
多文化コミュニケーション2	0	3	0	0	0
日本の文化	3	0	1	0	0
応用日本語2	0	2	0	0	0

(3) 先生の声や言葉は聞き取りやすかった

	強く そう思う strongly agree	少し そう思う somewhat agree	どちらとも 言えない Neither agree or disagree	あまりそう 思わない somewhat disagree	まったくそう 思わない strongly disagree
The instructor spoke clearly.					
初中級A	6	1	0	0	0
初中級B	6	0	0	0	0
中級A	1	0	0	0	0
中級C	1	0	0	0	0
上級E	1	0	0	0	0
上級G	0	1	1	0	0
はじめての漢字	5	0	0	0	0
はじめての作文	5	0	0	0	0
はじめての会話	7	2	0	0	0
日本事情2	2	0	0	0	0
多文化コミュニケーション2	2	1	0	0	0

日本の文化	4	0	0	0	0
応用日本語 2	1	0	1	0	0

(4) 先生は適切な板書を行った

The instructor wrote clearly on the board.

初中級 A	7	0	0	0	0
初中級 B	6	0	0	0	0
中級 A	1	0	0	0	0
中級 C	1	0	0	0	0
上級 E	1	0	0	0	0
上級 G	0	1	1	0	0
はじめての漢字	5	0	0	0	0
はじめての作文	5	0	0	0	0
はじめての会話	6	3	0	0	0
日本事情 2	2	0	0	0	0
多文化コミュニケーション 2	3	0	0	0	0
日本の文化	2	2	0	0	0
応用日本語 2	1	1	0	0	0

(5) 先生の説明はわかりやすかった

The explanations by the instructor were easy to understand.

初中級 A	5	2	0	0	0
初中級 B	6	0	0	0	0
中級 A	1	0	0	0	0
中級 C	1	0	0	0	0
上級 E	1	0	0	0	0
上級 G	0	1	1	0	0
はじめての漢字	5	0	0	0	0
はじめての作文	4	1	0	0	0
はじめての会話	6	2	1	0	0
日本事情 2	2	0	0	0	0
多文化コミュニケーション 2	2	1	0	0	0
日本の文化	4	0	0	0	0
応用日本語 2	1	1	0	0	0

(6) 先生は学生の質問に対して適切に答えた

The instructor answered our questions properly.

初中級 A	6	1	0	0	0
初中級 B	5	1	0	0	0
中級 A	1	0	0	0	0
中級 C	1	0	0	0	0
上級 E	1	0	0	0	0
上級 G	0	0	1	0	0
はじめての漢字	4	1	0	0	0
はじめての作文	5	0	0	0	0
はじめての会話	6	2	1	0	0
日本事情 2	2	0	0	0	0
多文化コミュニケーション 2	1	2	0	0	0
日本の文化	2	2	0	0	0
応用日本語 2	1	1	0	0	0

(7) 授業のスピードが速すぎた

The tempo of the class was too fast.

初中級 A	1	1	2	2	1
初中級 B	0	0	2	2	2
中級 A	0	0	0	1	0
中級 C	0	0	0	1	0
上級 E	0	1	0	0	1
上級 G	0	0	1	1	0
はじめての漢字	0	0	4	1	0
はじめての作文	0	0	3	1	1

はじめての会話	1	0	4	3	1
日本事情2	0	0	0	0	2
多文化コミュニケーション2	0	1	0	1	1
日本の文化	0	0	0	2	2
応用日本語2	0	1	1	0	0

(8) 宿題が多すぎた

There was too much homework.

初中級A	1	0	4	1	1
初中級B	0	3	1	1	1
中級A	0	0	0	1	0
中級C	0	0	0	1	0
上級E	0	0	0	0	1
上級G	0	1	0	1	0
はじめての漢字	0	0	3	2	0
はじめての作文	0	0	1	3	1
はじめての会話	1	0	1	4	3
日本事情2	0	0	0	1	1
多文化コミュニケーション2	0	0	0	1	3
日本の文化					
応用日本語2	0	0	1	1	0

(9) テストが多すぎた

There was too much test/or quiz.

初中級A	1	0	4	2	0
初中級B	0	2	2	1	1
中級A	0	0	0	1	0
中級C	0	0	0	1	0
上級E	0	0	0	0	1
上級G	0	0	1	0	1
はじめての漢字	0	0	3	2	0
はじめての作文	0	0	2	1	1
はじめての会話	1	0	1	3	4
日本事情2	0	0	0	0	2
多文化コミュニケーション2	0	0	0	0	3
日本の文化	0	0	0	2	2
応用日本語2	0	1	1	0	0

2. あなたは、総合的に判断して、この授業に満足しましたか。

Overall, were you satisfied with this class?

	たいへん満足	少し満足	どちらとも言えない	少し不満	たいへん不満
	very satisfied	somewhat satisfied	Neither satisfied nor dissatisfied	somewhat dissatisfied	very dissatisfied
初中級A	6	1	0	0	0
初中級B	6	0	0	0	0
中級A	1	0	0	0	0
中級C	1	0	0	0	0
上級E	2	0	0	0	0
上級G	0	1	1	0	0
はじめての漢字	3	2	0	0	0
はじめての作文	5	0	0	0	0
はじめての会話	8	1	0	0	0
日本事情2	1	0	1	0	0
多文化コミュニケーション2	1	2	0	0	0
日本の文化	4	0	0	0	0
応用日本語2	1	1	0	0	0

表Ⅱ-19 「日本語・日本事情科目」アンケート結果（平成21年度秋学期）

1. このクラスについて、こたえの□に×をかくて下さい

	強く そう思う	少し そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
	strongly agree	somewhat agree	Neither agree or disagree	somewhat disagree	strongly disagree
(1) テキストや教材は満足できるものだった					
The textbooks and/or teaching materials used were satisfactory.					
初級A（8名中8名回答）	7	1	0	0	0
初級B（5名中5名回答）	5	0	0	0	0
初中級（4名中4名回答）	4	0	0	0	0
中級B（3名中3名回答）	1	0	1	1	0
中級D（3名中3名回答）	3	0	0	0	0
日本事情1（3名中3名回答）	1	2	0	0	0
応用日本語1（2名中2名回答）	1	1	0	0	0
多文化コミュニケーション1（1名中1名回答）	1	0	0	0	0
(2) テキストや教材の内容は理解できた					
I could understand the content of the textbooks and/or teaching materials used.					
初級A	8	0	0	0	0
初級B	4	1	0	0	0
初中級	4	0	0	0	0
中級B	3	0	0	0	0
中級D	3	0	0	0	0
日本事情1	1	2	0	0	0
応用日本語1	1	1	0	0	0
多文化コミュニケーション1	1	0	0	0	0
(3) 先生の声や言葉は聞き取りやすかった					
The instructor spoke clearly.					
初級A	8	0	0	0	0
初級B	5	0	0	0	0
初中級	4	0	0	0	0
中級B	3	0	0	0	0
中級D	3	0	0	0	0
日本事情1	2	1	0	0	0
応用日本語1	1	1	0	0	0
多文化コミュニケーション1	1	0	0	0	0
(4) 先生は適切な板書を行った					
The instructor wrote clearly on the board.					
初級A	8	0	0	0	0
初級B	5	0	0	0	0
初中級	4	0	0	0	0
中級B	3	0	0	0	0
中級D	3	0	0	0	0
日本事情1	2	1	0	0	0
応用日本語1	2	0	0	0	0
多文化コミュニケーション1	1	0	0	0	0
(5) 先生の説明はわかりやすかった					
The explanations by the instructor were easy to understand.					
初級A	8	0	0	0	0
初級B	3	1	0	0	0
初中級	3	1	0	0	0
中級B	3	0	0	0	0
中級D	3	0	0	0	0
日本事情1	3	0	0	0	0
応用日本語1	2	0	0	0	0
多文化コミュニケーション1	1	0	0	0	0

(6) 先生は学生の質問に対して適切に答えた

The instructor answered our questions properly.

初級A	8	0	0	0	0
初級B	4	1	0	0	0
初中級	3	1	0	0	0
中級B	0	0	0	0	0
中級D	3	0	0	0	0
日本事情1	3	0	0	0	0
応用日本語1	2	0	0	0	0
多文化コミュニケーション1	1	0	0	0	0

(7) 授業のスピードが速すぎた

The tempo of the class was too fast.

初級A	1	0	4	0	3
初級B	1	0	0	4	0
初中級	0	0	0	3	1
中級B	0	0	0	1	2
中級D	0	0	0	2	1
日本事情1	0	0	1	2	0
応用日本語1	0	0	0	2	0
多文化コミュニケーション1	0	0	0	1	0

(8) 宿題が多すぎた

There was too much homework.

初級A	0	0	1	2	5
初級B	0	0	2	3	0
初中級	0	0	1	2	0
中級B	0	0	1	0	2
中級D	0	0	0	3	0
日本事情1	0	0	1	2	0
応用日本語1	0	0	0	2	0
多文化コミュニケーション1	0	0	0	0	1

(9) テストが多すぎた

There was too much test/or quiz.

初級A	0	0	1	3	4
初級B	0	1	2	1	0
初中級	0	0	1	2	1
中級B	0	0	1	0	2
中級D	0	0	1	1	1
日本事情1*	3/1	0/0	0/1	0/1	0/0
応用日本語1	0	0	1	0	1
多文化コミュニケーション1	0	0	0	0	1

2. あなたは、総合的に判断して、この授業に満足しましたか。

Overall, were you satisfied with this class?

	たいへん満足	少し満足	どちらとも言えない	少し不満	たいへん不満
	very satisfied	somewhat satisfied	Neither satisfied nor dissatisfied	somewhat dissatisfied	very dissatisfied
初級A	8	0	0	0	0
初級B	5	0	0	0	0
初中級	4	0	0	0	0
中級B	1	2	0	0	0
中級D	3	0	0	0	0
日本事情1	1	2	0	0	0
応用日本語1	1	1	0	0	0
多文化コミュニケーション1	1	0	0	0	0

*日本事情1：見学授業について満足しましたか。 ①福井県立博物館 / ②福井市立郷土歴史博物館

表Ⅱ-20 「伝統産業」アンケート結果（平成21年度秋学期）

たんぽろ(伝統産業) 回収率90%(18/20)
Questionnaire for Traditional Industry Class(fill in v)

	strongly agree	somewhat agree	Neither agree or disagree	somewhat disagree	strongly disagree
(1)教材は満足できるものであった。 The leaflets or explanatory materials used were satisfactory.	14	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2)教材、配布資料の内容は理解できた。 I could understand the content of the leaflets or explanatory materials	12	5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3)見学時の説明は満足できるものであった。 The explanations during the visits were satisfactory.	14	3	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4)見学時の英語通訳は満足できるものであった。 English interpretations during the visit were satisfactory.	13	4	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(5)教員は質問に適切に答えた。 The instructor answered our questions properly.	11	5	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(6)宿題(報告書)が多すぎた。 There was too much homework(reports)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	8	8	2
(7)工場見学件数はどうでしたか。 How was the number of the visits ?	<input type="checkbox"/> too many	<input type="checkbox"/> a bit many	11 proper	7 a bit few	too few
(8)どの見学先が役に立ちましたか。 Which visit was most useful for you?(fill in 1,2,3 on priority basis when you choose more than one visit)	<input type="checkbox"/> Echizen Shikki(Lacquer Ware) <input type="checkbox"/> Echizen Uchihamono(Cutley) 1 Soba Dojo(Soba Noodle Training Center) 2 Echizen Washi (Japanese traditional paper) 3 Echizen Takeningyo(Bamboo Dolls) <input type="checkbox"/> Echizen Yaki(Pottery)				
(9)全般にこの講座に満足しましたか。 Overall, were you satisfied with this class?	14 very satisfied	4 somewhat satisfied	<input type="checkbox"/> neither satisfied nor dissatisfied	<input type="checkbox"/> somewhat dissatisfied	<input type="checkbox"/> very dissatisfied
(10)他に訪問したい産業があったら書いてください。 Write down any other field(s) of industry where you wanted to visit.	ikebana,めがね、seaside, mountain, 日本の剣道と書道、Non-traditional industries (like a big company), car, electronics, 北海道、沖縄、東京、京都、若狭				

(11)その他コメントがあれば、何でも書いてください。

⑪ If you have any comments about this class, feel free to write them down below

- | | |
|---|---|
| 1) I am very satisfied with this class! Really! | 5) Thank you again. And your caring about us. We always feel this. 本当にありがとうございました。 |
| 2) I really enjoyed myself in this class. | |
| 3) This class is really cool. I have learn lots of the traditional arts of Fukui. Thank you very much sir. | 6) I really enjoyed this class. It was so interesting to learn about all these different things and gets to see people working with their hands. |
| 4) Thanks for letting me know Japan's traditional industries. Learning experience while going to learn a lot of points. | 7) I had a great time with this class! I think it is a very good idea to offer a class like this to international/exchange students, and I wish universities in America did the same thing. |

5. 課 題

(1) 学生の渡日時日本語力とクラス編成

学生の渡日までに、日本語学習時間数および日本語能力テスト結果など学生の日本語力に関する情報を収集している。特に、ここ数年来は本コースに既習者が参加するようになり、日本語既習者の学習歴については、使用教科書、学習内容、日本語クラスのレベル等、より詳細な情報が必要になってきている。既習者の日本語力に関する自己認識と留学生センターが行うプレースメントテストの結果に基づくレベル判定・クラス配属との間に齟齬が生じ、クラス変更を希望する学生が出てきたからである(表Ⅱ-21)。

表Ⅱ-21 プレースメントテスト結果に基づくクラス編成

年度	受講者数	初級	初中級	中級	上級
平成19年度	16	12	4	0	0
平成20年度	18	13	1	2	2
平成21年度	20	13	4	3	0

平成19年度のプレースメントテストでは、「初級」12名、「初中級」2名、「中級」2名であった。しかし、非常勤講師予算の点から、2名のために中級クラスを編成することが出来ず、中級

レベルの2名を初中級クラスに振り分けた。その結果、以下のような学生の不満が生じた。

- 1) 母校での日本語既習クラスが「中級」であり、自己の日本語力に対する自己認識も中級以上である。
- 2) プレースメントテストの問題様式に不慣れなために、テストに自己の実力が反映されていない（テストの得点が自分の予想以上に低い）
- 3) 提携校との単位互換制度により、本学での「中級」「上級」の単位取得を目的としている。
- 4) 中級レベル以上の学習内容を希望している（初中級クラスの授業では簡単すぎる）。

このような不満に対処すべく、平成20年度から少数の中・上級学生が受講できる「日本語中級」と「日本語上級」を共通教育の中級クラス（「日本語A（中級）」～「日本語D（中級）」）、上級クラス（「日本語E（上級）」～「日本語H（上級）」）と合同授業のかたちで開講した。同様に、中・上級者が1年間で日本語・日本事情科目10単位を取得できるよう、「多文化コミュニケーション」「応用日本語」「日本の文化」を開講した。

（2）中級・上級学生の履修

中級・上級と判定された学生は合同授業の「日本語中級」あるいは「日本語上級」クラスを受講することになるが、非漢字圏の学生は授業についていくのが困難な場合が多い。とりわけ、中級レベルと判定された非漢字圏の学生が第1期（秋期）に「日本語中級」を履修後、第2期（春期）に「日本語上級」を受講する場合は厳しい状況に置かれる。上級クラスは日本語能力1級あるいは超級（330点以上）レベルの漢字圏学生も受講し、テキストは読解・作文が中心となるため、漢字語彙力に劣る上に会話やコミュニケーションの上達を希望する非漢字圏の学生は授業に対する満足度が低くなる傾向にある。したがって、今後は「日本語中級」履修後に「日本語上級」を受講しないで、「日本事情」「日本の文化」「多文化コミュニケーション」「応用日本語」など日本事情科目を選択するよう履修指導するのをもひとつの方策と考えられる。

（3）日本語既習者の日本語学習に関する情報収集

短期プログラムBコース（交換留学生）は日本語能力試験2級以上または日本留学試験日本語科目200点以上を出願資格として、その合格通知書または得点票の提出を義務づけている。これに対して、Aコースは本来日本語未習者（日本語力ゼロ）を対象とするため、これまでは「日本語学習歴無し」といった自己申告で事足りてきた。しかし、ここ数年来、提携校で日本語を学習した既習者がAコースに参加するようになり、既習者の日本語学習に関する情報収集が十分とは言えない事態となっている。本コース参加者の日本語力および日本語学習歴はすべて本人の渡日前自己申告によるもので、既習者においても日本語能力テスト（N1～N4）など客観的な証明書の提出はまれである。近年は本コースにも能力テスト受験を目指す学生が参加するようになり、能力テスト結果を報告するケースがでてきた。しかし非漢字圏の学生の場合は、日本語学習歴や日本語レベルだけでなく学習の目的も目標も曖昧なままである。このような状況下において満足度の高い日本語教育を行うために、既習者の日本語学習に関する予備調査項目（日本語学習の目的、日本語学習時間、使用教材など）を整備し、提携校に対して本コース参加者に関する詳細かつ客観的な情報提供を求める必要がある。また、提携校の日本語教育（使用教材、教授法、授

業時間数など)に関する情報や、修了生についての情報のフィードバックなど、提携校との連絡を密にして情報収集のための方策を検討する必要がある。

2-3. 日韓共同理工系学部留学生プログラム

(1) 経緯

平成15年4月に本学の留学生センターが省令化されたのを機に、文部科学省高等教育局留学生課学部留学生係より、日韓共同理工系学部留学生受入事業に関する事務連絡文書が平成15年6月12日付で届き、本学留学生センターに日韓共同理工系学部留学生プログラム(以下「日韓プログラム」と称す)を開設することとなった。

本事業は平成10年に日韓両国首脳により発表された日韓共同宣言に基づき実施されている事業であるが、本学は平成16年10月受入の第5期生から対応することとなった。

本日韓プログラムのカリキュラムを作成し、受入態勢を整えると同時に、平成15年以降毎年「日韓共同理工系学部留学生受入れ可能数等調査票」により受入可能である旨の回答をしているが、残念ながら、本学入学を希望する留学生がなかったため、本プログラムによる留学生受入はこれまでない。

(2) 課題

- ①本日韓プログラムによる留学生の入学先は留学生自身の希望を優先させるため、受入が実現するためには、本学が如何に魅力的であるか、また、その魅力を如何に周知できるかにかかっている。
- ②従って、渡日前に6ヶ月間韓国内で実施される前半期予備教育期間中に本学の情報を配信する手段を確保できるかの検討が必要である。

2-4. 全学向け日本語コース

(1) 目的

全学向け日本語コースは、福井大学で学ぶすべての留学生に対して、日常生活でのコミュニケーション能力、及び、勉学や研究活動に必要な日本語能力を養成することを目的とする。本コースはいわゆる補講であり、単位認定されず、その受講料は徴収していない。

(2) 開講状況

各学期13週間のコースとして開講している。通常であれば、前期は4月第4週から7月第4週までの13週間、後期は10月第4週から2月第1週までの13週間、それぞれ開講している。正規課程より2週間遅れて開講したのは、4月あるいは10月に渡日したばかりの留学生が初めての日本での生活に少し慣れて、余裕をもって手続きができるようにとの配慮からである。なお、福井大学の正規の課程の授業であれば、各期15週が確保されているが、本コースはいわゆる補講であり、その対象外と考えている。

(3) 教 室

本コースは、福井大学文京キャンパスにある留学生センターで開講されている。主として使用されるR121教室の定員は約12名である。

(4) 受講対象者、並びに受講者の所属分布

本学で学ぶすべての留学生を対象とする。ただし、定員に余裕があれば、外国人教員並びに外国人研究者の受講を認めている。本コースの受講者を所属別にみると、例年、工学研究科の大学院生・研究生が全体の約90%を占める。その1例として、平成21年度後期のデータを表Ⅱ-22として掲げる。

表Ⅱ-22 平成21年度後期・全学向け日本語コース受講者の所属別人数

所 属	日本語Ⅰ	日本語Ⅱ	日本語Ⅲ	日本語Ⅳ	合 計
工学研究科大学院生	3	7	11	12	34
工学研究科研究生	9	2	1	0	12
工学部	0	0	0	1	1
教員研修生	0	1	2	0	3
短期留学生（Bコース）	0	1	0	1	2
外国人教員・研究者	1	0	0	0	0
合 計	13	11	13	14	51

(数字は21年10月時点の登録者数)

(5) 受講の申請方法

①新規に受講を希望する場合—プレースメントテスト—

新たに本コースの受講を希望する学生は、必ずプレースメントテストを受験しなければならない。前期は4月第3金曜日、後期は10月第3金曜日に、それぞれプレースメントテスト（筆記）を実施し、その結果に基づいて1レベルに限定して受講を認めている。なお、何らかの理由によって渡日が遅れた留学生に対しては、前期は4月第4金曜日、後期は10月第4金曜日に、それぞれ第2回のプレースメントテスト（筆記）を実施し、対応している。

表Ⅱ-23 プレースメントテスト受験者数

	日本語Ⅰ	日本語Ⅱ	日本語Ⅲ	日本語Ⅳ	合 計
19年度前期	2	5	7	5	19
19年度後期	15	3	3	4	25
20年度前期	3	5	6	7	21
20年度後期	14	4	0	0	18
21年度前期	4	2	6	1	13
21年度後期	11	6	5	2	24
合 計	49	25	27	19	120
平 均	8.2	4.2	4.5	3.2	20.0

表Ⅱ-23に示したとおり、19～21年度に実施したプレースメントテストの受験者数は、平均して1回に20名であった。このプレースメントテストの受験者の中には、嘗て短期留学プログラム（Aコース）に参加し、そこで1年間、日本語（初中級レベルまで）を学習した経験をもつ留学生も含まれている。彼らは、短期留学プログラム終了後、一旦帰国し、その後、再度渡日し、本学の大学院工学研究科博士前期課程の入学試験に合格して、本学の正規の大学院生として入学する。このように「短期留学プログラム（Aコース）→本学工学研究科大学院生」というコースを辿る留学生は、毎年一定数（約4、5名）存在する。彼らは短期留学プログラム（Aコース）において、既に初中級レベルの日本語能力を身に付けているが、再来日までに約半年のブランクがあるために、彼らが本コースを希望する場合はプレースメントテストの受験を義務付けている。「短期留学プログラム（Aコース）→本学工学研究科大学院生」というコースを辿る留学生は日本語の学習意欲が高く、大学院生となってからは本コースに参加し、日本語学習に励むものが多い。その意味において、本コースは短期留学プログラムの日本語教育と連携して、こうした進路を辿る留学生の日本語教育にも対応している。

②継続して受講する場合

前学期に全学向け日本語コースを受講し、新学期も継続して本コースの受講を希望する留学生は、所定の期間内（2週間）に、国際課留学生係（現在の学生サービス課留学生係）に置かれた申請用紙に署名することで、その申請が受理される。具体的には、前学期の修了テストで合格し、次学期も継続して本コースの受講を希望する学生は、プレースメントテストを受験せずに、その1つ上のレベルのクラスを受講できる。また、前学期の修了テストで不合格となったが、次学期も継続して受講を希望する学生は、プレースメントテストを受験せずに、前学期と同じレベルを再受講してもよい。また、あらためてプレースメントテストを受けて、前学期より1つ上のレベルと判定された場合はそのレベルの受講が認められる。なお、日本語Ⅳは修了テストの合否に関わらず、再履修を許可している。

表Ⅱ-24 継続受講学生数、並びに登録率

		日本語Ⅰ	日本語Ⅱ	日本語Ⅲ	日本語Ⅳ	合計
19年度 前期	登録可能人数	11	20	11	27	69
	登録人数	5	15	7	20	47
	登録率(%)	45	75	64	74	68
19年度 後期	登録可能人数	6	13	18	23	60
	登録人数	3	8	10	11	32
	登録率(%)	50	62	56	48	53
20年度 前期	登録可能人数	5	16	9	15	42
	登録人数	1	14	9	12	36
	登録率(%)	20	88	100	80	86
20年度 後期	登録可能人数	1	15	16	21	53
	登録人数	0	12	10	16	38
	登録率(%)	0	80	63	67	72

21年度 前期	登録可能人数	9	12	11	14	46
	登録人数	6	9	10	10	35
	登録率(%)	67	75	91	71	76
21年度 後期	登録可能人数	8	6	13	17	44
	登録人数	2	5	10	10	27
	登録率(%)	25	83	77	59	61
合計	登録可能人数	40	82	78	117	317
	登録人数	17	63	66	79	225
	登録率(%)	43	77	84	68	71

表Ⅱ-24は平成19～21年度の継続受講学生数とその登録率を示したものである。この表によると、この3年間は、全体では平均して71%の受講生が継続受講を申請している。この71%という数字は、本コースで学ぶ受講者の日本語学習に対する意欲の高さと、本コースの授業に対する受講生の満足度の高さを表わしていると解釈してよいであろう。ただし、科目別に見ると、日本語Ⅰの登録率だけが50%を下回り、43%に止まっている。これは前学期に日本語Ⅰを不合格になった留学生の再履修率が低さを示している。今後は、こうした初級レベルで日本語学習に躓いた留学生への支援をどうすべきか、検討する必要があるだろう。

(6) 教室運営

全学向け日本語コースは、コース全体を統括する総合コーディネーター（担当者：膽吹）のもと、科目ごとにセンター専任教員1名がコーディネーターとして配置されている。そして、その科目ごとのコーディネーターは、実際に授業を担当する謝金講師とともに、シラバス作成をはじめ、教科書の選定、授業の進度計画、修了テスト、評価などに携わり、教室運営が円滑に進むよう務めている。

(7) 開講科目

① 通常開講科目

平成19～21年度は学期ごとに日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳの4科目を開講した。日本語Ⅰはいわゆる初級レベルに、日本語Ⅱは初中級レベルに、日本語Ⅲは中級（前期）レベルに、日本語Ⅳは中級（後期）レベルに、それぞれほぼ相当する。この3年間に開講された科目ごとの概要を記すと表Ⅱ-25の如くである。

表Ⅱ-25 通常開講科目等一覧

〈平成19年度・前期〉

科目名	コマ/週	教科書	コーディネーター	担当教員
日本語Ⅰ	5	みんなの日本語初級Ⅰ	今尾ゆき子	市村葉子, 沢崎幸江, 敷田紀子
日本語Ⅱ	5	みんなの日本語初級Ⅱ	桑原陽子	沢崎幸江, 高瀬公子, 市村葉子, 敷田紀子
日本語Ⅲ	4	中級へ行こう	山中和樹	敷田紀子, 高瀬公子, 村上洋子
日本語Ⅳ	4	ニューアプローチ中級基礎編	膽吹覚	敷田紀子, 高瀬公子, 村上洋子

〈平成19年度・後期〉

科目名	コマ/週	教科書	コーディネーター	担当教員
日本語Ⅰ	5	みんなの日本語初級Ⅰ	今尾ゆき子	市村葉子, 高瀬公子, 村上洋子, 斎藤ますみ
日本語Ⅱ	5	みんなの日本語初級Ⅱ	桑原陽子	斎藤ますみ, 沢崎幸江, 高瀬公子
日本語Ⅲ	4	中級の日本語	山中和樹	沢崎幸江, 敷田紀子, 高瀬公子, 村上洋子
日本語Ⅳ	4	日本語上級読解—30の素材から見えてくる日本人のいま—	膽吹覚	敷田紀子, 市村葉子, 高瀬公子, 村上洋子

〈平成20年度・前期〉

科目名	コマ/週	教科書	コーディネーター	担当教員
日本語Ⅰ	5	みんなの日本語初級Ⅰ	今尾ゆき子	敷田紀子, 酢谷尚子, 高瀬公子, 沢崎幸江
日本語Ⅱ	5	みんなの日本語初級Ⅱ	桑原陽子	高瀬公子, 沢崎幸江, 酢谷尚子
日本語Ⅲ	4	中級の日本語 (前半部)	山中和樹	沢崎幸江, 村上洋子
日本語Ⅳ	4	中級の日本語 (後半部)	膽吹覚	酢谷尚子, 高瀬公子, 村上洋子

〈平成20年度・後期〉

科目名	コマ/週	教科書	コーディネーター	担当教員
日本語Ⅰ	5	みんなの日本語初級Ⅰ	今尾ゆき子	斎藤ますみ, 高瀬公子, 酢谷尚子
日本語Ⅱ	5	みんなの日本語初級Ⅱ	桑原陽子	高瀬公子, 酢谷尚子, 斎藤ますみ
日本語Ⅲ	4	新日本語の中級	山中和樹	酢谷尚子, 斎藤ますみ
日本語Ⅳ	4	日本語上級話者への道	膽吹覚	酢谷尚子, 高瀬公子

〈平成21年度・前期〉

科目名	コマ/週	教科書	コーディネーター	担当教員
日本語Ⅰ	5	みんなの日本語初級Ⅰ	今尾ゆき子	澤崎幸江, 斎藤ますみ, 高瀬公子, 酢谷尚子, 鶴町佳子
日本語Ⅱ	5	みんなの日本語初級Ⅱ	桑原陽子	斎藤ますみ, 高瀬公子, 酢谷尚子, 鶴町佳子
日本語Ⅲ	4	新日本語の中級	膽吹覚	酢谷尚子, 斎藤ますみ, 市村葉子
日本語Ⅳ	4	中級日本語文法要点整理ポイント20	山中和樹	酢谷尚子, 村上洋子

〈平成21年度・後期〉

科目名	コマ/週	教科書	コーディネーター	担当教員
日本語Ⅰ ^(注1)	5	みんなの日本語初級Ⅰ	桑原陽子	桑原陽子, 敷田紀子, 沢崎幸江
日本語Ⅱ	5	みんなの日本語初級Ⅱ	今尾ゆき子	高瀬公子, 酢谷尚子, 斎藤ますみ
日本語Ⅲ	4	新日本語の中級	膽吹覚	市村葉子, 酢谷尚子, 斎藤ますみ, 鶴町佳子
日本語Ⅳ	4	日本語上級読解—30の素材から見えてくる日本人のいま—	山中和樹	鶴町佳子, 斎藤ますみ, 高瀬公子, 村上洋子

(注1) 2009年後期から日本語Ⅰは日本語研修コースと合同授業となった。

②臨時開講科目 —日本語能力試験対策クラス—

平成21年度後期に日本語能力試験対策クラスを臨時に開講した。これは、この学期から日本語Ⅰを日本語研修コースとの合同授業の形態に変更したために、謝金講師費に若干のゆとりが生じたために、受講生からの要望に応えるかたちで開講したものである。ただし、12月に実施される日本語能力試験の1級か2級を必ず受験することを受講資格の条件とした。今回の日本語能力試験対策クラスの概要は下記の如くである。

表Ⅱ-26 日本語能力試験対策クラスの概要

開講期間：平成21年9月3日～12月3日

開講コマ数：全18コマ

コーディネーター：膽吹覚

教科書：プリント配布

科目名	担当教員	受講生数	合格者数	合格率
1級対策クラス	村上洋子	9	6	67%
2級対策クラス	斎藤ますみ	7	4	57%

平成21年度後期に臨時に開講した日本語能力試験対策クラスは、受講目標が明確なために、受講生の学習意欲は極めて高く、教員・留学生ともに、今後も継続して開講されることを希望する声が上がった。そこで、翌22年度からは、その名称を日本語能力試験対策講座と改称し、留学生センターの第2期中期目標・中期計画に位置づけ、全学向け日本語コースの新たな講座として再出発することになった。今後、本講座の更なる充実を図りたい。

(8) 受講者数の推移

平成19年度から平成21年度までの3年間に本コースに登録した留学生数を、学期ごとに平均化すると、表Ⅱ-27にあるとおり55名であった。この期間の本学の留学生総数は約230名であるから、留学生全体の約1/4が本コースに登録したことになる。また、留学生センターの規定である2/3以上の出席を満たした学生は、学期あたり平均で30名であった。この30名という数字が、本コースを実際に学んだ、学期ごとの留学生数といってよいであろう。これは、福井大学で学ぶ留学生のおよそ8人に1人が、本コースを実際に受講した計算になる。全学向け日本語コースは、留学生センターが実施する日本語教育の中で、最大の受け皿となっている。

このように本コースは留学生センターの日本語教育において重要な位置を占めるにも関わらず、表Ⅱ-27に示したとおり、この3年間は平成15～18年度の平均値と比較して、全科目を通じて、登録者数、2/3以上出席者数、合格者数のすべての点において、3年連続して減少している。これは深刻な問題であると理解している。その対応策については(13)課題で述べる。

(9) 修了テスト

全学向け日本語コースは単位が認定される正規のプログラムではないが、学期末には修了テストを実施し、その結果を優・良・可・不可で評価している。また、本コースの修了証明書を希望する留学生には留学生センター長名で修了証明書(日本語版・英語版)を交付している。

表Ⅱ-27 全学向け日本語コースの科目別・年度別の受講生数の推移

科目名	項目	19年度		20年度		21年度		19～21年度の平均	(参考) 15～18年度の平均
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
日本語Ⅰ	登録者数	3 (100)	17 (100)	4 (100)	14 (100)	13 (100)	13 (100)	10.7 (100)	15.3 (100)
	2/3以上出席者数	1 (33)	13 (76)	3 (75)	10 (71)	6 (46)	8 (62)	6.8 (64)	11.5 (75)
	合格者数	1 (33)	11 (65)	3 (75)	6 (43)	4 (31)	7 (54)	5.3 (50)	8.6 (56)
日本語Ⅱ	登録者数	22 (100)	11 (100)	19 (100)	16 (100)	9 (100)	11 (100)	14.7 (100)	16.8 (100)
	2/3以上出席者数	14 (64)	7 (64)	14 (74)	8 (50)	8 (89)	6 (55)	9.5 (65)	11.1 (66)
	合格者数	11 (50)	5 (45)	11 (58)	6 (38)	8 (89)	6 (55)	7.8 (53)	7.9 (47)

日本語Ⅲ	登録者数	16 (100)	14 (100)	15 (100)	10 (100)	16 (100)	13 (100)	14.0 (100)	17.6 (100)
	2/3以上 出席者数	9 (56)	9 (64)	5 (33)	6 (60)	9 (56)	6 (60)	7.3 (52)	10.6 (60)
	合格者数	6 (38)	8 (57)	5 (33)	6 (60)	6 (38)	6 (60)	6.2 (44)	6.4 (36)
日本語Ⅳ	登録者数	19 (100)	15 (100)	19 (100)	16 (100)	11 (100)	14 (100)	15.7 (100)	14.4 (100)
	2/3以上 出席者数	7 (37)	5 (33)	8 (42)	6 (38)	8 (73)	4 (29)	6.3 (40)	9.0 (63)
	合格者数	5 (26)	4 (27)	5 (26)	5 (31)	8 (73)	2 (14)	4.8 (31)	6.6 (46)
全体	登録者数	60 (100)	57 (100)	57 (100)	56 (100)	49 (100)	51 (100)	55.0 (100)	65.0 (100)
	2/3以上 出席者数	31 (52)	34 (60)	30 (53)	30 (54)	31 (63)	24 (47)	30.0 (55)	42.6 (66)
	合格者数	23 (38)	28 (49)	24 (42)	23 (41)	26 (53)	21 (41)	24.2 (44)	29.1 (45)

(単位は名。括弧内の数値は各学期の科目ごとに登録者数を分母とした割合を示す)

(10) 情報公開

留学生センターでは「日本語プログラム」を学期ごとに作成し、それをオリエンテーションで留学生に配布し、その中で、全学向け日本語コースの時間割や教科書、担当教員などの情報を公開し、留学生の便宜を図ってきた。加えて留学生センターのホームページでシラバスなどを公開し、本学で学ぶ留学生だけではなく、より広く学外にもその情報を公開し、提供している。

(11) 松岡キャンパスの日本語補講

松岡キャンパスでは、医学部という特殊性を考慮して、医学系留学生のニーズに合わせた日本語補講（通年）が開講されている。ただし、松岡キャンパスには留学生への日本語教育担当の専任教員は配置されておらず、そこで開かれる日本語教室は補講講師が担当している。なお、この補講講師の人事並びに経費、更には授業内容に至るまで、すべて医学部が管理運営しており、留学生センターは全く関与していない。参考までに平成19～21年度に開講された授業の概要を表Ⅱ－28として掲出する。

表Ⅱ－28 松岡キャンパス日本語補講の概要

<平成19年度>

科目名	コマ数	教科書	受講者数	担当教員
日本語課外補講(初級コース)	1/週	みんなの日本語初級Ⅰ	7	定啓子
日本語課外補講(中級コース)	2/週	みんなの日本語初級Ⅱ	7	森田智子

<平成20年度>

科目名	コマ数	教科書	受講者数	担当教員
日本語課外補講（初級コース）	1／週	みんなの日本語初級 I	5	定啓子
日本語課外補講（中級コース）	2／週	日本語中級 J 301	7	森田智子

<平成21年度>

科目名	コマ数	教科書	受講者数	担当教員
日本語課外補講（初級コース）	1／週	みんなの日本語初級 I	9	定啓子
日本語課外補講（中級コース）	2／週	日本語中級 J 301	7	森田智子

(12) 評価

本コースでは受講生への授業アンケートを実施していない。しかし、表Ⅱ-24に示したとおり、本コースを受講した学生の71%が、継続して本コースを登録している。この71%という数字は、本コースで学ぶ受講者の日本語学習に対する意欲の高さと、本コースの授業に対する受講生の満足度の高さを表わしていると解釈してよいであろう。今後はしかし、後述する受講者数の減少という問題の解決に向けて、本コースの受講者への授業評価アンケート実施を視野に入れた検討が必要であろう。

(13) 課題

本コースの最大の問題は、表Ⅱ-27に示したとおり、全科目にわたって受講者数が減少していることである。平成15～18年度の受講者数を100とすると、平成19～21年度の3年間は、全体の登録率が15%減少し、2／3以上出席者数は30%も大幅に減少している。

この問題を解決するためには、本コース受講者に対する授業評価アンケートを実施し、その原因の解明を図る必要がある。アンケートでは、受講者への授業評価をはじめ、本コースで開講して欲しい科目など、受講生のニーズも探りたい。また、本コースに登録しながらも何等かの理由で受講しなかった、あるいは受講できなかった学生に対しては、なぜ継続して受講できなかったのか、その理由を率直に聞きだせるような質問を設けたい。そして、このアンケートの結果に基づいて、本コースの改善を図りたいと考えている。

3. 全学向けの教育

3-1. 共通教育

1. センター教員の担当科目

表Ⅱ-29に平成19年度から平成21年度まで留学生センター教員が担当した共通教育科目を示す。

表Ⅱ-29 共通教育担当科目

科目群	科目名	単位	担当教員		
			平成19	平成20	平成21
基礎教育科目	日本語A（中級）	2	山中	山中	桑原
	日本語B（中級）	2	膽吹	膽吹	山中
	日本語C（中級）	2	桑原	桑原	山中
	日本語D（中級）	2	山中	山中	膽吹
	日本語E（上級）	2	今尾	今尾	膽吹
	日本語F（上級）	2	今尾	今尾	桑原
	日本語G（上級）	2	膽吹	膽吹	今尾
	日本語H（上級）	2	桑原	桑原	今尾
教養教育・副専攻科目	応用日本語Ⅰ	2	中島	中島	山中
	応用日本語Ⅱ	2	中島	中島	山中
	日本事情A	2	膽吹	山中	膽吹
	日本事情B	2	今尾	今尾	今尾
	多文化コミュニケーションA ¹⁾ (異文化コミュニケーションA)	2	山中	山中	山中
	多文化コミュニケーションB ²⁾ (日本語コミュニケーションB)	2	不開講	今尾	不開講
	多文化コミュニケーションC ³⁾ (異文化コミュニケーション)	2	山中	不開講	山中
	日本の文化	2	膽吹	山中	膽吹
大学教育入門セミナー ⁴⁾	2	山中、桑原	担当なし	担当なし	

注：1)「多文化コミュニケーションA」は留学生対象の「異文化コミュニケーションA」と合同授業。

2)「多文化コミュニケーションB」は偶数年開講で、留学生対象の「日本語コミュニケーションB」と合同授業。

3)「多文化コミュニケーションC」は奇数年開講で、留学生対象の「異文化コミュニケーションC」と合同授業。

4) 異文化交流講座所属教員とのリレー講義。

2. プレースメントテスト

3年次編入生の中には、上級クラスで受講する能力があるにもかかわらず、奨学金取得のため、「優」の数を増やすのが目的で、プレースメントテストで故意に得点を低くして、中級クラスに配属される学生が出てきた。このため、平成22年度より、3年次編入生はすべてプレースメントテストを免除して、上級クラスを受講させることにした。

3. 運営状況

下の表からわかるように、平成19年度以降、1級レベルの能力を有する学生は明らかに減少傾向にある。また、中級クラスのレベルも低下していて、全体的な学生のレベルの低下が懸念される。(表Ⅱ-30)。しかしながら、2. プレースメントテストの項で述べたように、故意に得点を低くする学生がいたので、特に、平成19、20年度のデータについては信頼性に疑問が残る。

表Ⅱ-30 正規学部留学生のプレースメントテスト結果

テスト結果	年度	平成19	平成20	平成21
上級クラスの平均点(人数)		68点(15)	73点(7)	63点(4)
中級クラスの平均点(人数)		44点(13)	40点(12)	34点(5)
全体平均点(受験者総数*)		57点(28/12*)	52点(19/6*)	47点(9/1*)

* 3年次編入者数：内数 平均点：小数点以下四捨五入。

(1) 日本語科目

平成21年度に開講時間の変更をしたが、その理由は次のとおり。

学部の専門科目との関係で、日本語科目を履修する時間帯が限られている(例えば、前期火曜日4限)学生は日本語Aを履修した翌年も同じ科目しか履修する科目がない。日本語Bを履修したくてもできないようになっていた。この問題を解消するために、開講時間の組み替え(担当者の配置換え)を行った。

表Ⅱ-31 日本語科目

科目	開講時間		履修者数						授 業 概 要
			H19		H20		H21		
	H19,20	H21	学	科	学	科	学	科	
日本語A	前期 火4限	前期 火3限	4	0	8	0	7	2	作文・会話練習、初級文法の定着(H19,20)、文型・語彙の拡充(H21)
日本語B	後期 火4限	後期 火3限	2	0	2	2	11	5	作文、会話練習(H19,20)、速読による読解(H21)
日本語C	前期 火3限	前期 火4限	11	2	10	1	6	2	文型・語彙の拡充(H19,20)、雑誌記事の読解(精読)(H21)
日本語D	後期 火3限	後期 火4限	10	0	6	3	2	3	接続表現、「は」と「が」、「のだ」等(H19,20)、文章作成の技術の習得(H21)
日本語E	前期 火4限	前期 火3限	4	5	4	9	16	8	日本語能力試験1級対策の文法・語彙(H19,20)、会話練習(H21)
日本語F	後期 火4限	後期 火3限	5	3	5	3	3	5	日本語能力試験1級対策の文法・語彙(H19,20)、新聞記事等の読解(H21)
日本語G	前期 火3限	前期 火4限	16	4	10	6	4	7	聴解(H19)、短文作成による副詞の用法習得(H20)、読解、作文(H21)
日本語H	後期 火3限	後期 火4限	10	1	6	6	3	6	読解、作文

(2) 文化系科目

表Ⅱ-32 日中言語文化系、日本語日本文化系科目

科 目	開講 時間	履修者数 (内数) ¹⁾			授 業 概 要
		平成19	平成20	平成21	
応用日本語Ⅰ	前期 月2限	26(9)	23(5)	21(6)	日本の職場マナーと企業文化の理解
応用日本語Ⅱ ²⁾	後期 月1限	28(8)	26(8)	22(8)	T Vドラマに見る日本社会と精神風土の理解
日本事情A	前期 火1限	22(5)	11(3)	17(3)	日本の地理・自然・気候・伝統芸能の紹介及び学習
日本事情B	後期 火2限	3(3)	12(5)	18(3)	日本の年中行事・社会習慣・文化の理解
多文化コミュニケーションA ³⁾	後期 木1限	20	19	19	異文化理解のための態度やスキルの習得等多角的な異文化トレーニング
異文化コミュニケーションA		14(11)	20(12)	16(1)	
多文化コミュニケーションB	前期 木1限	不開講	23	不開講	環境問題等に関する討論を通じての異文化理解と多様な価値観の受容
日本語コミュニケーションB			9(0)		
多文化コミュニケーションC ⁴⁾	前期 木1限	不開講	20	20	異文化トレーニングを通じての異文化理解と適応能力の向上
異文化コミュニケーションC			14(3)	15(5)	
日本の文化	前期 木1限	24(0)	16(1)	20(5)	日常生活(VTR)に見る日本の文化の理解・受容

注：1) (内数)：日本語・日本文化研修生・交換留学生

2) 平成19年：火曜2限の開講

3) 日本人学生対象の「多文化コミュニケーション科目」は留学生対象の「異文化(日本語)コミュニケーション」科目と合同授業。

4) 平成19年：月曜2限の開講

4. 課 題

日本語科目の開講時間を分散させるためには、共通教育科目授業時帯における外国語科目との調整が必要であるが、共通教育委員会での承認を得る必要があり、作業には多大な時間を要するため、いまだに実現しないでいる。

3-2. 学部専門教育

1. 現 状

留学生センター教員は、留学生センター省令化(平成15年)以前における所属学部の専門科目を継続して担当している。平成19年度、教育地域科学部に所属していた教員は地域文化課程の課程共通科目および異文化交流コース専門科目を担当した。平成20年度、地域文化課程は地域科学

課程となり留学生センター教員担当科目は廃止されたが¹⁾、平成19年度入学の旧課程学生が受講するため、平成22年度まで引き続き旧課程の開講科目を担当することとなっている。専門セミナーについても、異文化交流コースの学生2名を限度に卒業論文の指導をすることとなっており、センター移籍後も教育地域科学部に大きく貢献している。なお、また、工学部留学生担当であった教員はセンター移籍後も工学部基礎専門科目としての工業日本語を4科目担当し、本学学部留学生の90%以上を占める工学部留学生に対する専門日本語教育を担っている。表Ⅱ-33に留学生センター教員の担当科目を示す。

表Ⅱ-33 留学生センター教員の担当科目

学部	科目		小科目	単位	必修/選択	担当教員	受講者数(内数:科目等履修生)		
							平成19	平成20	平成21
教育地域科学部	地域文化課程 共通科目	地域研究 基礎科目	日本アジア文化論 ²⁾	2	選必	膽吹	28(4)	-	-
		基礎専門科目	異文化教育論	2	選必	桑原	35(1)	2(2)	2(2)
			情報化と日本語	2	選必	今尾	27(2)	6(1)	3(2)
	異文化交流 コース 専門科目	日本語科目	日本語文章表現	1	必修	山中	23(2)	4(2)	0
			日本語音声表現	1	必修	桑原	23(2)	2(0)	0
			日本語文法論	2	選択	今尾	51(5)	23(3)	19(6)
			日本語教育論 ³⁾	2	選択	桑原	-	22(0)	-
		異文化理解科目	日本文化講義 ⁴⁾	2	選択	膽吹	-	30	-
		専門セミナー	専門セミナー (卒業論文指導)	4	必修	今尾	0	0	0
						山中	0	0	0
桑原	2					1	0		
膽吹	2					2	2		
工学部	基礎専門科目	工業日本語Ⅰ ⁵⁾	2	選択	中島	46(3)	37(3)	37(1)	
									工業日本語Ⅲ
		工業日本語Ⅱ	2	選択	中島	43(4)	38(5)	31(1)	
									工業日本語Ⅳ

注：1) 新課程は地域政策領域と人間文化領域から成り、人間文化領域は生涯学習系、国際文化系、言語コミュニケーション系で構成され、「日本語文法論」は新課程の人間文化領域専門教育科目（言語コミュニケーション系科目群）として開講され、引き続き担当。

2) 異文化交流講座教員との共同担当（平成19年度：前半部を膽吹教員。）

3) 偶数年開講。

4) 偶数年開講。

5) 「工業日本語Ⅰ」～「工業日本語Ⅳ」は工学部1、2年生の混合クラスで、「工業日本語Ⅰ」と「工業日本語Ⅱ」は1年次受講科目、「工業日本語Ⅲ」「工業日本語Ⅳ」は2年次受講科目である。

2. 課 題

- (1) 「工業日本語Ⅰ」～「工業日本語Ⅳ」は受講者数が30～40名と多く、受講者の十分なフォローと教材作成の負担を軽減するためにも、1年生と2年生の2クラスに分割することが望ましい。
- (2) 「工業日本語Ⅰ」～「工業日本語Ⅳ」では最新の新聞・雑誌等から科学工業関連記事を編集して教材として使用している。従来は中国人留学生が大半を占めていたが、近年、受講者の大半をマレーシア人、ベトナム人等非漢字圏の留学生が占めるようになった。視聴覚教材への要望の高まり、補助教材作成など配慮が必要となっている。

3-3. 大学院教育

留学生センター教員はそれぞれの専門に応じて大学院教育に関わり、各研究科における講義を担当している。留学生センター省令化以前に教育地域科学部に所属していた教員は、引き続き教育学研究科教科教育専攻・国語教育専修の専任教員として、修士論文の審査、研究科会議への参加、大学・大学院の入学試験問題作成および採点などを行っている。現在大学院教育を担当している教員、該当研究科および担当科目を表Ⅱ-34に示す。

表Ⅱ-34 センター教員の担当科目

研究科	区分・分野	担当科目	担当教員
教育学研究科 教科教育専攻・ 国語教育専修	国語学	国語学特別演習Ⅱ	今尾
	国語学	国語学特論Ⅱ	今尾
	国語学	日本語教育特論	桑原
	国語学	日本語教育特別演習	桑原
	国文学	国文学特論	膽吹
	国文学	国文学特別演習Ⅰ	膽吹
	国語科教育	国語科教育実践研究*	今尾、桑原、膽吹
工学研究科	共通	工業日本語特論Ⅰ	中島
	共通	工業日本語特論Ⅱ	中島

*国語教育専修全教員のリレー講義。平成19年度担当。平成20年度「協同実践研究」開始により廃止。

Ⅲ. 学生支援

留学生センターはその規程第3条（業務）第3項に「外国人留学生に対する修学上及び生活上の指導相談に関すること」及び第4項に「海外留学希望学生に対する修学上及び生活上の指導助言に関すること」を掲げている。更に、中期目標として「留学生センターに国際交流機能を持たせ、国際交流の一層の推進を図る。」を掲げている。

外国人留学生及び日本人学生双方の指導助言においては、中期目標でもある「国際交流の推進」と統合的にとらえて、業務を遂行している。

1. 学生支援の考え方

学生支援、特に留学生への相談業務の考え方は次の通りである。

- (1) 各種学内活動及び地域交流活動を通して、留学生と留学生、留学生と日本人学生、留学生と地域市民、留学生と産業界、等々のネットワークを構築し、そのネットワークを通して、学生を支援する。
- (2) 問題が発生してから対応する問題解決型の相談から、問題発生を未然に予防する、更には、自己研鑽・社会活動展開のための相談へと、その重点の移行を目指す。
- (3) 精神的な落ち込み等のケアにおいても、多くの場合、その背後にある、より具体的な問題の解決なしには対処できないことに留意する。
- (4) 発生した問題解決においては、学内外の諸機関・専門家と連携して解決する。
- (5) 可能な限り授業を多く担当し、留学生との日常的な接点を構築する。
(相談担当者が持つ授業に毎学期約100名の受講生がいるので、在学留学生250名、ほぼ全員と顔が見える関係にあり、且つ、e-mail address等を把握している)

2. 留学生支援

2-1. 相談業務

(1) 相談・交流部門の人員体制

福井大学留学生センターでは相談・交流部門に中島教員1名が配置されている。他方、国際課には課長以下職員が4名、事務補佐員が2名いる。国際課には主に事務手続き関係の質問が行き、相談・交流担当教員の方には、より複雑な問題について、腰を据えてゆっくり相談したい場合にやってくる。

それぞれの相談に費やす時間は1回30分から1時間程度である。

(2) 相談の場所と時間帯

いわゆる相談専用室はなく担当教員の研究室で相談を受ける。研究室には5人用のソファセットがあり、寛いだ雰囲気が提供できる環境にある。相談時間帯は留学生センターホームページ

(<http://ryugaku.isc.u-fukui.ac.jp/>)に掲載されている。また、研究室入口ドアには「いつでもどうぞお入りください。不在の場合のメモは上の籠（はい ふざい ぼあい うえ かご）に入れてください」との掲示があり、籠が用意されている。つまり、下記時間外でも、授業中でない限り相談を受ける。

表Ⅲ－１ 相談の時間帯

曜日	午前	午後
月		14:00 ~ 17:00
水	9:00 ~ 12:00	
木	9:00 ~ 12:00	
金	9:00 ~ 12:00	

（３）相談状況

相談・交流担当教員の本学着任日（平成12年8月1日）以降の全相談データを記録し、身分別、内容別に分類してあるので、いつでも統計資料が作成できる状態になっている。

①身分別相談状況

平成19年度～平成21年度における身分別相談状況は下記の通りである。

以下相談件数はすべて、相談・交流担当教員の研究室来訪による相談のみである。e-mailによる相談、国際課における相談等は含まれていない。

表Ⅲ－２ 平成19～21年度の留学生身分別相談状況

(相談件数)

	医学部・ 医学系研究科		教育地域科学部・ 教育学研究科		工学部・ 工学研究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
大学院生	0	1	4	25	176	51	180	77	257	45.6%
学部学生	0	0	6	0	79	48	85	48	133	23.6%
研究生	0	0	16	14	39	15	55	29	84	14.9%
特別聴講生	0	0	12	47	18	12	30	59	89	15.8%
小計	0	1	38	86	312	126	350	213	563	100.0%
合計	1		124		438		563			
割合	0.2%		22.0%		77.8%		100.0%			

さて、在学留学生の身分別の割合が、概ねそのまま、身分別相談件数の分布割合と符合している。

ただ、大学院生はその在学割合（42%）よりも相談件数が45.6%と多くなっている。それは、大学院生の場合は、母国で学部教育を受けた後来日し、半年とか1年の研究生生活を経て、院生になる学生が多いためである。日本滞在期間が短く、日本語力も低いため、適応力、問題

解決力が弱い。更に、修了者の大半が日本国内就職を目指すこと、研究の壁にぶつかることが多いこと、それらも相談件数の増加要因となっている。

他方、学部生は在学生割合（31%）に比べて相談件数が低い。それは、日本語学校を経て日本語力を身につけ日本語による留学生試験を突破し、授業もすべて日本語で受講するなど、日本語力もある上に、日本滞在経験も長く問題解決力があるからである。

また、大学院生や研究生の場合は、研究室に所属しているので、指導教員や研究室仲間との緊密な人間関係が構築できるが、そのような環境にない科目等履修生は周りに相談する相手が少なく、孤立することがある。

尚、医学部・医学研究科の場合、留学生数自体が少ないこと、それに両キャンパスが地理的に離れていることから相談はほとんどない。全員が大学院生又は研究生で、研究室に所属し、指導教員や研究室の仲間の支援を受けていると思われる。尚、学内交流活動や地域交流活動には医学研究科の学生も積極的に参加している。相談・交流担当教員から交流関係情報が常時メールで配信されているからである。

②内容別相談状況

平成19年度～平成21年度における内容別相談状況は下記の通りである。

表Ⅲ－3 平成19～21年度の相談内容別相談状況

(相談件数)

	医学部・医学系研究科		教育地域科学部・教育学研究科		工学部・工学研究科		小計		合計	割合
	男	女	男	女	男	女	男	女		
研究・学習	0	0	5	12	53	15	58	27	85	15.1%
就職・アルバイト	0	0	15	20	79	29	94	49	143	25.4%
奨学金・授業料	0	0	0	0	13	16	13	16	29	5.2%
生活一般	0	0	5	4	24	20	29	24	53	9.4%
入学・進学	0	1	6	27	44	23	50	51	101	17.9%
交流活動	0	0	5	17	62	11	67	28	95	16.9%
ビザ・在留	0	0	2	5	7	4	9	9	18	3.2%
事件・事故	0	0	0	1	30	8	30	9	39	6.9%
小計	0	1	38	86	312	126	350	213	563	100.0%
合計	1		124		438		563			
割合	0.2%		22.0%		77.8%		100.0%			

i 研究・学習

研究学習に関する相談は例年多いが、院生からの相談がほとんどである。研究室内の人間関係、研究テーマそのもの、学位論文執筆の壁、などがある。修士論文で悩んで相談に来る学生は皆無に近いが、博士論文の場合にはかなりの学生がノイローゼ気味になる。査読の結果が届かない、規定の論文数になっているのに指導教員が予備審査を開いてくれない、今のテーマでは論文が書

けない、などである。研究テーマや指導教員を変更したいということで、関係者と協議の上、結局研究室を変更するケースもある。

近年目立っているのが、博士の学位が取れずに、失意のまま帰国するケースが増えていることである。学ぶ側だけでなく、指導する教員の方にも問題点があると思われるケースもある。本国政府の奨学金を受給している場合は、大使館等とも連絡調整しながら、本人の将来設計への影響を最小限にすべく対応している。

ii 就職・アルバイト

本学留学生の国内就職者数が、2007年度30名、2008年度20名、2009年度15名となっているように、この3年間就職環境は年々厳しくなっている。エントリーシートに登録しても、なかなか面接まで行けない。面接まで行っても落ちてしまう。連戦連敗の就職戦線に行き詰まり、自信を喪失する学生も多い。そのような学生に対して、心のサポートをすることが増えた。

一方、どんなに心のサポートをしても、就職が決まらなると問題は解決しないので、留学生センターラウンジにおける個別企業会社説明会を実施したり、希望分野の会社をインターネットで一緒に検索したり、商工会議所等での講演で採用を呼びかけたりして、側面から支援している。

就職に関する相談が例年相談件数のトップであるが、商工会議所、福井労働局、福井入国管理事務所との連携、特に産業界とのネットワークを通して支援している。

iii 奨学金・授業料

奨学金・授業料の相談件数が少ないのは、まず奨学金案件そのものが少ないこと、また、授業料免除は学生課が窓口であるためと思われる。ここ数年目立ってきたのが、授業料が払えずに除籍処分になって大学を去る学生が増えていることである。アルバイトもしないでのんびり過ごし、納入期限の土壇場で相談に来るなど、資金計画、生活設計の習慣が身につけていないことがその主な原因であった。成績も芳しくなく、授業料免除もなく、バイトもせず、という学生への対応に苦慮している。

iv 生活一般

生活一般に関する相談は少ないが、健康問題、アパート隣人とのトラブル、異国での生活による情緒不安、結婚直後に妻を残しての来日、子供を母国に残しての来日、また、逆に、日本語が出来ない妻を同伴したことによる問題、乳幼児を同伴しての単身来日等々、その問題発生要因は他方面にわたる。

住宅賃貸契約における保証人問題は外国人留学生支援会発足により機関保証制度が整ったため、皆無であった。

v 入学・進学

入学進学に関する相談は学内進学、学外進学、更には第三国への進学相談があり、特に最近第三国への進学相談が増えている。相談内容は、指導教員の探し方、研究計画作成の指導、推薦状作成依頼がほとんどである。

vi 交流活動

学生の地域理解や親日感は、パーティ等に招待されることからではなく、地域の国際化への積極的貢献から生まれるとの認識から、小中学校や県内機関に留学生を講師として積極的に派遣している。相談内容としては、小学校等での発表方法や、準備内容等に関するものが相変わらず多いが、その他に、引き受けたいが、指導教員が厳しくて許可がもらえそうにないというものもある。指導教員が交流活動と研究活動のバランスに苦慮している面が見られる。

vii ビザ・在留

相談件数が少ないのは、各種ビザの取得・更新手続き等に関しては国際課留学生係が中心に処理して、国際課段階で解決されているからだと思われる。相談担当教員への相談案件は、家族や友人のビザ取得に関する相談が中心である。

2008年度には南米の留学生が帰国途中に東京に滞在したまま、なかなか帰国しなかったため、フライトの再取得、帰国経由国ビザの再取得などについて現地日本国大使館とも連携しながら対応する事案もあった。

viii 事件・事故

事件・事故に関する相談は全般に少ないが、その大半は交通事故案件である。被害者としてだけでなく、加害者の場合もあり、対応が難しい。いずれの場合も、国際課職員、指導教員、保険会社、警察などと緊密な連携をとりながら対処している。

留学生が郊外大型店で万引きをし、逮捕され、12日間勾留される事件が発生した。担当刑事と面談や電話での調整をしつつ、日本司法支援センター（法テラス）派遣の弁護士とも打ち合わせを重ねながら、面会、差し入れを続け、フォローした。本件は、留学生本人の将来を考慮し、且つ、他の留学生への影響を避けるべく、学内的には関係者数人のみで協議を重ね、慎重に対応した。不起訴処分となったのちは、身元引受人として定期的に本人と面談し、指導支援した。帰国した後も、本学の温かい対応に感謝のメールをもらい続けている。

ix その他

海外から直接メールが入り、修士課程、博士課程への入学等に関する問い合わせや相談を受けることが多い。主に工学部・工学研究科に関するもので、指導教員を紹介してほしいというものである。その場合には、当該学科の留学生委員会委員に情報を転送し、学科内全教員に受入意思を確認するように依頼している。毎年このような形で2、3名が本学研究科に入学している。

（４）相談業務における課題

- ① 学生を支援するためには、幾重もの人的ネットワーク作りを更に推進すること必要がある。
- ② 留学生センターの施設が分散し、且つ、日本語教育の教室から離れた場所に相談担当教員の研究室があるため、留学生が相談に来てても不在なことがある。相談業務を含め、センター業務全体が有機的な機能を果たすためには、センター施設の集中化が望まれる。

2-2. 就職支援

(1) 支援の流れ

社会・経済のグローバル化が進む中で、地域経済界が生き延びる、更に発展するためには、各企業の国際化は喫緊の課題である。そして、その柱となるのが、国際戦略を担う人材確保である。他方、留学生も卒業後、実務経験を身につけたい、更には、人生設計を日本の産業界に求めたいという学生が増えている。留学生センターは双方のニーズを調整しながら、留学生支援および経済界、特に県内企業の国際化支援を行っている。

表Ⅲ-4 就職支援の流れ（平成21年度の例）

2月中旬	留学生向け就職説明会実施
	内容 : 過去の就職実績・平成20年度（2008年度）の内定状況について : これからの就職活動と相談について（就職の心構え、就職ナビ登録、履歴書作成法、自己PR書の書き方、内定後の注意事項等） : 各種資料配布 「就職活動の手引き2009年」福井大学作成 「日本で働こうとする外国人のみなさんへ」 （英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語版）厚生労働省作成 「ふくい企業ガイドブック2009年」福井労働局作成 : 就職が内定している先輩の就職活動体験談 : 就職希望者リスト登録
5月	福井大学就職希望者リストを県内企業120余社に送付
6月以降随時	求人票、会社説明会等をe-mailで配信。及び個別に就職相談を受ける。
随時	留学生センターラウンジにおいて、県内企業及び中部・近畿圏の個別企業採用説明会を実施。
内定決定	中島研究室に内定決定を連絡後、在留資格変更手続き等の相談を受ける。

(2) 日本企業就職希望者支援のための日本勤務中先輩及び就職内定者との交流会

平成21年11月の「福井大学留学生同窓会日本支部」総会開催に合わせて、日本企業就職希望者支援のための交流会を実施した。東京、大阪、名古屋を含む国内就職中の先輩14名も駆けつけ、まず先輩3名が日本企業での就業体験談を、次に平成22年春国内就職が内定している在学生3名が就職活動体験談をそれぞれ発表し、就職希望在学生を勇気づけた。

昨今の厳しい就職状況から、今後も福井大学留学生同窓会日本支部の支援を受けて、この種の交流活動を展開していきたい。

日 時	平成21年11月22日（日曜日）	10：30－12：00
場 所	福井大学アカデミーホール	
参加者	50名（日本企業就職希望者、日本企業勤務中の留学生先輩、日本企業内定済み在学生）	
主 催	福井大学留学生センター、福井大学留学生同窓会日本支部、福井大学留学生会、福井大学中国人留学生学友会	

（3）アジア人材資金構想平成21年度高度実践留学生育成事業

留学生の就職支援の一環として、アジア人材資金構想平成21年度高度実践留学生育成事業を留学生センターとして、導入実施した。

事業名	アジア人材資金構想平成21年度高度実践留学生育成事業（経済産業省受託事業）	
内 容	ビジネス日本語研修、日本ビジネス・文化研修、インターンシップ、就職支援	
期 間	2年間（授業は平成21年7月4日から平成22年12月まで）	
授 業	毎週土曜日13：00－16：00	
場 所	留学生センターラウンジ	
参加者	10名（工学研究科博士前期課程7名、教育地域科学部3名）	
講 師	管理法人派遣の外部講師	
管理法人	社団法人中部産業連盟	

（4）就職実績

留学生の国内就職実績は平成19年度30名（内県内11名）、20年度20名（内県内9名）、21年度15名（内県内6名）であった。詳細は留学生センターホームページに掲載してある。

（5）就職支援における課題

- ①就職支援の最大のポイントは求人会社の確保である。平成13年度、14年度、18年度と過去3回「県内企業と留学生の懇談会」を開催したが、平成19年度より、本学留学生センターラウンジでの個別会社採用説明会に力点を移している。その呼び込みを更に推進する必要がある。
- ②本学就職支援室との連携をさらに推進する必要がある。
- ③県内企業採用担当者のメーリングリストの拡充が必要である。
- ④就職後熱意をもって仕事を継続できるように、働くことの意義、動機付け教育を推進することも課題である。
- ⑤各国同窓会支部網を通しての母国企業への就職支援も強化する必要がある。

2－3．留学生支援会

（1）支援会発足の経緯

平成18年9月の教育研究評議会決議を経て福井大学外国人留学生支援会が正式に発足した。そして、毎年4月に「支援会設立のお知らせと会員加入のお願い」という文書を全教職員に配信し、会員加入を呼びかけている。会費は一口1,000円（但し、留学生会員は一口500円）。

従来、留学生が賃貸住宅に入居する際には、主に指導教員が賃貸契約の保証人になっていたが、連帯債務の可能性等があり、その精神的な負担は大きかった。支援会発足に伴い機関保証制度が確立し、その重圧から開放されることになった。また、重篤な病気による帰国、入院・手術、火災、事故、事件など、多額の経費負担を伴う場合に支援できる態勢が整った。

「福井大学外国人留学生支援会会則」は巻末参照。

(2) 支援実績

平成19年度は実績なし。

平成20年度は、自転車転倒による左頬骨骨折で入院手術した留学生(本人負担額約8万5千円)、及びサッカー試合中の左ひざ半月板損傷で入院手術した留学生(本人負担額約8万1千円)、計2名に高額医療費援助金5万円をそれぞれ支給した。

平成21年度は、来日直後に母国にいる実弟が死亡した為、急遽帰国することになった留学生の申請により、航空券を購入する資金31万円を貸し付けたが、再来日後半年の間に返済した。

(3) 留学生支援会の課題

- ①留学生数の増加に伴い、事故・事件被害者への対応、または重篤病気罹患者の支援等を賄えるだけの資金確保のために、教職員の理解と会員加入を如何に進められるかが課題である。
- ②本会の支援対象者である留学生にも、自助意識をもってもらい、一口500円の会員として募集することになっているが、それを如何に進めるかも課題である。
- ③更に、このような支援の必要性が発生しないような、予防活動を如何に展開できるかがもっとも大きな課題である。

3. 日本人学生の海外留学支援

3-1. 人員体制

日本人学生の海外留学を支援する専任教職員は現在配置されていないが、日本語・日本事情教育部門に配置されている山中教員が担当し、平成15年10月以降その業務を行っている。

3-2. 相談状況

平成19年度の相談件数は教育地域科学部の学生4名から、述べ10件あった。うち、留学全般に関する相談は8件、ドイツ留学希望が1件、英語圏への留学希望が1件であった。協定校へのドイツ留学については教育地域科学部に窓口となる教員がいるので、そちらへも相談に行くよう指導した。相談交流部門の相談担当教員へも1件海外留学に関する相談があった。国際課(現・学生サービス課)への留学相談は11件。内訳は奨学金2件、留学制度・種類について9件、特定のプログラムについて1件。交流相談担当教員への留学相談は教育地域科学部学生からの1件。内容はオーストラリア、米国への留学希望。

平成20年度の相談件数は工学部の学生1名からの1件。ドイツ留学を希望していたので、教育

地域科学部のドイツ留学の窓口となる教員のほうへも相談に行くように指導した。また、本学の留学説明会や JASSO 等の機関も紹介した。国際課（現・学生サービス課）への留学相談は10件。内訳は留学制度・種類について9件、特定のプログラムについて1件。交流相談担当教員への留学相談は工学部学部生2名。内容はいずれもオーストラリア、米国への留学希望。

平成21年度の相談件数は3件。工学部から2名、教育地域科学部から1名であった。いずれも英語圏への語学留学を希望。国際課（現・学生サービス課）への相談は特定のプログラムについて2件あった。交流相談担当教員への留学相談は工学部学部生2名。オーストラリア、米国への留学希望が1名、イギリス留学希望が1名であった。

3-3. 情報提供

(1) 学外からの海外留学案内ポスターの掲示及び海外留学案内パンフレット等の配布

国内外の各種団体から海外留学案内ポスターやパンフレット等が送付されてくるので、随時、留学生センターロビーの掲示板に貼ったり、書架に展示したりしている。また、部数に余裕があるときは、学生が自由に持ち帰れるようにしている。

(2) 電子メールによる海外留学情報の提供

教育地域科学部異文化交流コースの学生を中心として、海外留学に興味を持つ学生に、随時メールで海外留学情報を発信しているが、平成19年度に教育地域科学部の組織改編に伴い、異文化交流コースがなくなり、海外留学支援教員と教育地域科学部との接点が少なくなってきた。そのため、異文化交流コースの学生へのメール配信は平成22年度で終了する。

しかしながら、国際課（現・留学生係）では平成19年度に海外留学情報メーリングリストを作成し、プログラム参加者募集、説明会開催、奨学金応募者募集等の情報を月1～2回のペースで配信している。

メーリングリスト登録者は次のとおり。

表Ⅲ-5 メーリングリスト登録者数

	教育地域科学部	工学部	工学研究科	合計	備考
平成19年度	19	16	3	38	H19.12現在
平成20年度	30	25	18	73	H20.6現在
平成21年度	29	35	31	95	H21.4現在

(3) 海外留学説明会の実施

海外留学を希望する学生への説明会を毎年実施している。平成19年度の実施要領は次のとおり。

第1回

説明会名	平成19年度韓国東亜大学校サマーセッション説明会
日時	平成19年5月18日(金) 14:00~15:30
場所	留学生センター R121教室

担 当	海外留学支援担当教員、国際課職員
対 象	本学学生で韓国短期留学に興味を持つ学生
参加学生数	10名
説明項目	コース内容：韓国語、韓国の政治・文化・歴史に関する講義やテコンドー等の文化体験、釜山市内・慶州でのフィールドトリップ等 費用 宿泊施設 前年度に派遣された学生による体験談 東亜大学校の交換留学生による東亜大学校や釜山市の紹介

第2回

説明会名	平成19年度海外留学・語学研修説明会（第1回）
日 時	平成19年6月29日（金） 13：30～15：30
場 所	留学生センター 国際交流ラウンジ
担 当	海外留学支援担当教員、国際課職員、福井大学生生活協同組合
対 象	本学学生で海外留学または海外経験に興味を持つ学生
参加学生数	25名
説明項目	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人学生の海外留学状況について ・海外留学の計画にあたって ・日本人学生の海外留学のための奨学金制度について ・短期留学推進制度について ・長期海外留学支援制度について ・福井大学の学術交流協定締結状況 ・公的な海外留学情報機関及び海外における安全問題に関する情報提供機関について

第3回

説明会名	平成19年度海外留学・語学研修説明会（第2回）
日 時	平成19年11月26日（月） 18：15～20：15
場所、担当、対象、説明項目は第2回説明会と同じ。	
参加学生数	25名

第4回

説明会名	インド・アンナマライ大学交換留学報告会
日 時	平成20年2月7日（木） 18：15～20：15
場 所	留学生センター 国際交流ラウンジ
担 当	海外留学支援担当教員、国際課職員
対 象	本学学生で海外留学または海外経験に興味を持つ学生
参加学生数	4名

説明項目 交換留学に行っていた学生による、インドでの勉強や研究、生活のこと
についての報告

平成20年度の説明会は次のとおり。

第1回

説明会名 平成20年度新入生オリエンテーション海外留学説明会
日時 平成20年4月9日(水) 12:20~12:50
担当、対象、説明事項は前年度の海外留学説明会とほぼ同じ。
説明項目に追加した点：海外留学メーリングリストについて
参加学生数 30名

第2回

説明会名 平成20年度韓国東亜大学校サマーセッション説明会
日時 平成20年5月9日(金) 13:00~14:00
担当、対象、説明項目は平成19年度に準じる。
参加学生数 14名

第3回

説明会名 平成20年度アメリカ交換留学・大学院留学説明会
日時 平成20年6月6日(金) 13:00~14:30
場所 総合研究棟2階 総合小2講義室
担当 海外留学支援担当教員、国際課職員、福井大学生生活協同組合
対象 本学学生でアメリカ留学に興味を持つ学生
参加学生数 8名
説明項目
・日本人学生のアメリカ留学状況について
・海外留学の計画にあたって
・日本人学生の海外留学のための奨学金制度について
・短期留学推進制度について
・長期海外留学支援制度について
・クレムソン大学、フィンドレー大学の学生による大学紹介
・大学院留学、交換留学体験説明

第4回

説明会名 平成20年度 International Education Fair
日時 平成20年7月11日(金) 11:30~14:00
場所 大学会館1階談話室
担当 海外留学支援担当教員、国際課職員、福井大学生生活協同組合
対象 本学学生及び職員で海外や国際交流に興味を持っている人
参加者数 約100名

- 説明項目
- ・福井大学で学ぶ交換留学生などによる出身大学の紹介
 - ・留学準備コースの学生による学習成果発表
 - ・大学生協による夏休みの海外語学研修プログラムの説明
 - ・JICA 北陸支部による海外協力ボランティアプログラムの紹介
 - ・福井県国際交流協会による国際交流活動紹介

第5回

- 説明会名 平成20年度海外留学説明会・ワーキングホリデー体験紹介
- 日時 平成20年12月19日(金) 13:00～14:00
- 場所 総合研究棟2階 総合小2講義室
- 担当 海外留学支援担当教員、国際課職員、福井大学生生活協同組合
- 対象 本学学生で海外留学または海外経験に興味を持つ学生
- 参加学生数 3名
- 説明項目 ・本学学生によるオーストラリア・ワーキングホリデー体験紹介（英語によるプレゼンテーション）

平成21年度の説明会は次のとおり。

第1回

- 説明会名 平成21年度新入生オリエンテーション海外留学説明会
- 日時 平成21年4月9日(木) 12:20～12:50
- 担当、対象、説明項目は平成20年度と同様。
- 参加学生数 19名

第2回

- 説明会名 平成21年度韓国東亜大学校サマーセッション説明会
- 日時 平成21年4月17日(金) 12:30～13:30
- 担当、対象、説明項目は従来どおり。
- 参加学生数 7名

第3回

- 説明会名 海外留学説明会 ～アメリカ交換留学・大学院留学～
- 日時 平成21年12月24日(木) 15:00～16:00
- 担当、対象は平成20年度と同様。
- 参加学生数 7名
- 説明項目 ほぼ前年度と同様。新たな説明事項は次の1点。
・工学部・工学研究科スプリングプログラム in 上海について

3-4. 海外留学状況

(1) 交換留学による海外留学者数

平成21年5月現在、本学には留学生が234名在籍しているが、その在籍者数はここ数年あまり変化はない。一方、日本人学生の交換留学による海外留学は毎年数名に過ぎないが、韓国への短期語学研修生は人数は毎年4～5人であるが、これは募集枠があるため、希望者は増えてきている。本学の理念である、「地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成」、特に「国際社会に貢献し得る人材の育成」のためには、日本人学生の海外留学の推進が引き続き重要である。

(2) 協定校が開催する短期研修プログラムへの派遣

短期語学研修は、本学各学部が主導するプロジェクトとして毎年実施されているが、センターにおいても、平成18年度より、本学が学術交流協定を締結している韓国の東亜大学の夏季短期研修プログラム「KOREAN SUMMER SESSION」に毎年学生を派遣することにした。現在も継続しており、19年度から21年度は下記のとおり実施した。

平成19年度

- 派遣学生： 4名（教育地域科学部2名 教育学研究科2名）
期 間： 平成18年8月6日～8月17日（約2週間）
目 的： 韓国語初級コースと韓国の政治・経済、社会、文化などに関する特別講義等により構成された、日本人学生向けのプログラムで、韓国社会についての全般的な理解を深める機会を提供することを目的とする。
備 考： プログラム参加費、宿泊費等は無料。

平成20年度

- 派遣学生： 5名（教育地域科学部1名 教育学研究科1名、工学部3名）
期 間： 平成18年8月11日～8月22日（約2週間）
目的、備考は平成19年度に同じ。

平成21年度

- 派遣学生： 4名（工学部2名、工学研究科2名）
期 間： 平成21年8月10日～8月21日（約2週間）
目的、備考は平成19年度に同じ。

3-5. 日本人学生の海外支援プログラム

工学部・工学研究科「留学準備コース」

工学部及び留学生センターでは、増加する留学希望者のニーズに応えるために、「留学準備コース」が平成20年度に発足した。

目 的：留学を希望する学生の語学学習を支援するとともに、留学中の生活情報等の

提供や、留学準備に関する指導を行い、海外留学の実現を多面的に支援し、より多くの学生を海外に派遣する。

平成20年度の内容は次のとおり。

開講コース：

1. 留学英語初級コース（週2コマ）
 - ・ TOEFL 400点以下の学生が対象
 - ・ TOEFL 450点の獲得を目指す
2. 留学英語中級コース（週2コマ）
 - ・ TOEFL 400点～500点の学生が対象
 - ・ TOEFL 500点の獲得を目指す
3. My Preferred Destination Abroad
 - ・ 自分に合った留学先や留学方法及び留学する意味を考える。留学に関する様々なトピックを話し合い、自分に合った留学スタイルを見つける。
4. TOEFL Class
 - ・ 英語圏の大学におけるプレゼンテーションの方法、エッセイの書き方、効率的なリーディング等、大学生活に必要なアカデミックイングリッシュのスキルを身につける。

業務所掌：留学英語コースの講師は工学研究科非常勤講師（英語担当）とする。留学英語コースの事務は留学生センターにて担当する。

実施期間：平成20年4月より半年間及び平成20年10月より半年間

対象学生：工学部及び工学研究科に在籍し、海外留学を希望する、意欲ある学生

開講授業数：初級コース	週2コマ×15週＝全30コマ
中級コース	週2コマ×15週＝全30コマ
My Preferred Destination Abroad	週2コマ×15週＝全30コマ
TOEFL Class	週2コマ×15週＝全30コマ

参加者の負担：語学力テスト受験料2,820円×2回＝5,640円

テキスト代

平成21年度の内容は次のとおり。

開講コース

1. 初級クラス International Exchange Class
 - ・ リラックスした雰囲気の中でロールプレイ等を交えながら、海外生活に必要な日常会話能力やライティングのスキルを身につける
2. My Destination Abroad
 - ・ 自分に合った留学先や留学方法、様々な国と日本の、文化的・政治的・社会的な違いを考える。留学に関するトピックを英語で話し合い、英語での情報収集能力や、会話力、プレゼンテーション能力などを身につける
3. スピーキングクラス Learning to Speak English
 - ・ 日常会話を重視したスピーキングクラスで、オーラルコミュニケーション力を高める。

クラスの初めと終わりに実施するオーラルテストのスコアで、自分の会話力の上達が把握できる。

業務所掌：留学準備コースの講師は工学研究科非常勤講師（英語担当）とする。留学準備コースの事務は留学生係にて担当する。

実施期間：平成21年4月から半年間および平成21年10月から半年間

対象学生：工学部および工学研究科に在籍し、海外留学や語学力アップに興味があり、意欲のある学生

- 開講授業数：1. 初級クラス（週に1コマ）
2. My Destination Abroad（週に1コマ）
3. スピーキングクラス（週に2コマ、1コマのみの受講も可）

3-6. 日本人学生の海外留学支援における課題

2007年度に今後の課題として挙げられた以下の項目のうち、①、②、④は実行に移された。

- ①留学、短期語学研修、その他の海外諸活動など、日本人学生の海外留学等に関する情報を一元管理し、活動推進策を企画・実施していくこと。
- ②留学情報を随時周知・配信できる体制を構築すること。
- ③日本人学生だけでなく、教職員を含む本学全体の海外留学に対する意識改革を図ること。
- ④動機付けを行うための「海外留学のための語学講座」の開講。

③については、まだまだ十分とは言えない。今後とも課題として取り組むべき項目である。

4. 留学生と日本人学生の学内交流活動

留学生相互の交流、日本人学生との学内交流活動を推進している。その目的は人間関係のネットワークを通して、①留学生の精神的な安定を図ること。②相互扶助関係を構築すること。③留学生および日本人学生の国際性の涵養を図ることなどである。

また、学内交流活動は福井大学留学生会が中心となり、福井大学生協学生組織 SOSEN 部などと協力しながら実施している。

4-1. 定期交流活動

毎週第一、第三、及び第五木曜日には国際交流ラウンジを、また、第二、第四水曜日はビデオショーを実施している。

(1) 国際交流ラウンジ

案内文 (和文例： 実際には和英併記でメール配信する)

留学生及び日本人学生の皆さん

下記の通りお話し会「第95回国際交流ラウンジ」を行います。
英語、日本語のレベルアップに、お友達づくりに。
ぜひ お誘い合わせの上、ご参加ください。

日 時 12月3日(木曜日) 18:15-19:15
(毎月第一、第三及び第五木曜日 18:15-19:15開催)
場 所 留学生センター ラウンジ
参加者 留学生及び日本人学生
内 容 前半30分英語、後半30分は日本語によるグループ自由会話

(2) ビデオショウ

案内文 (和文例： 実際には和英併記でメール配信する)

留学生及び日本人学生の皆さん、

下記のとおり、第95回ビデオショウをします。
お誘い合わせのうえ、おいでください。

日 時 2010年1月15日(木曜日) 18:15-20:30
題 名 スラムドッグミリオネア
(本編英語、日本語字幕付き) <http://saludo.gaga.ne.jp/>
場 所 留学生センターラウンジ
料 金 無料(コーヒー、お菓子付き)
** いい映画の推薦をぜひお願いします。
(内外、どこの国の映画でも)

Fady Alnajjar,
Secreratry,
University of Fukui International Student Association(UFISA)

4-2. その他学内活動

その他の主な活動としては、福井大学留学生会主催による、国際交流サマーキャンプ(1泊2日、越前海岸での水泳、国見岳でのキャンプ。毎年40名程参加)、及び国際交流スキー旅行(1

泊2日、福井大学六呂師山荘宿泊、毎年35名参加)がある。両行事とも参加費3,500円であるが、申込み初日で定員オーバーとなる人気行事である。その他に、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ビリヤードなどのスポーツ大会、歓送迎会、忘年会などを実施している。特に平成20年度から福井大学留学生事務局の種目別スポーツ委員会が編成され、毎週日曜日午後15:00-19:00に本学体育館を予約して、スポーツ大会を月間予定表に従って実施しているが、毎回30名前後が参加している。

4-3. 福井大学留学生会

(1) 設立背景と事務局構成

平成15年11月に福井大学留学生同窓会が発足したが、それを機に、福井大学留学生会が平成16年4月に発足した。その目的は、留学生相互の交流と相互扶助、日本人学生および地域社会との交流である。福井大学留学生会の会長は福井大学中国人留学生学友会会長が務めることになっているが、毎学期開始時に、各種行事毎の実行委員会が編成され、実行委員会を中心に行事を企画運営している。

(2) 福井大学留学生会の活動

福井大学生協学生組織SOSEN部などと協力しながら、国際交流ラウンジ、ビデオショー、歓送迎会、国際交流キャンプ、国際交流スキー旅行、各種スポーツ大会などを実施している。また、地域社会との交流活動としては、県内国際交流団体が主催する行事に積極的に参加している。また、地震・津波など災害救援のための募金活動なども行っている。平成20年5月に発生した中国四川大地震においても、被災者支援のために福井大学留学生会が中心となり、5月17日と18日の両日J R福井駅前等で募金活動を行った。また、従来の協力関係から若狭町観光協会、越前町国際交流協会等からも支援金をいただき、福井大学中国人学友会を通して、総額200万円の支援金を被災地に届けた。

4-4. 学内交流活動の課題

- (1) 相談・交流担当教員は日本人学生との接点が少ないので、e-mail 網等の構築が難しい。
現在は、各種活動に参加する学生から個別に情報を収集しネットワークを構築している。
- (2) 留学生の大半は私費留学生であり、生計維持のためにバイトをしなければならず、且つ、実験やレポートなど課題が多く、時間が取れないため、参加したくても参加できない学生が多い。
- (3) 他方、留学生個々人が様々な活動に参加できないと、相談・交流担当者との接触が薄くなり、徐々に顔が見えなくなる。そして、ある日突然大きな問題を抱えて相談に来ることになる。
- (4) 従って、各種交流活動に参加しなくても、常に目の届くような体制構築が課題である。
- (5) 学内外の交流活動に参加するあまり研究が疎かにならないかと懸念する指導教員もいるので、それも考慮する必要がある。

IV. 研究

1. 留学生センターとしての研究活動

1-1. 研究紀要の刊行

留学生センターでは、平成17年度から「福井大学留学生センター紀要」を刊行している。平成19～21年度の掲載論文題目は以下の通りである。

平成19（2007）年度

- ・「ディクテーション用 CALL 教材開発とその評価」 桑原陽子・中園博美・敷田紀子
- ・「議論における「よね」の談話機能」 市村（田中）葉子

平成20（2008）年度

- ・「学部留学生の日本語能力と日本語科目の履修」 今尾ゆき子
- ・「漢字未知語の意味推測に及ぼす語構成の影響 —中上級非漢字系日本語学習者のケーススタディより—」 桑原陽子

平成21（2009）年度

- ・「非漢字系日本語学習者の漢字未知語の意味推測における統語情報の利用 —中上級学習者のケーススタディより—」 桑原陽子
- ・「全学向け日本語コースにおける漢字指導 —初級後半レベルの日本語学習者に対する漢字指導のケーススタディ—」 高瀬公子・酢谷尚子・齋藤ますみ・桑原陽子

なお、平成21年度より、留学生センター紀要の掲載論文は PDF ファイルを留学生センターホームページに掲載し、自由にダウンロードできるようになっている。

1-2. 助成金によるプロジェクト

留学生センターの各教員は、個々に外部助成金を申請し研究活動を行っている。それらについては、巻末の個人データを参照されたい。

留学生センターの日本語プログラムに関わる助成金としては、以下の福井大学内の競争的配分経費が採択されている。

- ・平成19年度福井大学競争的配分経費（教育に関する評価経費）「初級学習者向け仮名教材の作成」（研究代表者 桑原陽子） 200,000円

この経費により、留学生センターの日本語プログラムに沿った独自のかな教材「Japanese KANA workbook ひらがな・カタカナれんしゅう」を作成した。この教材の作成によって、以下のような成果が得られた。

- ・文法の教科書に沿ったかな教材を使用できるようになったことで、学習効率が上がった。
- ・毎学期、市販の仮名教材を大量にコピーする必要がなくなり、授業準備の負担が軽減された。
- ・製本されたテキストを使用できるようになり、学生の学習状況の把握・管理が容易になった。

1-3. 研究大会等開催

留学生センターはその規定第3条（業務）第6項に「外国人留学生と地域社会の交流に関すること」及び第7項に「留学生ネットワーク構築に関すること」を掲げている。更に、中期目標として「留学生センターに国際交流機能を持たせ、国際交流の一層の推進を図る。」を掲げている。留学生センターでは、国際交流推進とネットワーク構築を目指し、下記の①から③の研究大会を主催者として開催した。

①第3回留学生国際シンポジウム

～福井大学留学生同窓会上海支部と福井県産官学民との交流ネットワーク構築に向けて～
福井大学留学生同窓会上海支部編成による「教育交流と経済交流ミッション」（平成19年10月1日～5日、16名）の主たる行事として、県内産官学民の代表をパネラーに招き、彼我の交流のために、具体的に何ができるのか、どのようなネットワークを構築すべきか、を議論するため、本シンポジウムを実施した。シンポジウムでの貴重な提案、会場からの意見を踏まえて、今後の連携活動に生かしていきたい。本シンポジウムの報告書（72頁）を300部印刷し、各関係機関及び関係者に配布した。

尚、本シンポジウムは、(独)日本学生支援機構が実施する『平成19年度（財）中島記念国際交流財団助成留学生地域交流事業』により75万円の助成を受け開催された。

開催日時	平成19年10月2日
会場	福井大学アカデミーホール
基調講演	中村敬（独立行政法人日本学生支援機構留学生事業部次長）
パネラー	沈萬樟（福井大学留学生同窓会上海支部会長） 嶋田浩昌（福井商工会議所地域振興部長） 柿木孝勇（福井県産業労働部国際・マーケット戦略課長） 中川英之（福井大学留学生センター長） 中村哲夫（インターナショナルさかい会長） 劉 琪（福井大学留学生会長）
コーディネータ	中島清（福井大学留学生センター教授）
出席者	107名（産官学民関係者、在学留学生、日本人学生等）
主催	福井大学留学生センター、福井大学留学生同窓会上海支部
共催	福井商工会議所、インターナショナルさかい、福井大学留学生会
後援	福井県

②第4回留学生国際シンポジウム

「地震・津波等自然災害被災者支援のための国際ネットワーク構築に向けて」

ースマトラ沖津波被災地者支援活動と復興、その現状と課題ー

平成16年12月に発生したスマトラ沖地震・津波では20万人以上が犠牲となった。福井大学留学生センターは、在学中のインドネシア及び各国留学生と協力して、募金活動を展開し、約100万円の募金を集めた。また、本学教育地域科学部理数教育講座と協力して、現地の高校理科教員を対象に Syiah Kuala 大学と共催で「物理教育ワークショップ（身の回りの材料を用いる効果的な物理実験法）」を実施し、教育復興の援助を試みた。更に、平成18年5月発生ジャワ

中部地震及び平成20年5月に発生した中国四川大地震においても、被災者支援のための募金活動を行った。

本学教育地域科学部理数教育講座が日本学生支援機構より250万円の助成をいただき、スマトラ沖地震・津波で最も被害を受けたアチェ州の基幹大学である Syiah Kuala 大学の学生10名及び教員2名を平成20年9月18日から29日まで12日間招聘し、再度「理数教育ワークショップ」を実施したのを機に、スマトラ沖津波被災地者支援活動に参加した彼等の関係者に集まっていたいただき、支援活動とその復興状況を考察し、今後の支援ネットワーク作り及び支援活動実施上の課題について議論をした。

開催日時	平成20年9月27日(土) 10:00-12:00
会場	福井大学アカデミーホール
基調講演 パネラー	松森和人(特定非営利活動法人ふくい災害ボランティアネット理事長) Dr. Mustanir (Syiah Kuala 大学理学部長) Dr. Nasrullah (同大学理学部講師、留学生同窓会インドネシア支部事務局長) 香川喜一郎(福井大学教育地域科学部理数教育講座教授) 酒井明子(福井大学医学部看護学科臨床看護学講座教授) 董博宇(福井大学中国人留学生学友会長、福井大学留学生会長)
コーディネータ	中島清(留学生センター教授)
出席者	76名(一般市民、留学生、日本人学生、教職員等)
主催	福井大学留学生センター、Syiah Kuala 大学理学部
共催	福井大学教育地域科学部理数教育講座、福井大学医学部看護学科臨床看護学講座、福井大学留学生同窓会インドネシア支部、福井大学中国人学友会、福井大学留学生会

③第5回留学生国際シンポジウム

「留学生の就職・採用促進のための産官学民ネットワーク構築に向けて」

ー現状と課題、及び経験の共有ー

社会・経済のグローバル化が進む中で、企業が生き延び、更に発展するためには、その国際戦略を担う人材確保は喫緊の課題である。また、留学後、実務経験を身につけたい、更には、人生設計を日本の産業界に求めたいという留学生も増えている。福井大学でも平成19年春留学生30名が日本企業に就職し、内11名は県内企業に就職した。

他方、福井大学留学生同窓会は平成15年に発足し、アジアを中心に10支部が活動中であったが、平成20年11月23日、就職等で日本に在住している卒業留学生(約150名)の代表19名(県外8名)がシンポジウム当日午前本学に集い、11番目の支部である福井大学留学生同窓会日本国内支部を設立した。

そこで、その機会に国内企業で活躍している留学生先輩社員、留学生採用に積極的な県内企業、その他関係者を交えて、留学生就職及び採用の両面から実務的経験交流を図った。本シンポジウム成果は報告書(58頁)として300部印刷し、各関係機関及び関係者に配布した。

尚、本シンポジウム実施においては財団法人げんでんふれあい福井財団より福井市日本中国友好協会を通して15万円の助成をいただいた。

開催日時	平成20年11月23日(日) 14:00-16:30
------	----------------------------

会 場 福井大学総合研究棟13階会議室
現 状 報 告 中島清（福井大学留学生センター教授）
パ ネ ラ ー 草壁光二（日華化学(株)執行役員スペシャリティーケミカルカンパニー
プレシデント）
松井弘（法務省名古屋入国管理局福井出張所長）
野尻景嗣（厚生労働省福井労働局職業安定部職業対策課長）
劉 琪（前福井大学中国人留学生学友会長、(株)マツダ勤務）

県内外企業就職中先輩報告

雷軍 (株)日本エー・エム・シー（福井市）
井上マルシオ アイテック(株)（鯖江市）
袁丹 エフティアパレル(株)（福井市）
郭登極 三菱電機(株)名古屋製作所（名古屋市）
唐巍立 (株)GBA（東京都）

留学生就職先県内企業関係者

青木哲也 (株)タケダレース総務部長兼経営企画部長
山本敏樹 パナソニックモータエキスパート(株)人事チームリーダー
山口康生 (株)日本エー・エム・シー社長

コーディネータ 中島清（福井大学留学生センター教授）
出席者 150名（産官学民関係者、在学留学生、教職員等）
主催 福井大学留学生センター、福井大学中国人留学生学友会、福井市日本中国友好協会
共催 福井商工会議所
後援 福井県、福井市、福井県国際交流協会、福井市国際交流協会、福井県日中友好協会、福井大学留学生会、福井新聞社、NHK 福井放送局、FBC 福井放送、福井テレビ、FM 福井

特別協賛 財団法人 げんでんふれあい福井財団

また、上記の研究大会の他に下記の研究会を開催した。

④日本語教育学会北陸地区研究集会

開催日時 平成20年7月5日(土)
会 場 福井大学総合研究棟 I 13階会議室
主 催 日本語教育学会
研究発表 3件
講 演：「相互学習を中心とした日本語ボランティア活動」講師：足立祐子氏（新潟大学国際センター准教授）
参加者：72名

2. 各教員の研究活動

各教員は、以下のような各分野の研究を行っている。各教員の業績の詳細については、巻末資料の個人データを参照されたい。

日本語・日本事情教育部門

今尾ゆき子：日本語学、日本語教育学

山中 和樹：日本語教育学、音声学、異文化教育学

膽吹 覚：日本文化論

桑原 陽子：日本語教育学

相談・交流部門

中島 清：工業日本語教育、地域国際化支援

3. 課 題

研究紀要の掲載論文は、毎年2本ずつであり、もう少し掲載論文数が増えることが望ましい。特に、留学生センターの日本語プログラムにおける授業実践や教材作成について、その妥当性や効果について検討した論文・実践報告がさらに増えることが望まれる。

学内の競争的配分経費の獲得によって、留学生センターの日本語プログラムに沿ったかな教材が作成されたことは、大きな成果であった。現在、この教材に準じた配布用の音声教材の作成が必要とされており、今後はそのための助成金獲得を目指したい。

留学生センター主催の研究大会としては、留学生交流シンポジウムを3回実施し、県内産官学民関係者を巻き込んで、ネットワーク構築等について議論したが、大変有効であった。今後も幅広いテーマについて、関係機関と連携しながら、開催していきたい。一方、日本語・日本事情分野における研究成果、実践活動に関する研究大会やセミナー等については、留学生センター主催によるものは過去に開催されたことがない。今後はこの分野においても開催したい。

V. 社会貢献

1. 社会貢献活動の概要とその考え方

留学生センターはその規程第3条（業務）第6項に「外国人留学生と地域社会との交流推進に関すること」及び第7項に「留学生ネットワーク構築に関すること」を掲げている。更に、中期目標として「留学生センターに国際交流機能を持たせ、国際交流の一層の推進を図る」を掲げている。

本項では、社会貢献活動を「2. 留学生諸活動を軸とした社会貢献活動」と「3. 各教員の社会貢献活動」に分けてそれぞれ概説する。

「留学生諸活動を軸とした社会貢献活動」における、その事業推進の基本理念は、「地域の産官学民各層とのネットワーク、福井大学留学生同窓会各国支部網とのネットワーク、在学留学生組織である福井大学留学生会を軸とした学内ネットワーク、以上3つのネットワークを活用して地域産官学民との重層的な交流活動を展開し、地域社会の国際化に貢献すること」である。それは、地域社会の国際化にとどまらず、在学留学生の日本理解と日本人学生の異文化理解を深化させ、帰国留学生各国との交流を促進し、世界平和を構築すると共に、わが国の国際的な地位確立に貢献するものである。留学生センターには相談・交流部門の教員（中島清教員）が1名配置され、主にその担当教員と国際課が連携しながら、これらの事業を積極的に展開している。

他方、本学は福井県における基幹大学として、地域各界の諸活動に対して、各教職員がその専門性を生かした支援や連携活動を展開することを推奨している。そして、留学生センター教員も個々の専門性を生かした社会貢献活動を展開している。

2. 留学生諸活動を軸とした社会貢献活動

2-1. 地域社会との相互支援交流活動

地域社会は温かく留学生を迎え、受入れ、支援してくれている。留学生も地域の国際化のために、何かをし、喜んでもらう。その満足感、達成感、充実感こそが自己の存在意義、社会貢献の証しとして懐かしい思い出となる。ギブ&テイクのベクトルは常に双方向の満足感を伴うが、ギブによる思い出こそが知日派、親日派を育てると認識している。その認識から、小中学校の総合学習、企業への通訳・語学講師派遣など、地域社会の国際化支援活動を展開している。

留学生センターとしての留学生派遣状況は平成14年度（25件）から全て記録してあるが、本報告書該当年度での派遣実績は平成19年度69件、20年度61件、21年度56件となっている。

尚、これらの件数はあくまでも、相談・交流担当教員が直接介在して派遣したもので、地域社会と関係が重層に構築される中で、留学生センターを通さず、留学生が直接、地域各交流協会の語学講座講師や文化教室講師、また公民館や幼稚園の活動等に参加している例も多い。

派遣の流れと、派遣実績は下記表V-1及び表V-2の通りである。

表V-1 留学生派遣の流れ



表V-2 平成21年度の留学生派遣実績

1	5月14日	松本小学校5、6年生英語活動（月1回、1回2時間、1年間）	1
2	5月17日	ふくい市民国際交流協会「福井発見！ツアー」	6
3	5月20日	インターナショナルクラブ「三国祭り」の山車引き	5
4	5月23日	インターナショナルさかい外国文化紹介の集い（フィリピン共和国&ウガンダ共和国）	2
5	6月2日	ふくい市民国際交流協会：さつき児童館「中国からこんにちは」	1
6	6月18日	啓蒙小学校4年「ワンドラブル日本の遊び」の発表を聞いて、一緒に楽しむ	3
7	6月20日	福井県国際交流協会「留学生と県民のための交流会」	6
8	6月27日	インターナショナルさかい「The 2nd International Barbecue Party」	7
9	6月27日	福井県国際交流協会「留学生と県民のためのバスツアー」	6
10	7月4日	啓蒙小学校 国際交流集会	18
11	7月4日	和田公民館（ふくい市民国際交流協会）「少年学級」（料理を作りながら文化紹介）	1
12	7月24日	大学生協「留学生支援かき氷」	3
13	7月24日	ESS 英語スピーチコンテスト審査員	3

14	8月4日	社南公民館「インドの文化紹介、ゲームなど」	1
15	8月19日	円山公民館「外国文化に触れよう(ベトナムの言葉や文化紹介、ゲームなど)」	1
16	8月23日	福井県国際交流協会「浴衣で養浩館庭園を歩こう！」	6
17	8月24日	敦賀「原子力」夏の大学英語討論会(福井大学、(独)日本原子力研究開発機構、(財)若狭湾エネルギー研究センター)	3
18	9月2日	附属中学校学校祭「世界の歯の衛生、文化」インタビュー	15
19	9月20日	附属中学校学校祭「世界の歯の衛生、文化」アンケート	60
20	9月27日	インターナショナルさかい「市民とのボウリング交歓会」	5
21	10月1日	中央公民館「世界雑学講座」ギニアの国や文化の紹介	1
22	10月6日	科学技術高校第36回学校祭「異文化交流」	3
23	10月10日	福井市民国際交流協会「インドお菓子作り」講座 幾久地区地域公民館	1
24	10月21日	社南小学校「世界のみなさん、こんにちは」	3
25	10月24日	世界の文化紹介講座(福井県国際交流協会)	1
26	11月3日	福井市民国際交流協会『福井市環境展』：自国での環境への取り組みについての討論会	3
27	11月4日	本郷公民館「本郷フェスティバルにて、母国の紹介および料理披露」ふくい市民国際交流協会	3
28	11月6日	済生会病院インドネシア看護師研修生フォロー	1
29	11月8日	福井国際フェスティバル「APEC ファッションショー」他	35
30	11月8日	越前町国際交流フェスティバル	10
31	11月14日	福井市民国際交流協会異文化理解促進事業 第3回「天ぷらを作ろう！」	3
32	11月18日	湊小学校国際交流集会「ファンタスティックフェスティバル」	3
33	11月21日	日本赤十字社福井県支部「高校生国際交流のつどい」	6
34	11月26日	さつき児童館「インドの国や文化の紹介、ヨガ体験」	1
35	12月5日	インターナショナルさかい「チャリティ世界文化紹介の集い」	1
36	12月9日	湊小学校インターナショナル DAY	1
37	12月11日	乗泉寺「高齢者への自国、生活習慣や文化の紹介」ふくい国際交流協会	1
38	12月29日	インターナショナルクラブ餅つき大会	5
39	1月20日	日本 APEC カウントダウンボード除幕式	5
40	1月21日	藤島高校の1年生 SSH「研究基礎」「他文明から見た日本」	1
41	1月22日	福井市酒生小学校「バングラディッシュの文化紹介、調理実習等」	2
42	1月28日	社南小学校3年生 ハローワールド	3
43	1月30日	福井市国際交流協会 節分	10
44	2月10日	APEC ジュニアフォーラム事前学習交際交流講座 敦賀市西浦中学校	1
45	2月12日	福井県立武生高校 Exchange Event at Takefu High School	17
46	2月12日	APEC ジュニアフォーラム事前学習交際交流講座 坂井市坂井中学校	1
47	2月15日	APEC ジュニアフォーラム事前学習交際交流講座 鯖江市中央中学校	1
48	2月17日	APEC ジュニアフォーラム事前学習交際交流講座 永平寺町上志比中学校	1

49	2月18日	APEC ジュニアフォーラム事前学習交際交流講座	若狭町上中中学校	1
50	2月19日	APEC ジュニアフォーラム事前学習交際交流講座	福井市明倫中学校	1
51	2月19日	APEC ジュニアフォーラム事前学習交際交流講座	大野市上庄中学校	1
52	2月19日	APEC ジュニアフォーラム事前学習交際交流講座	越前市武生第二中学校	1
53	2月21日	福井県 AALA 「新春の集い」		4
54	2月27日	さざんか児童館「母国インド紹介、ヨガ体験」		1
55	3月12日	福井県環境・エネルギー懇話会「エネルギー関連施設等見学会」	各国総領事随行	7
56	3月20日	福井市国際交流協会 森田公民館「中国紹介」		1

2-2. 福井県等官界とのネットワークと交流活動

福井県、その傘下の福井県国際交流協会、同嶺南センター、その他各自治体の国際交流協会との連携交流活動を積極的に実施している。

(1) 福井県との連携活動

① 「海外観光客誘致のための福井県の観光地等に関するアンケート調査」への協力

アンケート実施時期 平成21年7月

アンケート対象 帰国及び在日卒業生、在学留学生

アンケート方法 アンケート用紙（和英中文）をe-mailで一斉発信。

回答者数 110名（卒業生54名、在学学生66名）

県側連携部署 福井県観光営業部国際・マーケット戦略課

② 「スプリングプログラム in 上海」を共同事業として実施

本学日本人学生の国際性涵養をはかるため、大学院入学前導入教育として、平成20年度及び21年度に実施した。2週目は中島清相談・交流担当教員が企画・運営を担当し、全期間上海に出張し調整に当たっている。本講座の履修科目は「工学研究科共通科目」として単位認定される。今後も毎年継続実施する予定である。

(21年度の例)

講座開設期間 平成22年3月5日から20日まで2週間

講座開設場所 上海理工大学（中国、上海市）、宿泊先も同大学ゲストハウス

参加者 福井大学工学部4年生12名

内容 1週目 「中国語・中国文化」「工学関係の講義」

2週目 「海外企業経営・技術論」及び「海外インターンシップ」

講師 1週目 上海理工大学講師

2週目 福井県上海事務所長、現地進出福井県企業経営者

及び福井大学留学生同窓会上海支部会員（会社経営者）

共同事業者 福井大学、上海理工大学、福井県、福井大学留学生同窓会上海支部

県側連携部署 福井県観光営業部国際・マーケット戦略課、及び福井県上海事務所

③「2010年日本 APEC エネルギー大臣会合」関連事業の実施

平成22年6月19日及び20日の「2010年日本 APEC エネルギー大臣会合」開催に向け、本学留学生センターはその歓迎気運醸成のための各種事業に留学生派遣等により貢献した。

平成21年11月8日の福井国際フェスティバル「APEC ファッションショー」他に35名、平成22年1月20日「日本 APEC カウントダウンボード除幕式」に5名、留学生をそれぞれ派遣した。また、大臣会合のプレイベントとして県内中学校10校の代表参加発表による「APEC ジュニアフォーラム」（平成22年3月18日、参加者200名、敦賀市プラザ萬象大ホール）が実施されたが、「ジュニアフォーラム」準備段階での事前学習において、8つの中学校に本学の留学生8名を派遣し、各国の歴史や文化、そしてエネルギー事情を説明した。

また、中島相談・交流担当教員は「APEC ジュニアフォーラム」の事業企画運營業務委託企画提案審査会委員として、平成21年12月25日の審査会に出席審査にあたり、その後も、各種関連事業への助言、調整を行った。（県側連携部署：福井県総合政策部政策推進課 APEC 開催推進室）

（2）福井県若狭町観光課との連携活動

①若狭町観光振興のための1泊2日のモニターツアーと座談会

実施日 平成20年3月6日及び7日、

参加者 福井大学留学生20名

内容 若狭町内の観光地を巡り、最後に観光振興のため座談会とアンケートに回答

②福井大学留学生同窓会西安支部編成「母校訪問及び観光交流ミッション」による「若狭観光モニターツアー」とシンポジウム

実施日 平成20年10月25日～27日 2泊3日

参加者 福井大学留学生同窓会西安支部7名及び中島清相談・交流担当教員

内容 若狭町内の観光地を巡り、最後に観光振興のためのシンポジウムにパネリストとして参加。（中島清相談・交流担当教員がシンポジウムのコーディネータを務める）

2-3. 商工会議所等産業界とのネットワークと交流活動

社会・経済のグローバル化が進む中で、地域経済界が生き延びる、更に発展するためには、各企業の国際化は喫緊の課題である。そして、その柱となるのが、国際戦略を担う人材確保である。

留学生センターは留学生の県内就職を推進すると同時に、商工会議所等の会合において「国際化人材としての留学生活用」についての講演を行い、県内企業のグローバル化に貢献している。

また、在学留学生だけでなく、帰国留学生との連携活動も推進している。

（1）福井大学留学生同窓会上海支部「教育交流と経済交流ミッション」参加者と県内企業との商談会

福井大学留学生同窓会上海支部編成による「教育交流と経済交流ミッション」（平成19年10月1日～5日）で16名が来訪したが、内12名が会社経営者であったため、ミッション参加者と県内

企業との商談会を実施した。

日 時	平成19年10月3日(水) 14:00-17:00
場 所	福井県商工会議所地下会議室
参加者	福井大学留学生同窓会上海支部会員15名(内会社経営者12名) 県内企業13社20名
内 容	各参加者が所属企業の概要紹介、商談会で希望する事業内容を発表。 その後個別商談会を実施

2-4. 国際交流ネットワーク構築のためのネットワーク誌「こころねっと」の発行

卒業留学生、在学留学生、教職員、日本人学生、地域産官学民各界とのネットワーク構築のためにネットワーク誌「こころねっと」を毎年発刊している。平成19年から21年には第8号から第10号をそれぞれ発行した。

表V-3 「こころねっと」概要

発行部数	2,500部
体 裁	A5版、46ページ、カラー印刷
配 布 先	卒業留学生、在学留学生、本学教職員学生、地域国際交流機関・個人、県下全小中高校、各大学留学生センター、他
編 集	在学留学生中心の編集委員会(約10名)
内 容	在学・卒業留学生投稿記事2/3、センター行事等1/3が目安。 行事感想、生活・旅行・映画・読書等体験、各国文化・社会紹介 各国挨拶紹介、各国料理紹介、帰国留学生からのメッセージ等

2-5. 福井大学留学生同窓会

昭和45年に福井大学第1号留学生 Lim Kim Teck 氏が工学部繊維染料学科に入学して以来、約1,400名の留学生が福井大学で学んでいる。その内、約1,000名が帰国し、約150名が日本国内に就職して在住している。そして、約250名が現在本学に在学している。

文部科学省より特別配分予算を受け、平成15年11月30日に「第1回福井大学留学生同窓会大会」を開催。招聘した帰国留学生13名、及び在学留学生等計91名が参加し、同窓会設立宣言文を採択して、福井大学留学生同窓会が正式に発足した。

平成16年12月マレーシアのクアラルンプールで「福井大学留学同窓会マレーシア支部設立大会」が開催され、支部設立宣言の採択と事務局選出が行われた。その後、タイ、インドネシア、韓国、西安、上海、杭州、台湾、北京に支部が設立された。そして、平成19年にハンブルク支部、平成20年に日本支部、平成21年にバングラデシュ支部がそれぞれ設立され、合計12の支部網ができている。

(1) 同窓会の活動

同窓会の活動としては、①支部会員相互の情報交換、交流や連携活動 ②他国支部との情報交換、交流や連携活動 ③福井大学を含む福井県産官学民との交流 ④各国と日本の経済・文化交流 などがある。各支部では年次総会などを開催しているが、本報告書当該年度における、同窓会の今後の方向を示唆するような活動は下記のとおりである。

①福井大学留学生同窓会上海支部「教育交流と経済交流ミッション」来訪

上海支部会員16名からなる交流ミッションが平成19年10月1日から5日まで5日間福井に来訪して、福井県の産官学民と交流した。具体的には(独)日本学生支援機構が実施する『平成19年度(財)中島記念国際交流財団助成留学生地域交流事業』により助成をいただき実施した第3回福井大学留学生国際シンポジウム「福井大学留学生同窓会上海支部と福井県産官学民との交流ネットワーク構築に向けて」(107名参加)、福井県内企業13社との商談会、工場見学、上海支部大会等を実施した。ミッションメンバー16名中12名が社長等会社経営者であったため、商談会では具体的な商談の成立もあり、上海支部及び福井県産官学双方にとって有意義なミッションであった。

②福井大学留学生同窓会西安支部企画「母校訪問及び観光交流ミッション」来訪

平成19年度の上海支部に続き、平成20年度は10月24日から4泊5日で西安支部企画による「母校訪問及び観光交流ミッション」一行7名が来訪した。主な行事は福井県若狭町の観光振興のための「2泊3日の若狭観光モニターツアー」参加で、民宿に宿泊しながら、観光地を訪問し、最後に「若狭町観光振興いかにあるべきか」のシンポジウムを行った。そして、10月27日には本学アカデミーホールにおいて、関係教職員及び西安地区出身留学生も交えて、「西安支部ミッションと教職員学生との交流会」を実施した。

③「スプリングプログラム in 上海」

本稿2-2、(1)の②に記載したとおり、平成20年度及び21年度に実施したが、今後も継続実施の予定である。このプログラムは上海理工大学、留学生同窓会上海支部、福井県(特にその上海事務所)、及び現地進出福井県企業、4者の共同事業であり同会活動のモデル事業と位置付けている。受講科目は工学研究科博士前期課程入学後、履修科目として単位認定される。また、本プログラムの最終日には関係者への感謝を込めて、上海理工大学の食堂で交流会を実施しているが、福井大学留学生同窓会上海支部会員も毎年15名ぐらいが合流している。

2-6. 福井県留学生交流推進協議会

県内産官学民の計30団体機関が会員となり、「福井県における留学生の円滑な受入れの促進及び留学生と地域住民との交流活動を推進する」ことを目的として活動しているが、留学生センターからは、センター長及び相談・交流担当の中島清教員がその運営委員会委員として参画している。また、福井大学国際課がその事務局となっている。

その主な活動としては、「留学生救済援助金」による国民健康保険料助成、情報交換などである。また、毎年、「福井県留学生だより」を事務局である本学国際課が編集し、発行している。センターの諸活動もそこで発信している。

2-7. 課 題

①地域社会相互支援活動と教育・研究活動のバランス

留学生の本分は学習・研究等であるため、交流活動によってそれが阻害されてはならない。交流活動に熱中し過ぎて研究論文作成が疎かになっているという苦情を時折指導教員よりいただく。その意味で、募集においてはあくまで学生個々に直接依頼せず、一斉メールで募集し、派遣稟議決済後その写しを指導教員に回付することになっている。

又、留学生は遠方の派遣先に自転車で向かうことが多いことから、事故等に備えて派遣先に一日傷害保険をかけるよう依頼徹底している。

実験などに追われる留学生は交流活動に参加する余裕がなく、小学校等からの要請に沿う留学生を確保するのはなかなか難しい。従って、余り積極的な派遣活動を展開することは出来ず、そのバランスが大切である。

②同窓会各国支部網の活用

同窓会各国支部網、ネットワーク誌「こころねっと」を通じたネットワーク、帰国及び在日卒業生の住所や e-mail アドレス網は本学、及び地域社会の国際化戦略における重要なインフラと考えている。小規模大学が海外事務所を持つことは難しいが、同窓会支部には本学の海外支部としての役割を期待し、それを既にお願している。

③今後の活動方向

- ・同窓会及び在学生在が連携して、地域社会の国際化に貢献できるような活動の模索が必要である。上海支部及び西安支部が編成し来訪したミッション型交流もそのプロトタイプであると言えるが、ミッション型交流をいかに継続実施できるかも課題である。
- ・本学教員が各国支部と協力して、現地で産官学民の参加者を集めて、シンポジウムや講演会を実施し、その中から国際共同研究のシーズを発掘し、更にそれに県内企業を巻き込む活動も望まれる。
- ・同窓会支部網の活性化と、活動内容に関する情報交換のために、福井大学同窓会世界大会の開催も望まれるが、その予算確保も課題である。

3. 教員の社会貢献に関する活動

3-1. 地域在住外国人のための日本語ボランティアスタッフの育成

福井県では、地域在住日本語学習者の日本語学習支援は、福井県国際交流協会及び各ボランティア団体が中心となって行われている。日本語学習支援者はまだまだ不足しており、その人材育成のための講座が、各種団体により開講されている。平成19~21年度は、留学生センター桑原陽子准教授が以下の講座の講師を担当した。

平成19~21年度 福井県国際交流協会主催「日本語指導ボランティア養成講座」基礎Ⅰ、基礎Ⅱ（平成18年度より継続）

平成19年度 日本語の輪を広げる会主催「日本語指導ボランティア専門講座」

平成21年度 インターナショナルさかい主催「日本語指導ボランティア養成講座」基礎Ⅰ

3-2. 国際ゾンタ福井クラブ主催「留学生論文」審査

国際有職婦人奉仕団体である国際ゾンタクラブ福井は、福井県内の留学生を対象とする留学生論文募集事業を行っている。平成14年度より留学生センター今尾ゆき子教授が参画して、ゾンタクラブ役員とともに論文審査を行っており、平成19～21年度も引き続き審査を担当した。

3-3. 福井北ロータリークラブ・福井県国際交流協会主催「外国人による日本語弁論大会」及び「外国人による日本語スピーチコンテスト」審査

平成20年度に、福井北ロータリークラブ・福井県国際交流協会主催「外国人による日本語弁論大会」が初めて開催され、留学生センター今尾ゆき子教授が、審査委員長を担当した。さらに、平成21年度に同団体が開催した「外国人によるスピーチコンテスト」においても、今尾教授が審査委員長を担当している。

3-4. 県内企業国際化、特に外国人採用及び雇用に関する講演

留学生センターは経済界特に福井の経済界の国際化を支援する視点から、各種活動を展開しているが、国際化における留学生雇用推進もその一つである。一方、福井県は香港及び上海に駐在員事務所を設置し、県内企業の海外進出・販路拡大等の側面支援を行っている。

海外事業の展開においては、我が国及び現地国の双方の社会文化事情に詳しく、双方の言語運用能力を持つ留学生の活用が望まれるが、県内の中小企業においては、外国人採用の経験も少なく、積極的な雇用姿勢は生れていないのが実情である。

そこで、福井大学留学生センターでは、福井労働局、福井県、商工会議所等と連携して、外国人採用や雇用における諸問題に関する講演会を行い、人材面における県内企業の国際化を推進している。これは、いわゆる留学生就職支援の側面もあるが、主として、企業人の啓蒙活動として、講演したものである。

留学生30万人計画の趣旨の柱の一つは、日本経済のグローバル化と活性化のために、優秀な外国人留学生を獲得することであるが、受け皿である企業人の意識改革も課題である。

1) 外国人雇用セミナー

講演日時	平成20年9月30日 15:00-15:45
場 所	福井県生活学習館
講 師	中島清 (福井大学留学生センター教授)
演 題	「企業の国際化と外国人留学生の就職状況について」
参加者	300名 (県内企業人事担当者)
主 催	福井労働局

2) 平成21年度丹南雇用開発協議会通常総会での講演

講演日時	平成21年4月14日 14:30-15:30
------	------------------------

場 所	武生商工会館
講 師	中島清（福井大学留学生センター教授）
演 題	「企業の国際化と留学生の採用」
参加者	50名（丹南地区企業経営者と人事担当者）
主 催	丹南雇用開発協議会

3) 鯖江めだかクラブ定例会での講演

講演日時	平成22年2月23日 19:00-20:30
場 所	鯖江シティホテル
講 師	中島清（福井大学留学生センター教授）
演 題	「企業の国際化における留学生の役割」
参加者	20名（会社社長、医師、文化人等）
主 催	鯖江めだかクラブ

3-5. 家庭裁判所における家事調停活動

平成21年12月31日現在福井県内に外国人登録者が12,716人（内福井市4,119人）いるが、国際結婚のカップルも多い。福井家庭裁判所では離婚、親権、養育費、婚費分担、婦権侵害等々家庭における様々な問題の調停を行っているが、中島清留学生センター教授は平成14年10月に福井家庭裁判所家事調停員、平成16年1月に同参与にそれぞれ任命され、それ以降今日まで家事調停及び家事審判業務を行っている。

留学生や研修生等国際関係業務に35年間携わった経験を生かし、また、海外生活10年の経験を生かして、その語学力を活用しながら、主として国際結婚における夫婦関係調整の調停を担当している。

調停業務は申立人と相手方の双方から話を聞きながら、お互いに譲り合いを促し、合意点を構築していく作業であり、裁判官と協議しながら進める仕事である。申立人や相手方は弁護士を代理人として同席させることもある。そして、調停の結果である調停条項は裁判における判決と同等の拘束力を伴う。

月1、2回、そして1回3時間ほどの業務であるが、異文化摩擦に起因する夫婦関係の調整をするという社会的貢献だけでなく、調停作業を通して調停員自身の社会規範等に関する認識を深めることもできるので、本学での相談業務にも役立っている。

3-6. 学外者による来訪各種相談

福井大学留学生センターでは、県内産官学民レベルの国際交流や国際化を推進しているが、各界との連携業務を展開していく中で、学外者が幅広いテーマについて相談に訪れる。

平成19年度52件、平成20年度58件、平成21年度57件と、過去3年間に167件の相談に、県内各層の関係者が中島清相談・交流担当教員の研究室に各種相談のために来訪している。

交流活動に関する相談が50.3%、留学生採用に関する相談が34.7%で、この二つで85%を占め

ているが、その外に、研究への協力依頼とか、事件・事故の加害者や被害者の来訪相談もある。

例えば、小学校等で交流活動を開始するに当たって、内容や時間配分、注意点や謝礼金の是非等についての相談があれば、過去の例を提示しながら、アドバイスするようにしている。

留学生採用について相談があれば、過去の成功例、失敗例を提示しながら、アドバイスするようにしている。事業計画が未熟な場合には、留学生採用には時期尚早であるとした上で、福井県海外駐在員事務所、福井大学留学生同窓会各支部事務局を紹介するなどして、Feasibility Studyを十分やるように促している。日米両国証券業協会の投資相談業務等の有資格者として、やや専門的なアドバイスも行っている。

3-7. 課 題

各教員の社会活動は、平成19年度以前と比較すると多様化している。さらにその活動は一回限りのものではなく、継続して行われていると言える。これは、各教員の専門を生かした活動が、地域に根付いた結果であり、評価されるべきであると考ええる。今後もこれらの活動を各教員が継続していくと同時に、教員個人の活動から留学生センター全体としての活動へと発展させていくことが望まれる。

資料 1

1. 教員個人データ（今尾ゆき子）
2. 教員個人データ（中島 清）
3. 教員個人データ（山中 和樹）
4. 教員個人データ（膽吹 覚）
5. 教員個人データ（桑原 陽子）

今尾 ゆき子 IMAO YUKIKO

【個人情報】

着任年月	専門分野	研究内容	所属学会
2002.4	日本語教育 日本語学	談話文法、語用論 接続助詞に関する研究 福井方言に関する研究	日本語教育学会・日本語学会・ 言語学会・日本語文法学会・ Association of Teachers of Japanese

【担当授業】

授業科目名	開講年度	特記事項
日本語（作文）	2007－2009	日本語研修コース科目
日本語（特別演習）	2008－2009	日本語研修コース科目
日本語初級	2007－2009	短期留学プログラム科目
日本事情1	2007－2009	短期留学プログラム科目
はじめての漢字	2007－2009	短期留学プログラム科目
日本語上級（日本語F）	2008	短期留学プログラム科目
日本語上級（日本語G）	2009	短期留学プログラム科目
日本語上級（日本語H）	2009	短期留学プログラム科目
日本語E	2007－2008	共通教育科目
日本語F	2007－2008	共通教育科目
日本語G	2009	共通教育科目
日本語H	2009	共通教育科目
日本事情B	2007－2009	共通教育科目
多文化コミュニケーションB	2008	共通教育科目
情報化と日本語	2007－2009	教育地域科学部科目
専門セミナー	2007－2009	教育地域科学部科目
日本語文法論	2007－2009	教育地域科学部科目
国語学特別演習Ⅱ	2007－2009	教育学研究科科目
国語学特論Ⅱ	2007－2009	教育学研究科科目
国語教科教育実践研究	2007	教育学研究科科目

【学内運営】

委員会名	役職名	就任年月	退任年月	特記事項
留学生委員会	委員	2002.5	現在に至る	
留学生センター運営委員会	委員	2002.5	現在に至る	
共通教育委員会	第3分野・幹事	2008.4	2010.3	

【論文】

論文題名	著者名	応募・招待	掲載誌名 (または会議名)	発行年月	編者名	論文分類	査読有無	特記事項
学部留学生の日本語力と日本語科目の履修	今尾ゆき子	応募	『福井大学留学生センター紀要』第4号 pp.1-19.	2009.3	福井大学留学生センター	研究論文	有	
気づかない方言文法ー福井県坂井市丸岡町方言における「ナ形容詞」の用法ー	今尾ゆき子	応募	『福井大学教育地域科学部紀要第I部人文科学』第59号 pp.1-16.	2009.1	福井大学教育地域科学部	研究論文	有	

【口頭発表】

論文題名	著者名	応募・招待	発表学会など	主催者名	発表年月	査読有無	特記事項
福井県坂井市丸岡町方言における「ナ形容詞」の用法	今尾ゆき子	応募	平成21年度春季福井大学言語文化学会	福井大学言語文化学会	2009.6	有	

【学外運営】

運営分類	役職名	機関名	就任年月	退任年月	特記事項
学会	日本語教育学会研究集会委員会委員	日本語教育学会	2002.4	現在に至る	

【会議運営】

会議・講演会名	役職名	主催者名	開催年月	特記事項
2009年度日本語教育学会研究集会ー第4回ー	研究集会世話人	日本語教育学会	2009.6	於：富山大学
2008年度日本語教育学会研究集会ー第4回ー	研究集会開催校代表	日本語教育学会	2008.7	於：福井大学
2007年度日本語教育学会研究集会ー第4回ー	研究集会世話人	日本語教育学会	2007.7	於：金沢大学

【社会活動】

社会活動名	社会活動内容	開始年月	終了年月	特記事項
国際ゾンタ福井クラブ	「留学生論文」審査委員	2002.7	現在に至る	
福井北ロータリークラブ・福井県国際交流協会	「第1回外国人による日本語弁論大会」審査委員長	2007.11	2008.2	
福井北ロータリークラブ・福井県国際交流協会	「第2回外国人による日本語スピーチコンテスト」審査委員長	2008.6	2009.2	

中島 清 NAKASHIMA KIYOSHI

【個人情報】

着任年月	専門分野	研究内容	所属学会
2000.8	日本語教育	専門教育のための日本語教育、 地域国際化支援	日本語教育学会

【担当授業】

授業科目名	開講年度	特記事項
日本語（会話）	2007－2009	日本語研修コース
はじめての会話	2007－2008	短期留学プログラム
伝統産業Ⅰ	2007－2009	短期留学プログラム
応用日本語Ⅰ	2007－2008	学部共通教育科目
応用日本語Ⅱ	2007－2008	学部共通教育科目
工業日本語Ⅰ＆Ⅱ	2007－2009	工学部基礎専門科目
工業日本語Ⅱ＆Ⅳ	2007－2009	工学部基礎専門科目
工業日本語特論Ⅰ	2007－2009	工学研究科共通科目
工業日本語特論Ⅱ	2007－2009	工学研究科共通科目
海外企業経営・技術論	2008－2009	スプリングプログラム in 上海 （工学研究科共通科目）
海外インターンシップ	2008－2009	スプリングプログラム in 上海

【学内運営】

委員会名	役職名	就任年月	退任年月	特記事項
留学生委員会	委員	2000.10		
留学生センター運営委員会	委員	2000.10		
国際交流委員会	委員	2003.4		
国際交流推進機構企画会議	委員	2007.6		
安全保障輸出管理委員会	委員	2009.9		
高等教育推進センター学生支援部門	委員	2009.9		
工学部・工学研究科留学生委員会	委員	2000.10		2005.4以降 副委員長
工学部・工学研究科英語教育実施運営委員会	委員	2000.10		
工学部・工学研究科ネットワーク委員会	委員	2005.4		
工学部・工学研究科情報セキュリティ管理委員会	委員	2009.5		

【外部資金及び学内競争的配分経費】

外部資金の分類	研究題目	代表者名	分担 題目名	出資団体名	受入金額 (千円)	実施 年度	新規・ 継続 の別
(独)日本学生支援機構が実施する「平成19年度(財)中島記念国際交流財団助成留学生地域交流事業」	福井大学及び福井大学留学生同窓会上海支部と福井地区産官学民各界との相互ネットワーク整備事業	中島 清	代表者	(財)中島記念国際交流財団	520	2007	新規
平成19年度福井大学学術・地域交流支援金	福井大学留学生同窓会上海支部「教育及び経済交流ミッション」受入事業	中島 清	代表者	福井大学	250	2007	新規
9月入学実施検討経費	「アジア地域国際相互交流大学院工学教育」プログラムの構築他	服部修次	国内企業訪問調査	福井大学	5,750	2008	新規
(独)日本学生支援機構国際交流セミナー事業	平成20年度国際大学交流セミナー「天津波被災地アチェ州(インドネシア)教育支援を目的とした理数教育ワークショップ」	香川喜一郎	助成申請補助及びシンポジウム企画・運営	(独)日本学生支援機構	2,500	2008	新規

【論文】

論文題名	著者名	応募・ 招待	掲載誌名 (または会議名)	発行年月	編者名	論文 分類	査読 有無
福井大学における卒業留学生のフォローアップ体制	中島 清	招待	留学交流 2009年10月号 10-13ページ	2009.10	(独)日本学生支援機構	事例紹介	無

【講演会】

講演会名	題目	主催者名	開催年月	特記事項
外国人雇用セミナー	企業の国際化と外国人留学生の就職状況について	福井労働局	2008.9	参加者300名 (県内企業人事担当者)
研究会例会での講演	福井大学における国際交流	福井県立大学国際交流研究会	2008.12	参加者10名 (福井県立大学教員)

講演会名	題目	主催者名	開催年月	特記事項
通常総会での特別講演	企業の国際化と留学生の採用	丹南雇用開発協議会	2009.4	参加者50名 (企業経営者及び人事担当者)
定例会での特別講演	企業の国際化における留学生の役割	鯖江めだかクラブ	2010.2	参加者20名 (会社社長、医師、文化人等)

【学外運営】

運営分類	役職名	機関名	就任年月	退任年月	特記事項
留学生交流推進	委員	福井県留学生交流推進協議会	2002.4		
家事調停	家事調停員	福井家庭裁判所	2002.10		
家事審判	参与員	福井家庭裁判所	2005.1		
国際理解教育	国際理解教育出張講座選定委員	財団法人福井県国際交流協会及び独立行政法人国際協力機構	2004.6		

【会議運営】

会議・講演会名	役職名	主催者名	開催年月	特記事項
第3回留学生国際シンポジウム「福井大学留学生同窓会上海支部と福井県産官学民との交流ネットワーク構築に向けて」	企画・運営及びシンポジウムのコーディネーター	福井大学留学生センター 福井大学留学生同窓会 上海支部	2007.10	参加者107名
第4回留学生国際シンポジウム「地震・津波等自然災害被災者支援のための国際ネットワーク構築に向けて」	企画・運営及びシンポジウムのコーディネーター	福井大学留学生センター Syiah Kuala 大学理学部	2008.9	参加者76名
第5回留学生国際シンポジウム「留学生の就職・採用促進のための産官学民ネットワーク構築に向けて」	企画・運営及びシンポジウムのコーディネーター	福井大学留学生センター 福井大学中国人留學生学友会 福井市日本中国友好協会	2008.11	参加者150名
日本企業就職希望者支援のための日本勤務中先輩及び就職内定者との交流会	企画・運営及び交流会のコーディネーター	福井大学留学生センター 福井大学留学生同窓会 日本支部 福井大学留學生会 福井大学中国人留學生学友会	2009.11	参加者50名

【報道】

報道機関名	報道年月	報道内容	特記事項
福井街角放送	2007.9	福井大学留学生活動紹介及び第3回留学生国際シンポジウム紹介（10分間）	放送局で生出演
福井テレビ	2008.3	「なるほどふくいズ（Fuquiz）」に留学生3名が出演し、異文化交流関係のクイズに解答（15分間）	企画運営の支援（全て、留学生センターラウンジで撮影収録）
福井ケーブルテレビ	2009.12	もりもりふくい「福井在住外国籍市民」で留学生の生活や同窓会活動等を紹介（5分間）	出演 企画運営の支援（中島研究室及び本学体育館で撮影収録）

山中 和樹 YAMANAKA KAZUKI

【個人情報】

着任年月	専門分野	研究内容	所属学会
2003.10	日本語教育	多文化コミュニケーション、音声教育	日本語教育学会・音声学会 異文化間教育学会・遊戯史学会

【担当授業】

授業科目名	開講年度	特記事項
日本語（漢字）	2008.2009	日本語研修コース科目
日本語中級	2007-2009	短期留学プログラム科目
はじめての作文	2008.2009	短期留学プログラム科目
はじめての会話	2009	短期留学プログラム科目
日本事情2	2008	短期留学プログラム科目
多文化コミュニケーション1	2008.2009	短期留学プログラム科目
多文化コミュニケーション2	2009	短期留学プログラム科目
日本語A	2007.2008	共通教育科目
日本語B	2009	共通教育科目
日本語C	2009	共通教育科目
日本語D	2007.2008	共通教育科目
日本事情A	2008	共通教育科目
日本の文化	2008	共通教育科目
多文化コミュニケーションA	2007-2009	共通教育科目

授業科目名	開講年度	特記事項
多文化コミュニケーションC	2007.2009	共通教育科目
日本語文章表現	2007.2008	教育地域科学部科目

【学内運営】

委員会名	役職名	就任年月	退任年月	特記事項
全学留学生委員会	委員	2003.10	現在に至る	
留学生センター運営委員会	委員	2003.10	現在に至る	
共通教育委員会	第3分野幹事	2010.4	現在に至る	

【社会活動】

社会活動名	社会活動内容	開始年月	終了年月	特記事項
国際協力フォーラム in Fukui	企画	2007.4	2007.11	福井県 JICA 派遣専門家 OB 会・(社)協力隊を育てる会主催

膽吹 覚 IBUKI SATORU

【個人情報】

着任年月	専門分野	研究内容	所属学会
2002.10	日本文学 日本文化論	①留学生を対象とした福井学一郷土かるた制作・普及を通じて－ ②本居宣長における近世後期日本文化論 ③藩校の蔵書目録の研究（科研）	日本語教育学会 鈴屋学会 日本近世文学会 日本図書館文化史研究会 和漢比較文学会

【担当授業】

授業科目名	開講年度	特記事項
日本語（文化）	2007－2009	日本語研修コース科目
日本語（特別演習）	2007－2009	日本語研修コース科目
日本語初中級	2007－2009	短期留学プログラム科目
日本語中級	2007－2009	短期留学プログラム科目
日本語上級	2007－2009	短期留学プログラム科目
日本事情2	2007,2009	短期留学プログラム科目
日本の文化	2009	短期留学プログラム科目
日本語B	2007,2008	共通教育科目

授業科目名	開講年度	特記事項
日本語D	2009	共通教育科目
日本語E	2009	共通教育科目
日本語G	2007, 2008	共通教育科目
日本の文化	2007, 2009	共通教育科目
日本事情A	2007, 2009	共通教育科目
専門セミナー	2007-2009	教育地域科学部科目
国文学特別研究 I	2007-2009	大学院教育学研究科科目
国文学特論 I	2007-2009	大学院教育学研究科科目

【教育（学外）】

大学名・機関名	授業科目名	実施年度	年間授業期間数	特記事項
放送大学福井学習センター	日本文化論を読む	2007	30	非常勤講師

【学生指導】

年度	学生数	留学生(内数)	特記事項
2009	2	0	教育地域科学部地域文化課程異文化交流コース助言教員・卒業論文指導
2008	1	1	2008年度大学推薦による国費外国人留学生（研究留学生）の指導教員（ドイツ・ハンブルク大学、2009年3月まで）
2008	2	0	教育地域科学部地域文化課程異文化交流コース助言教員・卒業論文指導
2007	2	0	教育地域科学部地域文化課程異文化交流コース助言教員・卒業論文指導

【学内運営】

委員会名	役職名	就任年月	退任年月	特記事項
教育地域科学部・教育学研究科留学生委員会	委員	2009.4		
共通教育委員会（第10部会）	委員	2008.4	2010.3	
留学生センター運営委員会	委員	2003.4		
全学留学生委員会	委員	2002.10		

【外部資金及び学内競争的配分経費】

外部資金の分類	研究題目	代表者名	分担 題目名	出資 団体名	受入金額 (千円)	実施 年度	新規・ 継続の別
科学研究費補助金	藩校の蔵書目録の研究－ 北陸地方を中心に－	膽吹 覚	代表者	日本学術 振興会	800	2007	継続

【論文】

論文題名	著者名	応募・招待	掲載誌名 (または会議名)	発行年月	編者名	論文分類	査読有無
宝暦六年の御所拝観一本居宣長『在京日記』に見る京都風俗②-	膽吹 覚	応募	国語国文学, 49号, pp67-70	2010.3	福井大学言語文化研究会	研究ノート	無
本居宣長『在京日記』に見る宝暦期京都の盆	膽吹 覚	応募	国語国文学, 49号, pp1-16	2010.3	福井大学言語文化研究会	学術論文	無
本居宣長『在京日記』に見る宝暦期京都の年末年始	膽吹 覚	応募	国文学論叢, 55輯, pp52-75	2010.2	龍谷大学国文学会	学術論文	有
名所図会に見る近世後期の若狭と越前(2)	膽吹 覚	応募	福井大学教育地域科学部紀要, 第I部人文科学60号, pp1-42	2009.12	福井大学教育地域科学部	学術論文	有
宝暦京都福引き事情一本居宣長『在京日記』に見る京都風俗①-	膽吹 覚	応募	国語国文学, 48号, pp39-42	2009.3	福井大学言語文化研究会	研究ノート	無
京都、島原の燈籠	膽吹 覚	応募	国文学論叢, 54輯, pp40-47	2009.2	龍谷大学国文学会	学術論文	有
名所図会に見る近世後期の若狭と越前(1)	膽吹 覚	応募	福井大学教育地域科学部紀要, 第I部人文科学59号, pp1-9	2009.1	福井大学教育地域科学部	学術論文	有
近江国大溝藩修身堂の蔵書目録	膽吹 覚	応募	国文学論叢, 53輯, pp51-58	2008.2	龍谷大学国文学会	学術論文	有
藩校の蔵書目録に関する覚え書-滋賀・福井・石川・富山を調査して-	膽吹 覚	応募	書籍文化史, 9号, pp13-23	2008.1	鈴木俊幸(科研費)	学術論文	無
福井大学附属図書館蔵『授業門人姓名録』	膽吹 覚	応募	鈴屋学会報, 24号, pp103-112	2007.12	鈴屋学会	学術論文	有
福井藩藩校『改正学問所書目』の韓書・琉書	膽吹 覚	応募	福井大学教育地域科学部紀要, 第I部人文科学58号, pp1-9	2007.12	福井大学教育地域科学部	学術論文	有

【著書】

著書名	著者名	出版社名	発行年月	著書分類	執筆形態	担当ページ	特記事項
越前若狭いろはかるた	ふくい文化研究会	ふくい文化研究会	2009.12	学習教材	読み句監修担当	48句全て	

【口頭発表】

発表題目	発表者名	応募・招待	発表学会名等	主催者名	発表年月	査読有無	特記事項
藩校の管理運営に関する研究	膽吹 覚	応募	図書館文化史研究会, 2009年度研究大会	図書館文化史研究会	2009.9	有	
藩校の蔵書目録の研究－滋賀・福井・石川・富山を対象として－	膽吹 覚	応募	図書館文化史研究会, 2007年度, 第2回例会	図書館文化史研究会	2007.12	有	

【講演会】

講演会名	題 目	主催者名	開催年月	特記事項
福井大学公開講座	郷土かるたの魅力と活用	福井大学	2009.12	講師
福井大学公開講座	福井の名所今昔－敦賀・丹南－	福井大学	2009.7	講師

桑原 陽子 KUWABARA YOKO

【個人情報】

着任年月	専門分野	研究内容	所属学会
2004.7	日本語教育 第二言語習得	日本語学習者の読みの方略 非漢字系学習者の文字、語彙学習	日本語教育学会・日本教育心理学会 ・留学生教育学会・カナダ日本語教育振興会

【担当授業】

授業科目名	開講年度	特記事項
日本語（文型・文法）	2007－2009	日本語研修コース科目 2コマ/週
日本語（情報処理）	2007－2009	日本語研修コース科目
日本語（修了発表指導）	2008, 2009	日本語研修コース科目
日本語（文型・文法）	2007	日本語研修特別コース科目
日本語初中級	2007－2009	短期留学プログラム科目
日本語中級	2009	短期留学プログラム科目
日本語A	2009	共通教育科目
日本語C	2007, 2008	共通教育科目
日本語F	2009	共通教育科目
日本語H	2007, 2008	共通教育科目
日本語教育論	2007	教育地域科学部科目

授業科目名	開講年度	特記事項
日本語音声表現	2007, 2008	教育地域科学部科目
異文化教育論	2007-2009	教育地域科学部科目
専門セミナー	2007-2009	教育地域科学部科目
日本語教育特論	2007-2009	教育学研究科科目
日本語教育特別演習	2007-2009	教育学研究科科目
日本語 I	2009	全学日本語コース科目

【学生指導】

年度	学生数	留学生(内数)	特記事項
2007	2	0	教育地域科学部地域文化課程異文化交流コース助言教員・卒業論文指導
2008	1	0	教育地域科学部地域文化課程異文化交流コース助言教員・卒業論文指導

【学内運営】

委員会名	役職名	就任年月	退任年月	特記事項
共通教育委員会	第10部会部会長	2006.4	2008.3	
共通教育自己点検・評価実施小委員会	委員	2006.4	2008.3	
教育地域科学部・教育学研究科留学生委員会	委員	2007.11	2009.4	
全学留学生委員会	委員	2004.7	現在に至る	
留学生センター運営委員会	委員	2006.4	現在に至る	

【外部資金及び学内競争的配分経費】

外部資金の分類	研究題目	代表者名	分担 題目名	出資 団体名	受入金額 (千円)	実施 年度	新規・ 継続の別
平成19年度福井大学競争的配分経費(教育に関する評価経費)	初級学習者向け仮名教材の作成	桑原陽子			200	2007	
科学研究費補助金	非漢字圏日本語学習による漢字語の意味の推測過程についての縦断的研究	桑原陽子			100	2007	新規
科学研究費補助金	非漢字圏日本語学習による漢字語の意味の推測過程についての縦断的研究	桑原陽子			500	2008	継続
科学研究費補助金	非漢字圏日本語学習による漢字語の意味の推測過程についての縦断的研究	桑原陽子			500	2009	継続

【論文】

論文題名	著者名	応募・招待	掲載誌名 (または会議名)	発行年月	編者名	論文分類	査読有無
非漢字系日本語学習者の漢字未知語の意味推測における統語情報の利用—中上級学習者のケーススタディより—	桑原陽子	応募	福井大学留学生センター紀要, 第5号, p.1-10.	2010.3	福井大学留学生センター	学術論文	有
全学向け日本語コースにおける漢字指導—初級後半レベルの日本語学習者に対する漢字指導のケーススタディ—	高瀬公子・酢谷尚子・斎藤ますみ・桑原陽子	応募	福井大学留学生センター紀要, 第5号, p.11-23	2010.3	福井大学留学生センター	学術論文	有
漢字未知語の意味推測に及ぼす語構成の影響—中上級学習者のケーススタディより—	桑原陽子	応募	福井大学留学生センター紀要, 第4号, p.21-30.	2009.3	福井大学留学生センター	学術論文	有
ディクテーション用CALL教材開発とその評価	桑原陽子・中園博美・敷田紀子	応募	福井大学留学生センター紀要, 第3号, p.1-12.	2008.3	福井大学留学生センター	学術論文	有
非漢字圏日本語学習者の漢字の再認に及ぼすイメージ形成の効果	桑原陽子	応募	Canadian Association for Japanese Language Education Japanese Linguistics and Pedagogy, Journal CAJLE, 9.21-38.	2007.8	カナダ日本語教育振興会	学術論文	有

【口頭発表】

発表題目	発表者名	応募・招待	発表学会名等	主催者名	発表年月	査読有無	特記事項
留学生の断りのEメールの分析—eラーニング教材開発を目指して—	深澤のぞみ, 桑原陽子, 濱田美和, 古本裕子	応募	豪州日本研究会・日本語教育国際研究大会2009年度研究大会(シドニー)	日本語教育学会	2009.7	有	
「読む」コミュニケーションのための初級教材の作成と試用	桑原陽子, 中道一世, 野田尚史	応募	2008年度 日本語教育学会 秋季大会	日本語教育学会	2008.10	有	
非漢字圏日本語学習者の漢字未知語の意味推測ストラテジーに関する—考察—中級学習者のケーススタディより—	桑原陽子	応募	年次大会 CAJLE 2008 (トロント)	カナダ日本語教育振興会 (CAJLE)	2008.8	有	

発表題目	発表者名	応募・招待	発表学会名等	主催者名	発表年月	査読有無	特記事項
ディクテーションで産出される誤答とその訂正行動に関する考察－CALL教材の学習履歴データの分析から－	桑原陽子・中園博美	応募	2008年日本語教育国際研究大会（釜山）	日本語教育学会	2008.7	有	
単語ディクテーション教材試作	桑原陽子・中園博美	応募	第4回「日本語教育とコンピューター」国際会議（ハワイ）	日本語教育支援システム研究会	2007.8	有	

【社会活動】

社会活動名	社会活動内容	開始年月	終了年月	特記事項
福井県国際交流協会 日本語指導ボランティア養成講座 基礎Ⅰ	講師	2007.5	2009.7	全4回／年
福井県国際交流協会 日本語指導ボランティア養成講座 基礎Ⅱ	講師	2007.11	2009.12	全4回／年
‘日本語の輪を広げる会’日本語指導ボランティア専門講座	講師	2008.3	2008.6	全6回
インターナショナル坂井 日本語指導ボランティア養成講座 基礎Ⅰ	講師	2010.2	2010.3	全7回

1. 福井大学の外国人留学生集計表
2. 福井大学の入学年度別・国別外国人留学生数一覧
3. 学術交流協定締結状況及び連絡担当者一覧一覧
4. 主な行事（平成19～21年度）
5. 福井大学留学生センター規程
6. 福井大学短期留学プログラム規程
7. 福井大学留学生センター紀要投稿規程
8. 留学生センター専任教員会議 議事録（平成21年度）
9. 福井大学留学生同窓会登録用紙 兼
「こころねっと」向けメッセージ及び住所変更届け用紙

1. 福井大学の外国人留学生集計表

()は女子数で内数

	学 費	学部学生			大 学 院 生				*研 究 生			*特別聴講学生		合 計			
		教育地域科学部	医学部	工 学 部	教育学研究科 修士課程	医学系研究科 博士課程	工 学 研 究 科 博士前期課程 博士後期課程		教育学研究科・ 教育地域科学部	医学系研究科・ 医学部	工学研究科・ 工 学 部	教育学研究科・ 教育地域科学部	工学研究科・ 工 学 部				
インド	国					1									1	1	
	政														0		
	私														0		
ハンガリー	国														7	7	
	政														0		
	私														0		
タイ	国														1	3	
	政														0		
	私												1		2		
マレーシア	国														0	34(6)	
	政			30(6)				1	1						32(6)		
	私			1				1							2		
インドネシア	国														2	6	
	政			2				1	2						5		
	私							1							0		
フィリピン	国														1	2(1)	
	政					1(1)				1					2(1)		
	私														0		
大韓民国	国														0	4	
	政														0		
	私			1										2	4		
ラオス	国														0	4	
	政														0		
	私			3				1							4		
カンボジア	国														0	1	
	政														0		
	私			1											1		
ベトナム	国														0	11(5)	
	政														0		
	私			8(3)				2(1)			1(1)				11(5)		
モンゴル	国														0	1(1)	
	政														0		
	私					1(1)									1(1)		
中国	国														3	139(60)	
	政					3(1)		1	7(3)						11(4)		
	私	4(2)		27(8)	11(8)	1	34(12)	17(3)		3(3)		8(5)	11(9)	12(6)	128(56)		
台湾	国														0	3	
	政														0		
	私														3		
パキスタン	国														1	1	
	政														0		
	私														0		
キューバ	国														1	1	
	政					1									0		
	私														0		
エルサルバドル	国														1	1	
	政														0		
	私														0		
ペルー	国														1(1)	1(1)	
	政														0		
	私														0		
ギニア	国														1	1	
	政														0		
	私														0		
ドイツ	国														1	3(2)	
	政														0		
	私													2(2)	2(2)		
ポーランド	国														1	3(2)	
	政														0		
	私							1(1)						1(1)	1(1)		
フランス	国														0	3(2)	
	政														0		
	私													2(1)	3(2)		
キルギス	国														1(1)	1(1)	
	政					1(1)									0		
	私														0		
パレスチナ	国														1	1	
	政														0		
	私														0		
シリア	国														1	2	
	政														0		
	私													1	1		
合 計	国			2		7(3)		3	21(4)		3(1)		1		1	38(8)	
	政			30(6)				1	1						32(6)		
	私	4(2)		41(11)	12(9)	1			39(13)	23(4)		3(3)		11(7)	13(11)	17(7)	164(67)
		4(2)		73(17)	12(9)	8(3)			43(13)	45(8)		6(4)	1	11(7)	14(11)	17(7)	234(81)
			77(19)			108(33)										234(81)	
										18(11)						31(18)	
																234(81)	

*研究生には、特別研究学生を含む。
*特別聴講学生には、科目等履修生を含む。

平成21年5月1日現在

3. 学術交流協定締結状況及び連絡担当者一覧

個別状況（大学間交流協定 33、部局間交流協定 33） 平成22年3月1日
 アメリカ合衆国 7、中国 23、韓国 7、ロシア 4、オーストラリア 2、ドイツ 3、ハンガリー 2、タイ 1、ポーランド 1、インド 2、モンゴル 1、
 ブルガリア 1、スウェーデン 1、台湾 3、インドネシア 3、フランス 3、アラブ首長国連邦 1、カナダ 1、ウガンダ共和国 1、マレーシア 1

1. 大学間交流協定

		（ ）は協定の締結日				
	機関名	国名	締結年月日	学生交流	連絡担当者（窓口教員）	
1	ラトガーズ大学	アメリカ合衆国	昭和56年10月7日		教育地域科学部	
2	西安外国語大学	中国	平成18年12月6日 (平成16年9月9日)	学生の交流の奨励	教育地域科学部	
3	西安理工大学	中国	昭和60年9月21日	学生の交流の奨励	工学研究科	
4	浙江大學	中国	平成3年9月25日	学生の交流の奨励	医学部(医学系) 教育地域科学部(教育系) 工学研究科(工学系)	
5	ロシア科学アカデミー応用物理学研究所	ロシア	平成11年8月1日		遠赤外線開発研究センター	
6	モントクレリア立大学	アメリカ合衆国	平成12年5月17日	学生の交流の奨励	教育地域科学部	
7	北京信息科技大学	中国	平成12年8月25日	学生の交流の奨励	工学研究科	
8	モスクワ工科大学	ロシア	平成17年11月14日 (平成15年10月19日)		工学研究科	
9	浙江理工大学	中国	平成12年12月11日	学生の交流の奨励	工学研究科	
10	南昌航空大学	中国	平成13年5月15日	学生の交流の奨励	工学研究科	
11	国立雲林科技大学	台湾	平成14年4月25日	学生の交流の奨励	工学研究科	
12	江南大学	中国	平成14年8月26日	学生の交流の奨励	工学研究科	
13	インドネシア大学	インドネシア	平成19年9月30日 (平成14年9月30日)	学生の交流の奨励	教育地域科学部 工学研究科	
14	リヨン繊維・化学技術院	フランス	平成14年10月23日	学生の交流の奨励	工学研究科	
15	北京理工大学	中国	平成14年11月1日	学生の交流の奨励	工学研究科	
16	蘇州大学	中国	平成14年11月27日	学生の交流の奨励	工学研究科	
17	クレムリン大学	アメリカ合衆国	平成15年2月11日	学生の交流の奨励	教育地域科学部 工学部研究科	
18	東義大学校	韓国	平成15年3月21日	学生の交流の奨励	工学研究科	
19	メーン大学	フランス	平成15年5月28日	学生の交流の奨励	部学官連携本型	
20	中国医科大学	中国	平成15年9月16日		医学部	
21	東華大学	中国	平成16年5月25日	学生の交流の奨励	工学研究科	
22	テキサス大学 M. D. Anderson がんセンター	アメリカ合衆国	平成16年8月12日		高エネルギー医学研究センター	
23	イティハッド大学	アラブ首長国連邦	平成16年9月4日 (平成14年11月10日)	学生の交流の奨励	工学研究科	
24	瀋陽師範大学	中国	平成17年7月19日	学生の交流の奨励	教育地域科学部 工学研究科	
25	ジャクアラ大学	インドネシア	平成17年8月8日	学生の交流の奨励	工学研究科	
26	天津科技大学	中国	平成17年12月20日	学生の交流の奨励	工学研究科	
27	イーストウエスト大学	ハンガリー	平成18年1月26日	学生の交流の奨励	医学部	
28	ウプサラ大学	スウェーデン	平成18年3月28日 (平成14年3月18日)		工学研究科	
29	マルメディア大学	マレーシア	平成18年4月5日	学生の交流の奨励	工学研究科	
30	フィンドレー大学	アメリカ合衆国	平成18年5月31日	学生の交流の奨励	教育地域科学部	
31	インド工科大学カラプール校	インド	平成18年8月10日		高エネルギー医学研究センター	
32	武漢科技大学	中国	平成19年1月12日 (平成14年6月17日)	学生の交流の奨励	工学研究科	
33	ジョセフ フーリエ大学	フランス	平成19年10月30日	学生の交流の奨励	高エネルギー医学研究センター	

2. 部局間交流協定

部局名	機関名	国名	締結年月日	学生交流	連絡担当者（窓口教員）
1 工学部	シドニー大学 School of Physics	オーストラリア	平成6年2月15日		遠赤外線開発研究センター
2 教育地域科学部	ハンブルク大学人文科学部アジア・アフリカ研究所	ドイツ	平成12年4月1日 (平成7年4月1日)	学生の交流の奨励	教育地域科学部
3 遠赤外線開発研究センター	シドニー大学 School of Physics	オーストラリア	平成11年6月1日		遠赤外線開発研究センター
4 高エネルギー医学研究センター	ワシントン大学医学部マリノックロフト放射線医学研究所	アメリカ合衆国	平成11年6月29日		高エネルギー医学研究センター
5 工学部	延世大学工科大学	韓国	平成12年3月1日	学生の交流の奨励	工学研究科
6 工学部	東亜大学校工科大学	韓国	平成12年5月2日	学生の交流の奨励	工学研究科
7 工学部	クルナ科学技術大学	ハンガリー	平成12年7月1日	学生の交流の奨励	工学研究科
8 工学部	キングモンク工科大学	タイ	平成12年8月1日	学生の交流の奨励	工学研究科
9 遠赤外線開発研究センター	D.Y.Fremov 電気物理研究所精密理工学センター	ロシア	平成12年12月1日		遠赤外線開発研究センター
10 工学部	天津工業大学	中国	平成12年12月13日	学生の交流の奨励	工学研究科
11 工学部	ワルシャワ工科大学北科学部工学部	ポーランド	平成13年3月1日	学生の交流の奨励	工学研究科
12 工学部	アンナマライ大学工学部	インド	平成13年3月1日	学生の交流の奨励	留学生センター
13 遠赤外線開発研究センター	カールスルーエ研究センター ハルズ出力・マイクロ波研究所	ドイツ	平成13年3月5日		遠赤外線開発研究センター
14 工学部	新慶大学校工科大学	韓国	平成13年3月24日	学生の交流の奨励	工学研究科
15 工学部	内蒙古工業大学	中国	平成13年3月26日	学生の交流の奨励	工学研究科
16 工学部	嶺南大学校工科大学	韓国	平成13年6月25日	学生の交流の奨励	工学研究科
17 工学部	モンゴル科学技術大学	モンゴル	平成13年8月3日	学生の交流の奨励	留学生センター
18 遠赤外線開発研究センター	中国電子科技大学フラスマ研究所	中国	平成13年12月1日		遠赤外線開発研究センター
19 遠赤外線開発研究センター	ブルガリア科学アカデミー電子工学研究所	ブルガリア	平成14年3月1日		遠赤外線開発研究センター
20 遠赤外線開発研究センター	シュトゥットガルト大学フラスマ研究所	ドイツ	平成14年3月1日		遠赤外線開発研究センター
21 教育地域科学部	嶺南大学校師範大学	韓国	平成14年11月11日	学生の交流の奨励	教育地域科学部
22 工学部	東南大学動力工程系	中国	平成14年12月27日	学生の交流の奨励	工学研究科
23 工学部	中国科学院南京土壤研究所	中国	平成16年7月19日	学生の交流の奨励	工学研究科
24 工学部	ロシア科学アカデミーシベリア地区物理学研究所	ロシア	平成17年1月17日	学生の交流の奨励	工学研究科
25 工学部（大学院一部局内）	上海理工大学動力工程学院	中国	平成17年1月31日	学生の交流の奨励	工学研究科
26 医学部（大学院一部局内）	オタワ大学医学部	カナダ	平成17年4月18日 (平成12年3月18日)	学生の交流の奨励	医学部
27 教育地域科学部	上海師範大学	中国	平成17年7月12日	学生の交流の奨励	教育地域科学部
28 医学部・大学院医学部研究科	テキサス大学ヒューストン健康科学センター	アメリカ合衆国	平成17年9月8日		高エネルギー医学研究センター
29 医学部	マクレー大医学部	ウガンダ共和国	平成18年4月4日	学生の交流の奨励	医学部
30 工学研究科	鄭州交通大機械電子工學院	中国	平成19年12月13日	学生の交流の奨励	工学研究科
31 工学研究科	国立臺灣科技大学工學院	台湾	平成20年2月1日	学生の交流の奨励	工学研究科
32 工学研究科	華東理工大学機械・動力工學院	中国	平成20年2月29日	学生の交流の奨励	工学研究科
33 工学研究科	成均館大工科大学	韓国	平成20年8月19日	学生の交流の奨励	工学研究科
34 遠赤外線開発研究センター	ハルオレオ大	インドネシア	平成21年10月1日		遠赤外線開発研究センター
35 工学研究科	國立清華大工學院	台湾	平成22年1月7日	学生の交流の奨励	工学研究科

3. 協定締結3校（アメリカ合衆国1、韓国1、ロシア1）

部局名	機関名	国名	締結年月日	学生交流
1 福井大学（大学院）	ウスター工科大学	アメリカ合衆国	平成19年11月27日 (平成15年10月13日)	学生の交流の奨励
2 工学部（部局内）	朝鮮大工科大学	韓国	平成19年11月27日 (平成12年5月4日)	学生の交流の奨励
3 工学部（部局内）	モスクワ大学物理学部	ロシア	平成19年11月27日 (平成12年8月29日)	-

4. 主な行事

平成 19 年度

4 月

留学生オリエンテーション（4月20日）

短期留学プログラム授業開始（4月10日）

全学補講日本語コース授業開始（4月23日）

5 月

福井大学祭文京キャンパス（5月25日～27日）

6 月

平成19年度第1回海外留学・語学研修説明会（6月29日）

7 月

授業終了（7月24日）

平成19年度外国人留学生進学説明会（7月27日）

9 月

平成19年度夏季留学生見学旅行：（於）伊勢神宮と鳥羽水族館
（9月4日～5日）

10 月

開学記念日（10月1日）

福井大学留学生同窓会上海支部教育交流と経済ミッション
（10月1日～10月5日）

日本語研修コース及び日本語研修特別コース開講式（10月5日）

留学生オリエンテーション（10月12日）

日本語研修コース及び日本語研修特別コース授業開始（10月15日）

短期留学プログラム授業開始（10月15日）

全学補講日本語コース授業開始（10月22日）

福井大学祭松岡キャンパス（10月27日～10月28日）

11 月

福井県留学生交流推進協議会総会・運営委員会（11月14日）

平成19年度第2回海外留学・語学研修説明会（11月26日）

12 月

1 月

授業終了（1月25日）

2 月

日本語研修コース修了発表会と日本語研修コース及び

日本語研修特別コース修了式（2月15日）

平成18年度春季留学生見学旅行：（於）京都（2月13日～14日）

3 月

留学生と教職員との交歓会（3月5日）

平成 20 年度

4 月

新入生オリエンテーション海外留学説明会（4月9日）

留学生オリエンテーション（4月18日）

短期留学プログラム授業開始（4月10日）

全学補講日本語コース授業開始（4月21日）

5 月

2008 KOREAN SUMMER SESSION 韓国語・韓国文化プログラム応募
説明会（5月9日）

福井大学祭文京キャンパス（5月30日～6月1日）

6 月

海外留学説明会～アメリカ交換留学・大学院留学～（6月6日）

7 月

International Education Fair（7月11日）

授業終了（7月24日）

8 月

平成20年度外国人留学生進学説明会（8月1日）

9 月

平成20年度夏季留学生見学旅行：（於）飛騨高山（9月10日）

10 月

開学記念日（10月1日）

日本語研修コース開講式（10月10日）

日本語研修コース授業開始（10月14日）

短期留学プログラム授業開始（10月14日）

留学生オリエンテーション（10月17日）

全学補講日本語コース授業開始（10月20日）

福井大学祭松岡キャンパス（10月25日～10月26日）

11 月

福井県留学生交流推進協議会総会・運営委員会（11月7日）

福井大学留学生同窓会国内支部設立大会、第5回留学生国際シンポジム
及び交流会（11月23日）

12 月

海外留学説明会～ワーキングホリデー体験紹介～（12月19日）

1 月

授業終了（1月29日）

2 月

日本語研修コース修了発表会と修了式（2月12日）

平成20年度春季留学生見学旅行：（於）京都（2月10日）

3 月

留学生と教職員との交歓会（3月4日）

平成 21 年度

4 月

- 留学生オリエンテーション（4月17日）
- 短期留学プログラム授業開始（4月10日）
- 全学補講日本語コース授業開始（4月20日）

5 月

- 福井大学祭文京キャンパス（5月29日～5月31日）

7 月

- 授業終了（7月28日）

8 月

- 平成 21 年度外国人留学生進学説明会（7月24日）

9 月

- 日本語能力試験対策クラス授業開始（9月2日）
- 平成 21 年度夏季留学生見学旅行：（於）金沢（9月9日）

10 月

- 開学記念日（10月1日）
- 日本語研修コース及び日本語研修特別コース開講式（10月9日）
- 日本語研修コース及び日本語研修特別コース授業開始（10月19日）
- 短期留学プログラム授業開始（10月13日）
- 留学生オリエンテーション（10月16日）
- 全学補講日本語コース授業開始（10月19日）
- 福井大学祭松岡キャンパス（10月24日～10月25日）

11 月

- 福井大学留学生同窓会国内支部総会「日本企業就職希望者支援のための、日本勤務中先輩留学生及び就職内定者との交流会」（11月22日）

12 月

- 日本語能力試験対策クラス授業終了（12月3日）
- 福井大学留学生同窓会バングラデシュ支部設立大会（12月17日）
- 福井大学留学生同窓会タイ支部大会（12月20日）
- 福井県留学生交流推進協議会総会・運営委員会（12月24日）
- 海外留学説明会～アメリカ交換留学・大学院留学～（12月24日）

1 月

- 授業終了（1月29日）

2 月

- 平成 21 年度春季留学生見学旅行：（於）京都（2月9日）
- 日本語研修コース及び日本語研修特別コース修了発表会と修了式（2月23日）

3 月

- 留学生と教職員との交歓会（3月4日）

5. 福井大学留学生センター規程

福井大学留学生センター規程

平成16年4月1日

福大規程第46号

(趣旨)

第1条 この規程は、福井大学学則（平成16年福大学則第1号）第8条第3項の規定に基づき、福井大学留学生センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、外国人留学生及び海外留学を希望する福井大学（以下「本学」という。）の学生に対し、必要な教育及び指導助言等を行うとともに、教育指導の充実及び留学生交流の推進に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 外国人留学生に対する日本語・日本事情教育に関すること。
- (2) 外国人留学生に対する大学院等入学前予備教育に関すること。
- (3) 外国人留学生に対する修学上及び生活上の指導助言に関すること。
- (4) 海外留学希望学生に対する、修学上及び生活上の指導助言に関すること。
- (5) 留学生教育の充実及び向上のための調査研究に関すること。
- (6) 外国人留学生と地域社会との交流推進に関すること。
- (7) 留学生ネットワーク構築に関すること。
- (8) 福井大学留学生会館に関すること。
- (9) その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(職員)

第4条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 留学生センター長（以下「センター長」という。）
- (2) 留学生センター副センター長（以下「副センター長」という。）
- (3) 専任教員
- (4) その他必要な職員

2 センター長、副センター長及び専任教員の選考に関する必要な事項は、別に定める。

(職務)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 3 専任教員は、センターの業務を処理する。

4 その他の職員は、センターの業務に従事する。

(運営委員会)

第6条 センターの円滑な運営を図るため、福井大学留学生センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第7条 センターの庶務は、学務部国際課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成18年3月30日福大規程第47号）

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

6. 福井大学短期留学プログラム規程

福井大学短期留学プログラム規程

平成 16 年 4 月 1 日

福大規程第 22 号

(短期留学プログラムの設置)

第 1 条 福井大学（以下「本学」という。）に、1 年間の特別の教育課程を編成し、主として英語による教育を行う福井大学短期留学プログラム（以下「短期プログラム」という。）を置く。

(短期プログラムの目的)

第 2 条 短期プログラムは、本学と大学間交流協定又は学部間交流協定を締結している外国の大学等（協定の締結について協議中である大学等を含む。以下「協定校」という。）に在学する学生を受け入れて、当該大学間等の協力及び提携の強化を図るとともに、当該学生が本学において専門分野の知識及び我が国への理解を深めることを目的とする。

(入学資格)

第 3 条 短期プログラムに基づく学生（以下「短期プログラム留学生」という。）として入学することのできる者は、協定校の学部又は大学院の修士課程に在学している学生で、協定に基づく学生の交流に関する覚書による学生とする。

(受入人数)

第 4 条 短期プログラム留学生の受入人数は、年度を通じ 20 人程度とする。

(入学時期)

第 5 条 短期プログラム留学生の入学時期は、原則として次条に規定する秋学期の初めとする。

(学期)

第 6 条 学期は、次の 2 学期とする。

秋学期 10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで

春学期 4 月 1 日から 9 月 30 日まで

(在学期間)

第 7 条 短期プログラム留学生の本学における在学期間は協定で定める期間とし、1 年以内とする。

(身分等)

第 8 条 短期プログラム留学生は、本学において特別聴講学生又は特別研究学生としての身分を有するものとする。

2 短期プログラム留学生は、第 3 条に規定する学部学生にあつては本学関係学部に、同条に規定する大学院修士課程の学生にあつては本学関係大学院研究科（修士課程及び博士前期課程に限るものとする。）に所属するものとする。

(出願手続)

第9条 短期プログラム留学生として入学を志願する者は、所定の期日までに、協定校の大学等の長を経て本学の学長（以下「学長」という。）に願い出なければならない。

(選考)

第10条 前条の入学志願者に対しては、福井大学留学生委員会（以下「委員会」という。）において選考を行い、学部を受け入れる場合にあつては当該学部の教授会、大学院研究科を受け入れる場合にあつては当該研究科の研究科委員会の議を経て、学長が合格者を決定する。

(入学許可)

第11条 学長は、前条の合格者のうち、所定の期日までに、所定の入学手続きを完了した者に対し入学を許可する。

(授業科目、履修方法等)

第12条 短期プログラムの授業科目、履修方法等については、別に定める。

(助言教員等)

第13条 短期プログラム留学生には、関係審議機関の議を経て、助言教員又は指導教員を配置するものとする。

2 助言教員又は指導教員は、短期プログラム留学生が履修を希望する授業科目又は希望する研究内容について、指導を行うものとする。

3 前項において、授業科目を履修する場合は、当該授業担当教員の承認を得なければならない。

(成績の評価)

第14条 授業科目の成績の評価は、学期末に行う定期試験と平素の学習状況とによって授業担当教員が行う。ただし、科目によっては定期試験を省略することができる。

2 授業科目の成績の評価は、優、良、可及び不可の評語をもって表し、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする。

(単位の授与等)

第15条 各授業科目の合格者に対しては、所定の単位を与える。

2 当該学部の長又は当該研究科の長は、短期プログラム留学生に対し、履修科目、成績評価及び単位数を記載した成績証明書を交付する。

(修了等)

第16条 学長は、第12条に規定する履修方法に基づき1年で30単位以上を修得した短期プログラム留学生に対して、関係学部教授会又は大学院研究科委員会の議を経て短期プログラム修了を認定し、短期留学プログラム修了証書を授与する。

(実施体制)

第17条 短期プログラムの実施は、教育地域科学部、教育学研究科、工学部及び工学研究科の協力を得て、留学生センターが当たるものとする。

2 短期プログラムの教育課程の編成その他教育に関する重要な事項は、委員会の議を経て関係学部教授会又は大学院研究科委員会で審議するものとする。

(学則等の準用)

第18条 この規程に定めるもののほか、短期プログラム留学生に関し必要な事項は、本学の学則、大学院学則その他学生に関する諸規則等を準用する。

(事務)

第19条 短期プログラムに関する事務は、学務部留学生課において処理する。

附 則

1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。

2 平成18年3月31日以前の福井大学において短期プログラム留学生として期間延長又は入学（以下「入学等」という。）の選考等を行い、平成18年4月1日に短期プログラム留学生として入学等を許可された者は、この規程の規定に基づき入学等を許可されたものとみなす。

7. 福井大学留学生センター紀要投稿規程

福井大学留学生センター紀要投稿規定

2005年9月1日

1. 投稿資格：福井大学留学生センター所属教員(非常勤を含む)及び当センターにおいて適当と認められた者とする。
 2. 内 容：未発表のものであって日本語・日本事情教育、日本語学、留学生教育、異文化交流、その他当センターにおいて投稿を受けるにふさわしいと認められる内容とする。
 3. 発表形態：研究論文及び研究報告、書評とする。
 4. 書 式：投稿原稿は文字量でB5用紙で40字×30行で10枚程度とし、英文の場合はB5ダブルスペース25枚以内とする。
ただし、図表・参考資料・参考文献・注等はこの範囲に含まない。注は文末注とする。
・引用文献・参考文献は、著者－発行年－題目－雑誌等の名称－巻・号－記載ページの順に記載する。
【例】福井太郎（2001）『福井の歴史』黒龍出版 pp. 30-31（著書の場合）
文京花子（2004）「北陸の自然」『日本××大学紀要』vol. 22、pp. 12-16.（論文の場合）
・注－参考文献の順に配置すること。
・なお、原稿提出時に原稿内容をプロッピーディスク(テキスト形式)に収録し原稿に添えて提出すること。
 5. 要 旨：発表する本文が和文の場合は、論文冒頭に和文による要旨(400字以内)とキーワード(5語以内)を、論文末に英文による要旨(B5用紙を用い200語程度－テキスト形式)を添付すること。また、本文が英文の場合は、論文冒頭に英文による要旨(300語以内)とキーワード(5語以内)を、論文末に和文による要旨(300字程度)を添付すること。
 6. 審 査：投稿された原稿は、当センターが委嘱した査読者により査読を受ける。
 7. 採 否：原稿の採否は査読者の意見を参考に当センターで審議の上決定する。
 8. 著 作 権：投稿された論文の著作権は本センターに帰属する。ただし、論文の著者は、その著作論文について、その内容を転載できるものとする。また、著作権に関して問題が発生した場合、本センターは著者との協議によりその処理を決定するものとする。
8. 提 出 先：〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学留学生センター
紀要編集委員 膽吹 寛 Tel&Fax 0776-27-8023 (膽吹教員室直通)

8. 留学生センター専任教員会議 議事録（平成18年度）

	主要議題及び報告
第1回 (4月2日)	1. 正規学部新入生PTの実施要領 2. 留学生オリエンテーション実施要領 3. センター非常勤講師・謝金講師の採用選考基準について 4. 15週確保に伴うセンター各部門の対応について 報告1. 1. スプリングプログラム in上海(3/8~31) 報告2. 留学生センター予算でカメラ購入 報告3. 「高度実践留學生育成事業参加者募集」の説明会(4/3) 報告4. 平成21年度丹南雇用開発協議会通常総会での講演「企業の国際化と留学生採用」(4/14)
第2回 (5月7日)	1. 21年度センター刊行物編集担当について 2. 3年編入生のPT廃止について 3. 謝金講師採用について 4. 平成20年度留学生センター共通経費決算報告及び平成21年度留学生センター運営予算案について 5. 情報セキュリティ委員会委員選出 報告1. 「アジア人材資金構想」(平成21年度高度実践留學生育成事業)の応募者面接 報告2. 平成21年度国際化拠点整備事業(グローバル30)公募説明会に出席(4/20)
第3回 (6月4日)	1. センター教室確保について 報告1. 中期目標・計画の組織見直しについて 報告2. 留学生センターHP管理予算 報告3. アジア人材資金構想高度実践留學生育成事業第1回協議会(5/28)
第4回 (7月2日)	1. 短期プログラム科目担当非常勤講師の採用人事について 2. 2009年度後期留學生センター時間割について 3. センターR122教室使用について 4. JASSOから留学生センターHP同窓会部分へのリンクについて 報告1. 日本語研修コース「日本語(文化)」の謝金講師 報告2. マラヤ大学予備教育部・日本語コースのアンケート回答(中島教員) 報告3. 平成21年度アジア人材資金構想高度実践留學生育成事業研修(2009/7/4~2010/2/20 毎週土曜日 於:ラウンジ) 報告4. 福井県留學生交流推進協議会第1回運営委員会(7/15) 報告5. 後期全学向け日本語PT担当
第5回 (9月3日)	1. 後期センターPT(案)について 2. 日本語研修コースの授業開始日について 3. オリエンテーションについて 4. 2009年度後期センタープログラム(案)について 5. R111のスクリーン設置 報告1. HP用シラバスを提出 報告2. 日能試対策クラス開始
第6回 (10月1日)	1. 日本語研修コース(案)について 2. 2009年度後期センタープログラム(案)について 3. 紀要収納用書棚の購入と掲示板の移転先について 4. 仮名が未習得の学生への「かな自習教材」配布について 報告1. 全学PT(10/16) 報告2. 日能試対策クラス現況報告(受験予定者等) 報告3. 留学生センターシンポジウム案内(11/13)於:宇都宮大学 報告4. ISO14001ユニット内の研修実施(10/1) 報告5. 上海支部大会出席:中島(10/24)
第7回 (11月5日)	1. 共通教育科目履修要項の改訂(案)について 2. 留学生センター非常勤講師任用計画(案)について 3. 大学会館改修に伴う留学生センター改修工事(案)について 報告1. 2009年度福井大学留學生同窓会日本支部開催(11/22)

<p>第8回 (12月3日)</p>	<p>1. 2010年度日本語能力試験対策講座について 2. 「越前いろはかるた」(20個)を教材としてセンター経費購入 3. 2009年度センターニュース原稿について 報告1. 共通教育科目「日本語」に係る履修の手引き及び履修要項の改正承認(第20回共通教育委員会:11/18) 報告2. 2009年度紀要5号の原稿締め切り:1月15日</p>
<p>第9回 (1月7日)</p>	<p>1. 日能試対策講座(N-1,N-2)に関して授業担当者および授業スケジュールについて 2. 2010年度前期センター時間割について 3. 留学生見学旅行(2月9日)について 報告1. 日本語研修コース修了発表会(2010年2月第1～2週予定) 報告2. 教員の研究費消化 報告3. 福井大学バングラデシュ支部設立 報告4. APECジュニアフォーラム(仮称):留学生の中学校への出前授業(2010年3月)</p>
<p>第10回 (2月4日)</p>	<p>1. 日本語研修コース修了発表会について 2. 留学生センター共通経費の残高について 3. 2010年度日本語能力試験対策講座の概要について 4. 紀要の年報部分のセンターHP(PDF)公開について 5. 2010年度前期時間割について全学向け日本語Ⅱが3限から1限に変更 報告1. 「組織の見直しに係る検討資料」について、各自意見を課長まで提出</p>
<p>第11回 (3月4日)</p>	<p>1. 2010年度前期日本語プログラム(案)について 2. 2010年度前期PTについて 3. オリエンテーションについて 4. 紀要・年報のPDF化とHP掲載について 5. センター刊行物の学内配布先について 6. 2010年度日本語能力試験対策講座について 7. 日本語研修コース成績評価について 報告1. 2009年度日本語能力試験結果 報告2. 2009年後期授業報告締め切り 報告3. 事務局情報セキュリティ委員会への留学生センター教員出席について</p>

9. 福井大学留学生同窓会登録用紙 兼 「こころねっと」向けメッセージ及び住所変更届け用紙

(Form for University of Fukui Alumni Society Registration, cum, Message or Change of Address)

Mail to: Kiyoshi Nakashima, Professor, International Student Center, University of Fukui

3-9-1 Bunkyo , Fukui, Japan 910-8507 Tel/Fax 0776-27-8903,

E-mail: knaka@anc.anc-d.fukui-u.ac.jp

氏名(Name)			
自宅 (Residence)	住所 (Address):		
	Tel:	Fax:	E-mail:
事務所 (Office)	事務所名(Name of Office/Institution):		
	住所 (Address):		
	Tel:	Fax:	E-mail:
福井大学(Fukui University)	在籍期間(Period of Study):		
	在籍学部名等(Name of Dept. etc.):		
	専攻(Major Field):		
通信欄(News or Message from you)			
確認 : 通信欄に書かれたことを「こころねっと」に掲載してもいいですか。 Confirmation: May we print your news or message in our "Kokoronet" ? ⇒ (はい / Yes, いいえ / No)			
提案・要望等 (Any Request or Suggestions?)			
確認 : ここに書かれたことは「こころねっと」に掲載しません。 Confirmation: We will not print your request or suggestions here in our "Kokoronet"			
確認 Confirmation	あなたのe-mail アドレスを「こころねっと」に掲載してもいいですか。 May we print your e-mail address in our "Kokoronet" ? ⇒ (はい / Yes, いいえ / No)		

福井大学留学生センター
自己点検・評価報告書
平成19～21年度

平成23年 2月発行

編集兼
発行者 福井大学留学生センター
〒910-8507 福井市文京3丁目9番1号
電話 0776-27-8021

印刷所 株式会社 エクシート
〒919-0482 福井県坂井市春江町中庄61-32
電話 0776-51-5678
